

群馬県石造文化財総合調査報告書

道祖神と道しるべ

上州の近世石造物(一)

群馬県教育委員会

道祖神と道しるべ

上州の近世石造物(一)

序 文

道端の石垣の上に肩を寄せ合う男女二神、憤怒の形相で邪鬼を踏まえる青面金剛、今は人通りも絶えた旧道の辻に斜めに立つ道しるべ、山裾に林立する百庚申の文字塔などなど。一時代前には、県内各所で普通に見かけた風景です。

最近の社会環境の急激な変化により、これらの石造文化財は危機に瀕しております。他処へ移動され、あるいは瓦礫の如く山積みにされ、首をもがれ、更には不心得者により持ち去られる石仏も少なからずあると聞きます。まさに石造文化財「難」の時代と言つてよいでしょう。

このような現状に鑑み、昭和五十八年度から三か年計画で「石造文化財総合調査」を実施して参りましたが、昭和六十年年度で一応終了し、近世石造文化財保護の基礎資料が集積されたと考えます。

夏の調査では、背文をこえて生い茂る草を切り払い、日影ではヤブ蚊に悩まされ、冬には雪の下から掘り出した石仏の寸法を凍える手で測り、銘文を記録する。また写真撮影では、良い光線を求めて同じ崖を何回もよじ登るといった、難行苦行の連続であったと聞いております。調査に当つた県下七〇市町村二〇〇余名の調査員各位の、このようなご労苦と、各市町村教育委員会の担当職員各位をはじめ本調査に陰に陽にご協力を賜つた皆様方に、改めて深甚なる謝意を表する次第であります。

ここに発刊の運びとなつた調査報告書が、県民各位に活用され、石造文化財ひいては民俗文化財に対するご理解と文化財保護思想の涵養の一助になれば幸甚であります。

昭和六十一年三月三十一日

群馬県教育委員会

教育長 千吉良 覚

目次

序文	1	
凡例	1	
口 絵	1	
上州の石造文化財(概論)	近藤義雄	33
道祖神概説	丸山知良	49
上州の道しるべ	金子規矩雄	62
上州の道祖神(市町村別)		71
上州の道しるべ(市町村別)		259
道標一覧表		317
道祖神塔年代別遺立状況グラフ		318
上州の道祖神分布図		319
石造文化財総合調査調査員名簿		321

凡 例

一、本書は、昭和五八―六〇年度に実施された「石造文化財総合調査に於て、各市町村から提出された調査票をもとに、道祖神及び道標についてまとめたものである。

二、本書の編集は、石造文化財総合調査報告書編集委員会が行った。

三、口絵の写真は、調査票添付の写真のうちから適宜掲載した。

四、道祖神及び道標の一覧表は、市町村毎にまとめ、番号は市町村毎の通し番号とした。

五、表中の「形」については以下の通りである。

- (1) 道祖神 「双」はいわゆる一石双体の道祖神像塔。「別」は、別石の双体道祖神像。「単」は単体道祖神像。「文」は、文字道祖神塔(碑)。「殿」は、石殿(祠)形の道祖神。「自」は、自然石の道祖神。「丸」は、丸石神と呼ばれる道祖神。「棒」は、石棒のうち道祖神として祀られているもの。「他」は、その他の形態で道祖神として祀られているもの。

(2) 道標 「独」は専ら道標として造立されたもの。「銘」は他の目的で造立された石造物に副次的に道標銘を付したものの。「磁」はいわゆる磁石形のもの。「丁」は丁(町)石を示す。

六、「所在地」は、大字以下の地名で示す。

七、「方量」は高さ、巾、総高で示し、高さは主体部(身部)を、巾は主体部の最大巾(但し、石殿、層塔等は屋蓋の最大巾)、総高は地上の最大高を示す。

八、「年代」は元号を用い算用数字で示す。なお、安政七年は「安政7」、寛政庚申年等は「寛政12」のように記し、年号が確定できないものは「不明」とした。

九、「銘文」、原則として調査票の記載のとおりとしたが、以下のように変更した箇所もある。

- (1) 異字・旧字は当用漢字に、変体がなは平がな、又は元の漢字に改めた。
- (2) 文字不明の箇所は「□□」、「□□」のように示した。
- (3) 人数多数の場合は「喜兵衛(外六名略)」「女性名五〇名略」のよう記した。
- (4) 銘文の配列は、適宜変更してある。



六合村入山長平 (弘化3)



倉洲村権田山田 (宝永元)



前橋市関根町赤城神社



前橋市上石倉神明宮 (享保16)



高崎市柴崎町進雄神社 (正徳元)



前橋市西箱田 (元文5)



高崎市貝沢町 (文化15)



高崎市新保田中町 (文化14)



伊勢崎市徳文神社(室暦12)



高崎市元島名町 (寛政12)



沼田市上久屋町 (元文4)



伊勢崎市波志江町 (安政10)

道祖神四



館林市堀工 (宝暦10)



沼田市下川田町(安永8)



藤岡市緑野
百道祖神の1 (享和元)



沼田市屋形原町(天保6)



藤岡市下田野 (元禄8)



館林市羽附



富岡市下黒岩砂田



富岡市吉田 (明和4)



安中市板鼻 (寛政9)



安中市安中 (寛政5)



安中市板鼻 (安政5)



北橋村箱田 (天明 2)



北橋村下南室 (宝暦 8)



赤城村長井小川田 (文化 4)



赤城村北上野 (寛政 4)



大胡町茂木 (寛政7)



富士見村米野 (天明4)



宮城村苗ヶ島 (寛政5)



富士見村市之木場 (宝暦14)



宮城村柏倉 (天明5)



大胡町河原浜 (文化9)

道祖神八



新里村高泉 (寛保3)



粕川村中 (天明5)



黒保根村古屋 (安永8)



粕川村月田 (天明9)



黒保根村湧丸 (寛政3)



新里村関 (弘化3)



榛名町中里田 (宝暦7)



(勢)東村神戸 (明和3)



倉測村権田 (寛永2)



(勢)東村草木



倉測村水沼 (安永7—中央)



榛名町上里見 (天保11)



群馬町三ツ寺 (享和2)



箕郷町矢原 (文化15)



子持村上白井 (文化6)



箕郷町富岡



伊香保町伊香保



小野上村村上



榛東村山子田 (寛政2)



小野上村村上 (寛政12)



榛東村長岡帝 (天明6)



新町5区 (文政10)



吉岡村北下 (文化12)



万場町八幡 (安政4)



吉岡村北下 (明和3)



万場町舟子 (文政4)



新町7区 (寛政13)



下仁田町青倉



中里村神ヶ原 (享保4)



南牧村羽沢 (安永元)



上野村乙母



南牧村門札



下仁田町西野牧



松井田町板本 (弘化3)



甘楽町秋畑 (文化15)



中之条町上沢渡 (寛保3)



甘楽町秋畑 (弘化3)



中之条町五反田 (元禄9)



松井田町上恩賀 (天保15)



長野原町川原湯 (宝暦6)



(吾)東村御園観音 (文政12)



長野原町林 (宝永3～延享3)



(吾)東村屋敷入口 (文政4)



吾妻町金井 (文化4)



吾妻町川戸 (寛延3)



高山村中山新田 (嘉永3)



草津町圓山 (安永3)



草津町前口 (宝曆9)



高山村中山原 (元文5)



六合村世立 (天保2)



利根村輪組 (延享2)



白沢村下古語父



利根村多那



白沢村生枝 (宝曆9)



片品村御座入 (文化元)



川場村門前 (安永2)



片品村築地 (安政2)



川場村湯原



水上町一畝田 (嘉永2)



月夜野町上牧 (享和2)



水上町湯原 (宝曆2)



新治村布施



新治村下羽場 (延享元)



月夜野町後間坂上



玉村町五料 (天明6)



赤堀村五目牛



玉村町角淵 (明和5)



境町東新井 (安永4)



新田町村田 (文政3)



境町北米岡 (文久元)



大間々町塩原



藪塚本町大原



大間々町浅原 (寛政11)



藪塚本町大原 (安永8)



笠懸村鹿 (寛政7)



千代田町舞木 (延享4)



明和村千津井 (享和元)



大泉町吉田 (安政2)

道標一



前橋市西大室町



前橋市上増田 (現市図書館)



太田市東本町



伊勢崎市倭文神社



館林市松原1丁目



沼田市町田町



安中市恵宝沢 (延宝6)



藤岡市藤岡1丁目



赤城村持柏木庚申塚



北橘村真壁



富士見村原之郷



新里村関前不動



大胡町河原浜



榛名町中室田江戸村



宮城村苗ヶ島



倉沢村三ノ倉



粕川村



小野上村村上



箕郷町東明屋



伊香保町水沢



群馬町井出



榛東村広馬場



子持村白井

道標五



南牧村小沢



吉岡村大久保



甘楽町秋畑



新町7区諏訪神社



松井田町松井田



万場町東塩沢



(吾)東村五丁田



中之条町大塚塩原



嬭恋村大笹



吾妻町大戸塩平



草津町泉水



長野原羽根尾



利根村穴原



高山村



川場村谷地 (天保11)



白沢村高平 (延享5)



赤堀村今井 (安永3)



片品村菅沼



境町東町



新治村須川中原



藪塚本町



新田町中江田



笠懸村阿左美（延享4）



尾島町大館（嘉永4）



千代田町新福寺 (安永2)



板倉町実相寺 (正徳5)



大泉町古海 (寛延2)



明和村斗合田 (文政7)

上州の近世石造文化財（概論）

近藤 義雄

一、はじめに

近世石造文化財は、古代・中世に比べて非常にその種類が多い。石材はほとんど地元の安山岩を用い、中世のように凝灰岩や緑泥片岩を遠方から運んできて造立する例は稀である。近世は交通も発展し、物資の交流も盛んであるのに、中世石造文化財とその石材使用が地元中心であったのは何故であろうか。

中世石造物には、緑泥片岩の板碑が利根郡や吾妻郡などでもかなり大きなものも見受けられ、それらの石は遠く荒川上流や多野郡方面から運ばれたものである。また、凝灰岩の石仏や五輪塔など、その産地から離れた遠い地にもある。勢多郡赤城村宮田の石造不動明王像などはその好例である。その原因は特殊な信仰に基づくもので、加工技術が軟かい石材でなければ細工ができなかったわけではない。当時の密教信仰などによるという。

密教では石仏に着色して、より一層神秘性を高める必要があり、板碑は武士階層や僧侶などにより造立されたもので、当時の一般農民の手になるものではない。そこには、近世石造物と古代・中世石造物の信仰上の相違が深く係わっていたからである。

近世石造物は、古代が貴族や大きな権力者の造立、中世の武士中心の特

殊信仰に基づくのに対し、一般庶民層により造立されたのが大部分であるのが特色である。そこには、古代貴族の富も権力もなければ、中世のような切実な信仰に根ざすものでないのが大部分である。近世石造物も大部分が信仰遺物であるが、そこには中世のように戦乱のなかで苦悩し、信仰が生きていた時代ではなく生きていたことが窺える。

例えば、道祖神にしても泰平の世に庶民のユーモアを感じさせられる抱擁型のものが近世中期から多くなるが、そこには中世のような深刻な姿は全く感じられない。六地藏にしても、中世末の時代の人々は、輪廻車を廻してひたすら来世への悲願をこめて祈ったのであろうが、輪廻車孔をもつ六地藏石幢（輪廻塔）は、近世にはその姿を消し、僅かに洪川市の真光寺と子持村双林寺の寛永期のものが二基あるだけである。月待供養塔も非常に多く造立されてくるが、その信仰集団の講中の集りは、一部には切実な願いをこめて信仰する人もあつたろうが、大部分はレクリエーション的である。総じて、近世石造物には前代のような暗さがなくなっているといえよう。三猿の上に青面金剛が勇ましい姿で刻まれていても、封建社会への庶民の生き方は教えられても深刻さはない。遠国の神々や仏を刻んだ石祠や碑にしても、講中の人々は旅の安全・感謝であろうが、そこには信仰とともに多分にレクリエーション的なものがあった。伊勢参宮日記などには京・大阪から四国の琴平までの社寺詣にかこつけた見物旅行であったことが窺える。

このような大きな変化は、近世社会が泰平であつたことと庶民の生活文化が豊かになってきて、真の庶民文化が開花してきたことを示すものであろう。近世石造文化財は、庶民がその造立者であり、前代のような切実な

強い信仰の所産でないから、遠方から特殊な石材を運ぶことなく、身近な石材を用いて造立したのであろう。しかも、庶民にとっては記念物の意図もあるのか硬質の石を選び、いつでも容易に礼拝し、より多くの人の目に触れることのできる路傍や社寺の境内・墓地・塚などに造立されたのである。したがって、造立された石造物は種類も非常に多く、多種多様であり、近世庶民の精神生活をより具体的に示してくれる文化遺産といえるのではなからうか。

なお、近年県下市町村で次々と近世石造文化財報告書が刊行され、また、市町村誌などでも近世の金石文として多く記録されてきている。以下これを参考に本県の近世石造文化財を概観してみたい。

二、造立者

近世の各種石造物の造立者は、個人の惣村中の講中に大別できる。但し、個人名を刻んだものでも、多くは講中の一人として造立したものがかなりある。百庚申や千庚申には個人名を刻んだものが多いが、それは百庚申の一基を個人個人が分担したものであり、安中市下秋間の百馬頭なども馬頭講中の一員としてあげたものがかなり多いと思われる。

純然とした個人造立は、村の有力者が記念に奉納したとか、特別の信仰をもった家で造立するのであり、不慮の災害で子供を失った親が供養に地蔵を造立する。或は行者が個人で不動尊を造立するなどである。一般に石神・石祠よりも仏像の場合に個人の造立が多いのも、それぞれの信仰に基づくからである。

惣村中の造立は、仏より神の場合が多い。鎮守の境内に造立者名のない石祠が多いが、それらの大部分は惣村中の造立であろう。道祖神、天王社（八坂祠）、水神などは路傍や池の中にあるがほとんど惣村中の造立である。

講中の造立例は、大きく二つに区分される。一つは村内の講で、その代表的な例は庚申講・月待講・馬頭講などであろう。庚申講は村落内に十数軒単位につくられることが多く、小さな村落では村中となることもあり、青面金剛像などはいくつかの講中がともに同一の像をまつる。月待講には女人講が多く、邑楽郡の渡良瀬川よりの地方には十九夜塔、太田市から西毛地方にかけては二十二夜塔が多く、利根郡地方には二十一夜塔が多い。時には十六夜塔・十七夜塔（太田市）などが見受けられる。これらのなかには、世話人は男性であるが講員は女性で、渋川市金井の二十二夜塔のように広範囲にわたる百人ほどの女性の信仰により造立されたものもある。念仏供養塔なども念仏講中の造立で、寒念仏塔や地藏像を造立しているものもある。建築関係の職人は、聖徳太子の碑や像を造立してまつる。珍らしいのは渋川市真光寺境内にある安政三年（一八五六）の一千歳の碑である。一千歳碑は屋敷職人の講中四十数名により造立されたものである。天神社や道祖神は、惣村中の造立であろうが、その祭礼は子供が主役であった。

このような地縁集団・職業集団・信仰集団・女性集団、年齢集団などの地域の集団により、近世の多くの石造文化財は造立されたのである。

代参講中により造立されたものには、遠方の神々や碑がある。琴平（金毘羅）社・秋葉社・富士宮・諏訪社・八幡社をはじめ、出羽三山や阿夫利

山の石尊権現、御獄などの碑も各所にある。代参社は無事代参をすませた記念に鎮守に灯籠や狛犬・鳥居・玉垣などを献納した例も多い。伊勢参宮などは、代参者が村を立つときはお仮屋をつくり、留守中家族は道中の無事を折ってお参りした。代参が一巡したのでその記念に石祠を造立したのであつたらう。

このように近世中期以後遠方の神仏への代参講が発展した背景には、有名社寺の御師とよばれる神人団の活動、或は行者・修験者等が先達となり民衆への布教活動が大きく係わつてきていたからである。なかでも御師の活動は盛んであつたようである。

御師の活動 近世も中頃になると、庶民の社寺詣にかこつけた旅行も多くなる。この旅行はたいてい講中をつくり、代表者を何名か送つて代参するのが一般的であり、その指導助誘にあつたのが御師たちである。御師は秋の収穫後受持の村々を廻り、御初穂料を集めて代参者の参詣などの打合わせをする。その代参講が近世末にはかなり多くなり、講中では鎮守の境内に石宮をつくり有名社寺を勧誘して廻り所とした。その結果どの村々にも遠方の神々の石祠があり、いまではこの神社の分社だか不明になつてしまつたのも多く見受けられる。

このような御師の活動は、神社や御師の財源にもなり、定例の外に社寺修葺や大祭などの資金動化が次第に増加し、なかには偽御師の動化まであり村人の負担となつてきた。その結果、村々では一定の御師以外は断る村議定までしている。一村だけでは断りきれないこともあり、連合村協定して排除することもできている。つぎに示す資料は、前橋藩向領三十三ヶ村議定書であるが、向領とは利根川右岸の旧群馬郡の前橋領で、文化十三

年（一八一六）に三十三ヶ村の名主・組頭・長百姓が連署し、村々に入つてくる様々なだりを排除しようとしたものである。全体が八ヶ条になつていて、その一条目に、「近年浪人・林之者、旅僧、修験、瞽女、座頭並御師動化僧、難船之者等多数排廻致合力動化、初穂等過分にねだり取候故」とあり、その六条目につきのようない文がある。

一、御師之儀は

伊勢 津島 榛名 碓氷 鹿嶋 愛宕 戸隠 石尊右之御師先規之通取斗可申候旨先前参来之御師、而茂右之外百石ニ付三文差出可申候、何様申候共其余者差出申間敷候、且又新規之御師決而請不申候

（総社町誌 福島博家文書）

右によると、この八社以外は百石に付三文以上は支出しない協定である。一般的にはこの八ヶ所は対象外として認められたのであり、これらの石祠が多くある村々にあるのも古くからの御師の活動と結びついてきたからである。右のうち、伊勢・榛名・鹿嶋・戸隠はよく知られているが、津島は尾張の津島牛頭天王社で、一般には八坂様として村々に勧誘されてあり、伊勢参宮にはほとんどが津島参りもしている。伊勢参りだけでは「片参り」といわれ、両者をお参りしないとよくないとまでいわれてきている。碓氷は碓氷峠の熊野神社であり、石尊は相模の阿夫利神社である。石尊の場合は石祠よりも石碑や石灯籠などを造立した例が多い。

右の協定は榛名東麓の例であるが、県内各地で御師のくる神社が異なる。伊勢・津島は県内共通であるが、赤城・妙義・秩父三ヶ峰などの多くの講社が結成されている地域もあり、各地の石祠の相違はそれを証明してくれよう。代参講は御師の活動と関係深く、その講中により造立された石造物

はかなり多いものである。

三、種 類

近世の石造文化財の大部分は信仰遺物であり、民衆の個人または集団により造立されたものであり、いわば近世庶民信仰の重要資料である。

道しるべ、石橋などは、一見信仰に係わりなさそうであるが、道しるべのなかには有名社寺への道しるべが相当ある。近世庶民の三十三番札所巡りがさかんになると、郡単位にまで三十三番札所ができ、人々は道しるべを必要としてきた。なかには洪川市八木原の道しるべのように伊勢や四国の金毘羅まで示した天保四年（一八三三）の道しるべがある。古いものには有名霊場を教えたものも多いのもそのためであろう。また、石橋架橋に伴った橋供養碑もある。中山道の豊岡と板鼻宿との境の享和二年（一八〇二）の橋供養碑は古くからよく知られている。

信仰遺物が中心であることから、近世石造物を大別すると、神道関係・仏教関係・記念物になる。記念物も大部分は神・仏いづれかに大部分が入れられるので、二大区分により記すこととする。

神道関係

この種の石造物は石祠・石碑とその奉納品であり、なかには神仏習合時代のため神仏の両分野にまたがるものもある。庚申などは、背面金剛は仏教に属するが、庚申信仰は古く日本の山の神信仰の発展で、近世初期には石宮の庚申が多く、修験などが深い係わりをもっているので明確に区分し得ない。その結果、神道関係石造物は、近くの神・遠方の神・民俗信仰の

神・奉納品に大別する。

近くの神 一応上野国内に本社をもつ神々で、赤城神社・榛名神社・妙義神社・貫前神社・甲波宿弥神社などの石祠が多く、加茂神社や美和神社のような神々も上野十二社として古代から地方の本社のような役割を果たしてきているので土地の神とみてよいのではなからうか、鎮守の社殿裏に上野十二社の石祠の並んでいる例は各地にある。この種の石祠には、近くの山や川を祭神にして祀る地方的な例も多く、利根郡地方の武尊神社、吾妻地方の白根神社など、近くの山を祖霊の山として信仰し、村里に石宮を造立していたのである。

遠方の神 この種の神には、八幡・天神・八坂（牛頭天王）・鹿嶋・富士浅間などが多い。八幡神社は上野神明帳には登載されていないが、中世以来武神として源氏の守護神となり、やがて農業神としても広く信仰されて伝播した。八幡神の多くは宇佐の本社からでなく鎌倉鶴ヶ岡八幡からの勧請のようである。屋敷神として八幡石祠をもつ家も相当多い。天神は元来は悪霊信仰であり、菅原道真の霊を鎮めるため北野の神人団が祭つたにはじまるが、近世は道真を学問の神とし、子供組に天神侍などが普及し、近世中期以後の寺子屋の普及とともに各地に祀られるようになった。八幡神社は夏越しの疫病除けの神として全県に普及し、一部宿場には市神として祀られている。これは尾張の津島神社からの勧請が大部分である。富士浅間神社は、富士講などの発展により全県ではあるが邑楽郡地方には特に多い。館林の浅間神社の初山詣の信仰もあるが、高く塚を築いて祀るので水害に苦しむ地方の人々の生活が一層富士信仰を盛んにしたのかも知れない。鹿島や香取の石祠はそう多くはないが、代参講が普及していたから

であろう。この他熊野・春日・諏訪・出羽三山・相模の石尊様・秩父三峰・遠川秋葉などの神々が各地に見受けられる。

民俗的な神 この種の神々は、特定の本社をもたないが全国的に分布している神が多いものである。十二様・水神・地神・疱瘡神・道祖神・稲荷などがこの種の神としては多い。稲荷の場合は、伏見稲荷や笠間稲荷を本社としてそこから勧請したものもあるが、屋敷稲荷が代表するように地の神であり穀物神である。水神は本地は弁才天であるが、多くは石祠であり、宇加神像や弁才天像は少ない。地神は東毛では大泉町小泉の社日様が広く知られ、渋川地方では堅牢地神として祀られている。道祖神は、中毛から西毛に多く、二神并列像か文字塔であるが、一神型も渋川市等にある。特に榛名山周辺と赤城山南面に多く、板倉町などには二神并列型は一基しかない、太田市でも文字塔二基、二神并列型一基の計四基しかない。

献納品 神社境内には鳥居・水盤・狛犬・唐獅子・灯籠・玉垣などの各種献納の石造物がある。これらについては赤城の百足鳥居以外は大きな特色のあるものはないが、高遠石工の作になる鳥居などが赤城村などに多い。また、水盤では、渋川市の甲波宿弥神社の大蛇の形のものなどは特色がある。狛犬では碓氷熊野神社や粕川村月田の近戸神社などには中世にまで遡り得る古いものがあるが、他はすべて近世でそう古い銘のあるものも見受けられない。灯籠には赤城村宮田神社や妙義町の妙義神社に中世のものもあるが、他はほとんど近世であり、高遠石工の作が目立つ。また、世良田東照宮などには大名寄進のものもある。玉垣は有名社寺は講中寄進が多いが、榛名神社の塩原太助奉納のものは広く知られている。

仏教関係

神道関係は祈願を主とするものが大部分であったが、仏教関係は供養のために造立された石造物がかなり多くなる。地藏信仰はその代表的なものであるが、宝篋印塔、回國塔などいずれも追善供養が大部分である。しかし、石像の多くは仏像であることから、仏教的立場で分類すると如来・菩薩・明王・天部・羅漢及び祖師像・供養に関する碑などに大別して概観することとする。

如来 釈迦如来・薬師如来・大日如来などが主で、なかでも薬師が古くから現世利益の仏として、厄除け・治病の信仰から造立されてきた。願果しに奉納された小さな薬師像がまわりに沢山あるのもよく見受けられる。釈迦如来は禅宗寺院では本尊に安置しているがそう多くはない。大日如来は修験や真言宗に多く尊崇された仏で、地方によってはかなり多い。渋川市内だけでも四〇体近い大日如来の石像があり、赤城村では一八体もある。それに比べ新田町では四体、板倉町では四〇体、伊勢崎では二体と文字塔四基である。この大きな地域差は、渋川市や赤城村では修験の影響が大きく、特に角田無幻などの影響が考えられる。また、板倉町の場合はほとんどの寺が真言宗であることにもよるのであろうか。一方、伊勢崎に少ないのは、天台宗や禅宗が多く、真言宗の教線が弱いことが考えられる。

菩薩 観音・勢至・地藏が菩薩の代表的仏である。観音には多くの種類があり、なかでも一番多いのは馬頭観音である。馬頭観音は元来三面六臂の忿怒像で、除魔の仏とされていたが、近世の信仰は馬を加護する仏として信仰され、愛馬の死後供養のために造立されたものも多い。伊勢崎市の場合、馬頭は一五六基で文字塔が大部分である。同市の三光町の嘉永五年(一

八五二の馬頭観音像には「大館村付方中」など二〇か村余の村名が刻まれている。問屋を中心とした交通業者や馬喰などの寄進であろう。馬が交通業者や農民にとっていかに重要な役割を果たしていたかを偲ばせる珍しい像といえよう。しかし、地域的にはかなりの相違がある。赤城村の二八六基に対し、板倉町二五基と少ない。平野部より山寄りが一層馬と人間の係わりの大きかったことを物語る。安中市下秋馬の百馬頭も珍しい例であろう。

地藏菩薩像は、全果的に平均して多い。中世以来地藏信仰が盛んになり、近世になると墓地の入口に六地藏を並べた例も多い。不慮の死者の霊を供養するための地藏を造立した例も各地にある。子持村双林寺と渋川真光寺境内にある寛永年代の六地藏石幢は、輪廻車孔をもつものとして、戦国時代以後ほとんどなくなつたなかで珍しい例であろう。元禄・享保の頃の六地藏石幢は各地で見受けられるが、輪廻車孔をもつものは見当らない。一石三体・一石六対を並べたものもある。

なお、榛名山周辺には、榛名神社の本地仏である勝軍地藏が何体か見受けられる。その勝軍地藏が板倉町に一体あるのは珍らしい。榛名神社とは特に係わりはなさそうである。また、この他菩薩界の像には虚空蔵・文殊・馬鳴などの菩薩も数は少ないが各地で見受けられる。虚空蔵は赤城信仰・馬鳴菩薩は養蚕との関係がある仏像である。

明王 不動明王・愛染明王・閻魔王・十王などが明王部の代表的な仏像であり、不動は修験と深い係わりあり、大日の変身として災難除去・治病の仏として古くから信仰され、修験の行場となる滝のあるところや山村に多く見受けられるが、元禄以前の作は少ない。珍らしいのは尾島町安養寺



尾島町安養寺明王院の千体不動

の千体不動であろう。江戸浅草の石工による享享四年の作である。

十王・閻魔王は、地藏・拳衣婆とともにセツトで造立されている例が多く、地藏十王経に基づくものである。中毛から北毛地方に多く、利根郡地方では曹洞宗寺院の境内や墓地に見受けられることが多い。群馬町引間の十王堂（公開堂）には、近世初期の石像が一セツト揃っている。

愛染明王は、紺屋の職人が愛染講をつくり祭る。高崎市下小島町の蓮華院が宝永五年（一七〇八）であるから県下では早い例のようである。

天部 毘沙門天などの四天王・大黒天・摩利支天などがある。なかでも広く見受けられるのは大黒天であり、大黒講中により造立されるのが多い。甲子構も大黒天の神使が鼠であることから大黒講と同様である。五穀豊稔と福徳をもたらすとして信仰され、丸彫像が多い。県内では近世中期以後で、そう古いものはない。摩利支天像は修験者や剣を学ぶ人などに祭られる。吉井町馬庭念流道場の樋口家の庭に祭られているのはよく知られているが、ほとんどが近世中期以後のものである。また、毘沙門天は忿怒相の武神像で、上杉謙信の深く信仰していた関係から長尾氏とも関係がある。

伊勢崎村豊城町の蓮神社には室町時代の石像がある。同市には他に三か所も室町時代の石造毘沙門天像がある。(伊勢崎の近世石造物)のは珍しい。長尾氏との係わりがあったのであろうか。しかし、近世の石像は非常に少ない。

羅漢及び祖師像等 五百羅漢は川越市の喜多院が有名である。県内にも何か所かあり、藤岡市の七興山古墳の中段の五百羅漢は心ない者の仕業により頭部が欠けているのが惜しまれる。祖師像では弘法大師像が多い。榛名町の室田地方から西には小字毎にあったようである。二十一大師ともいわれ、二十一ヶ所に造立され、それを札所巡りのように巡拝したのであろう。特に真言宗との係わりはなさそうである。

供養塔・日待・月待塔 供養塔には經典供養・回國供養の塔が多い。墓地には三界万霊供養塔や宝篋印供養塔が多く見受けられる。いずれも近世中期以後で、寛永期まで上るものはほとんど見受けられない。念仏塔も供養塔であるが、百万遍念仏・寒念仏などあり、一字一石供養塔も数は少ないが各地に分布している。日待・月待塔では、十六夜塔から十七夜・十九夜・二十一夜・二十三夜・二十六夜塔などが県内にある。いずれもそう古いものはない。近世中期以後であり、その分布は既に記したように特色あり、十六夜・十七夜・二十六夜は稀であり、十九夜は邑楽郡でも渡良瀬川より、二十一夜は中毛に、二十一夜は北毛に多い。それでも十九夜塔が渋川市や六合村、嬬恋村・下仁田町・南牧村などにも一―二基見受けられるのは、古くは十九夜が西毛地方にまで広く信仰されていたのであろうと都九十九一氏はいう。月待は女人講が主で、月の上るのを念仏を唱えながら拝んだのである。

庚申塔も供養塔の一種である。庚申講は日待講で、六十日目、或は六十日目にめぐってくる庚申の日や庚申の年を祭る講である。県下では桐生市川内町の千手寺庚申七面塔が古く、七地蔵を籠部に刻み、二段の竿石に、「奉大乗之部 石燈供養 六道能化地藏 薩埵尊容 現世安穩 後生善処也 天文十七年 戊申八月日 庚申七面塔 西小倉村旦那椅会座」(桐生市の文化財)とあり、地藏信仰と庚申信仰が合わさっている。庚申単独のものは寛永期からのものが何基かあり、群馬町引間諏訪神社境内の「寛永十年 癸十月朔日 奉造立石塔一基 庚申供養」とあるのは早い例であろう。一般に早い時期の庚申石造物は石祠型や塔型・舟型・光背石塔で、五重塔型は北毛地方に多く見受けられる。青面金剛像は寛文から享保頃までのものが多く、東毛にすぐれたものが目立つ。千庚申は少例であるが百庚申は各地にあり、群馬町足門には嘉永三年(一八五〇)に一石百通りの書体で庚申と刻んだ塔もある。

庚申塔の造立は個人名のもも多いが、講中の一員として造立する場合が多く、庚申の年には特に多く造立されている。太田市の場合庚申塔二二五基中、寛政十二年(一八〇〇)六六基、万延元年(二八六〇)八八基で、この二回の庚申の年に一五四基も造立された。

四、地方差・時代差

地域差 近世石造物は、その種類も多く地方的に相違の目立つものもある。概していえば、数量的には神流川の谷は特に少なく、榛名山周辺が最も多く、赤城西面から南面および桐生周辺にかけて山寄りがこれにつぐ。

また、石造物の種類をみると、道祖神は東毛に少なく、中毛・西毛・北毛に多い。特に榛名山周辺は多い。また、十王石仏なども東毛に少なく、利根郡から赤城西面および北群馬郡・群馬郡などに多い。しかし、十九夜塔は館林市から板倉町にかけて多く、中毛・西毛・北毛にはほとんどない。一方二十二夜が中毛に、二十一夜が北毛に多い。

このような地方的に種類を異にするのに対し、全県的に多いのは庚申塔と馬頭観音と地藏・回國供養塔などで、若干の濃淡はあるが全県下いたるところに見受けられる。また、数的には多くないが、どの地方にも何基かあるものには八坂・天神などの石祠がある。限られた特定地域にも何基かでは勝軍地藏がある。堅牢地神の碑は渋川市を中心とする地方には少例ではあるが目につき、他地域には極めて稀である。勝軍地藏は榛名神社の本拠地であるから榛名山周辺、特に吾妻郡地方にあるのは理解できるが、堅牢地神の場合ほどのように解したらよいのであろうか。関東天台の名僧尊海が弘安八年（一一八五）二月に記した起請文には

立申圓頓房尊海起請文事

右件元意者、被授の断位の法門相伝しまいらせしを、尊海の一期に補授弟子一人よりほかに、一人までにおしへず候。弘めをもし候ものならば、上は梵天帝釈をはじめたてまつりて、四禪八定天衆、下にはけんらう地神等、悉一切の諸神、惣者日本六十余州大小神祇、とをくは十方三世一切の三尊の御はちを、尊海が身のうへにあたりて、現世にみやうがなく、後世には三惡道におち申べく候、仍起請文帖如件。

弘安八年二月十八日敬白 尊海判

（河田谷十九通）

とある。鎌倉時代の起請文にまで記された堅牢地神は、恐らく當時は地の神として広く一般に信仰されたものであろう。それが次第に忘れられ、僅かではあるが、渋川地方以外にも何基かその石碑があるのは、かつては広く一般的であったことによる。渋川市、子持村、赤城村などに多く見られるのは、この地方の修験か特定の仏教徒などの指導があつたかと思われるが、古い時代は各地で祭られていたのが次第に忘れ去られ、一部近世末に復活したように考えられる。このような観点からみると、十九夜塔が板倉町に多く、遠く隔てた六合村や南牧村にあるのも、古くは全県的に十九夜の信仰があり、それが二十二夜、二十三夜の信仰に次第にうすめられていったのが中毛・西毛地方の月待信仰の変化ではなからうか。

つぎに、同一信仰のもので、地方によりその石造形式の相違が見られるものもある。その好例は既に記した五重塔型の庚申塔が利根郡から北群馬郡地方に多いのがよく知られている。なお、庚申や道祖神は別項で詳述しているので参照していただきたい。

時代差 近世の石造物の造立年代をみると、その種類によって時期に相違がある。近世初期から見えるものは、石殿・石祠、燈籠、道祖神、庚申塔などに早い例が見られる。石殿・石祠は群馬では南北朝時代からあり、近世初期のものも西毛地方ではかなりある。一般に草屋根風の寄棟造りや入母屋造りに中世末のものがあり、流れ造りでは中世のものほとんどない。しかし、入母屋造りや流れ造りの場合、棟の両端に懸面を刻んだものが近世初期に見られる。主に寛永期を中心とした前後のころのものに多く、元禄期以後は鬼面をつけた石殿・石祠はほとんどなくなる。木造の寺院建築を模したものであろう。

石灯笼も中世銘のものが県内にはある。近世初期に大名が東照宮などに奉納したのにならい有力庶民が社寺に奉納しはじめる。太田市別所の円福寺には大猷院殿前に高村拱津守忠房の寄進した慶安四年(一六五五)の石灯笼があり、同市大光院には延宝二年(一六七四)の阿部播磨守正能寄進元禄十一年(一六九八)酒井下野守忠寛寄進などがある。庶民奉納では、新田町小金井の東雲寺に山崎兵左衛門寄進の寛文八年(一六六八)があり、同町上田中の長慶寺にも寛文十一年の灯笼がある。これらは庶民奉納では早い例であろう。元禄期になると各地に庶民奉納例を見かけるようになる。道視神・庚申については別項で詳述されるので省略するが、寛水期の道祖神は僧形であり、元禄期には坐り雛の形のものがある。烏川上流地方に古い道祖神が多く、抱擁型は十八世紀後半から見られるようになる。また、青面金剛像は十八世紀前半のものが多い。

つぎに総合的にみて、庶民の石造物を造立するのが一般的にいつ頃から多くなってくるのだろうか。十七世紀末(元禄期)から多くなるのが一般的であるが、本来道祖神や青面金剛像など信仰対象の石神・石仏は、一度造立すれば滅失しない限り新たに造立しなくても足りるはずであるが、時代とともに増加してくる。旧群馬郡四カ村の『府中資料集成二輯』では二十年おきに集計した表があるのでまずそれを示すと一表のとおりであり、資料の関係から約半世紀毎に『太田市石美術調査報告書』と『赤城村の石造物』をまとめると二表のとおりとなる。十七世紀後半から増加し、更に十八世紀後半は急増している。それは庶民の力が次第に大きくなるのを数的に表現されたとみてよいのではなからうか。この近世石造物の増加と反比例になるのが農村人口の減少であり、それは農民の消極的反抗を示すも

のであり、幕藩体制の封建社会が次第に崩れかけたことである。石造物造立の増加は庶民勢力の伸張を示すものといえよう。まして道祖神などのようにユーモア的表現が増加してくるのは一層それを感じさせよう。

(表1) 旧群馬郡四町村の近世石神・石仏年代別集計表

年代	種別	庚申塔	道祖神	夜二十二塔	馬頭尊	廻供国兼	八神版社	念仏供	黄納経	その他	計
寛永以前		1	0	0	0	0	1	1	12	15	
寛永以後一貞享	4	7	0	0	0	0	0	2	11	20	
元禄元一宝永	4	3	0	0	0	0	0	4	2	9	
宝永5一享保12	7	2	1	1	10	0	14	5	40		
享保13一延享4	9	3	0	1	5	0	19	6	43		
寛永元一明和4	3	8	2	2	6	0	15	6	42		
明和5一天明7	3	5	2	6	7	0	17	13	53		
天明8一文化4	16	3	5	2	3	3	5	9	46		
文化5一文政10	8	1	4	4	3	0	3	10	33		
文政11一弘化4	10	2	8	3	1	1	1	9	35		
嘉永元一慶応3	20	2	4	8	3	2	1	18	58		
明治元一明治20	2	0	1	5	0	0	1	17	26		
明治21一明治40	12	0	0	0	0	1	1	11	25		
明治41一大正15	9	0	1	7	1	2	2	4	26		
昭和元年以降		21	1	0	0	0	2	2	5	31	
半券不明一		500	17	3	14	3	5	12	98	652	
合計		631	44	31	53	42	17	100	236	1154	

※ 旧群馬郡四町村は清里村、金古町、国府村、総社町で、区分は明治元年を基準とし、20年間隔で集計した。

(表2) 村別、年代別近世石造物比較表

年 代	町 村 名	
	赤 城 村	太 田 市
元 和 元-明 暦 3 1615 - 1657	11	2
万 治 元-元 禄 14 1658 - 1703	48	74
宝 永 元-寛 延 3 1704 - 1750	151	271
宝 暦 元-寛 政 12 1751 - 1800	362	409
享 和 元-嘉 永 6 1801 - 1807	308	255
安 政 元-慶 応 3 1854 - 1867	133	164

※本表は「赤城村の石造物」・「太田市石造美術調査報告書」の年号別集計表から約50年間隔にまとめた。年号別集計では長期のものと短期のものとの差が大きく、傾向をつかむのには適当でないため、集約した。

五、石 工

石工と刻んだ石造物は中世にはほとんど見受けられず、石大工・大工と刻まれている。当時は梵鐘や懸仏を铸造した職人も大工であり、大工とはそれぞれの職人の頭の称である。榛名山墓地の暦応四年(一一三九)の石造宝塔には「大工吉奈」とあり、赤城村宮田神社境内の嘉吉三年(一一四四三)の石燈籠には「大工道心」とある。

中世の上州の石大工は、当然近世へその技を伝えたであろうが、伊派の技術が伝えられたことが考えられる。伊派は、鎌倉時代初期に東大寺大仏殿再興に従事し、その子伊行吉とともに活躍して伊派は各地に伝播した。その伊派の石大工たちは「行」「吉」などの一字を名に加えることが多く、榛名山墓地の宝塔などはこの伊派かとも考えられる。すぐれた中世石造物にはこの伊派の系統かと思われる関西風のものも見受けられる。

近世になると、庶民の造立による石造物が急増する。しかし、中世以来の石大工の系統をうけた上州の石工たちも相当いたのであろうが、上州で生まれた石工集団といえるものは見当らない。江戸や信州の石工集団の影響が強かったようである。

江戸石工 江戸の石工集団は、江戸城の築城と大いに関係がある。徳川氏は太田道灌以来の江戸城を文禄元年(一一五九二)、慶長九年(一一六〇四)から寛永十三年(一一六三六)にかけて大規模の拡張工事を行っている。このとき、全国各地から石工を江戸に集め、石材などは諸大名に命じて江戸に輸送させている。伊豆方面からも大量に海上輸送されたようであるが、上

州からも利根川の水運により石材輸送がなされた。前橋市下大屋町の産奈神社境内には江戸城の石を載出したと伝える場所があり、社殿東北の境内地に人口の崖がつくられている。

このように江戸城修築に集められた石工たちは、城の完成後も日光造営をはじめ各地の徳川氏をはじめ大名の社寺修葺があり、そこに献納する石燈籠や鳥居の製作にあたった。その為江戸には石工集団が形成され、関西から来た石工は和泉屋、伊勢屋などという石工集団をつくり、江戸に本拠を構えた。その江戸石工の集団は、当然上州へも大きく影響し、近世石造物に江戸石工の名が比較的早い時代に見える。

界内の江戸石工の作例をみると、東毛から中毛にかけて見られる。館林市の茂林寺境内元禄三年（一六九〇）の銅製聖観音像の台石には

従江戸運石其外指図 川保村金右衛門重春

江戸松尾町泉屋勘右衛門

（六編・三野谷の石仏）

とあり、この聖観音は有名な高瀬善兵衛の關係者によるものである。

また、甘楽郡妙義町の妙義神社本社前の石垣中央の銘文には

延享甲子六月

石階造修工匠武州江府壹岸島近藤利兵衛

とあり、同社の宝暦六年十二月一日の棟札は

信州高遠石切 二六人

江戸石切 一人

とある。界内で最も見事な石垣といわれる妙義神社の石垣は、古くは江戸石工により、後に高遠と江戸とあるから、江戸石工の得意とする城郭風

の立派な石垣が完成したのであろう。「太田市石造美術報告書」には、小舞木の円養寺の正徳元年（一七一〇）の地藏菩薩像が「江戸浅草 石工五郎兵衛」とあり、「伊勢崎の近世石造物」には、宝暦十二年（一七六二）の昭和町天増寺地藏丸彫像台石に

宝暦十二年六月廿四日 天増寺現任万機代

尊像世話人 武州提村 戸矢三良左衛門

石工 江戸北八町堀 和泉屋 治良右衛門

とある。この外尾島町の安養寺の千体不動（延享四年）、前橋市下大屋町産奈神社の水盤などが知られている。

以上からみて、江戸石工は近世中期以前の作が多く、有名社寺などに奉納する石造物や工事などが主のようであり、城郭の石垣技術を生かしたものが多かったのではなからうか。安養寺の千体不動などは、ピラミッド状に組み上げられたものであり、妙義神社の石垣はよくそれを物語る。また、江戸石工の作品分布は、主に中毛から東毛のようであり、江戸中期以後は信州高遠石工や上州在地の石工たちが発展し、特殊な社寺に限られたようである。なお、小花波平六氏研究による近世末の江戸石工十三組の表を参考までにつぎにあげておこう。

江戸石工十三組

- 1 本所組 二四人 本所新坂町山口屋平四郎ほか
- 2 浅草組 二八人 浅草観蔵院門前真間田屋忠左衛門ほか
- 3 柳原組 三一人 浅草万蔵寺門前和泉屋九兵衛ほか
- 4 筋違組 二六人 神田旅籠町和泉屋与四郎ほか
- 5 谷中組 一四人 自性院門前和泉屋安兵衛ほか

6 駒込組	一三人	小石川和泉屋五郎兵衛ほか
7 市ヶ谷組	一七人	牛込原町平田屋四郎右衛門ほか
8 四ッ谷組	一三人	四ッ谷伝馬町遠州屋清兵衛ほか
9 麻布組	一二人	麻布六本木高井屋五郎兵衛ほか
10 伊皿子組	九人	伊皿子町伊勢屋与兵衛ほか
11 芝組	八人	三田四丁目遠州屋八左衛門ほか
12 八丁堀組	四二人	京橋東石田屋左右衛門ほか
13 深田組	一人	深川平野町岩槻屋源兵衛ほか
合 計	二六八人	

（伊勢崎の近世石造物）八三八頁）

高遠石工 江戸石工が近世領主と結ばれて比較的早くに上州へ進出したのに対し、高遠石工が上州で活躍するのは一時代遅れてからのようである。それは、近世庶民勢力が台頭する江戸中期からで、上州にその作品が残っているものでは富岡市七日市の金剛寺入口の「高遠町 石屋 上原甚兵衛」と刻まれている元禄四年（一六九二）のが最も古いといわれ、享保期になるとその作例が多くなる。

群馬県で高遠石工に早く注目していたのは住谷修氏である。昭和二十五年に住谷修・榎田宏・阿久津宗二・近藤義雄が国府村・金古町・清里村・総社町の旧四町村の石神・石仏を調査し、府中資料集成第一集「郷土信仰資料篇」（近藤義雄編）として刊行した際、高遠石工の上州進出について話しておられた。その解説にも注目すべしと記されている。その後同氏は各地の高遠石工の作例を調査され、現在は相当多くの高遠石工の作例を調査され、現在は相当多くの高遠石工の作例を記録されている。なお、府中

資料集のなかにも、金古町四ッ家常仙寺入口の文化十二年の二十二夜塔に「石工 信州高遠 御堂垣宿 中屋太蔵」などが記録されている。その後県内の町村誌や県教委の民俗調査報告書、「勢多郡誌」編纂過程でも多くの人が高遠石工の上州進出について注目するようになった。近年故今井善一郎氏が「群馬歴史散歩」一〇号（昭和五〇年）に信州高遠石工のリスト作製を提案し、以後同誌に各地の報告が散見し、「伊勢崎の近世石造物」には板橋春夫氏の小論が掲げられているのが注目される。

以上が群馬県下における高遠石工研究の歩みであるが、一方高遠の地元の研究者たちも「貞治の石仏」刊行以来「高遠町誌上巻」に大塚省悟氏が群馬県下の高遠石工の分布図や多くの作例を紹介している。今回の県内近世石造文化財の悉皆調査では、更にその作例が多く記録されているので注目していただきたい。

群馬県下における高遠石工の進出状況を見ると、西毛から中毛地方に多くその作品をみることが出来る。既刊の市町村別石造文化財調査報告からみると、板倉町には高遠石工の作例は一基もない。館林市「六郷・三野谷の石仏」には、文化六年（一八〇九）と天保一四年（一八四三）に灯籠が二例あるだけで、「太田市石造美術調査報告書」には、別所円福寺境内の文政二年（一八一九）の千手観音像に「石工信州高遠領北原村北原九兵衛信行」とあるのが一例だけである。但し、円福寺の安政二年（一八五五）の水盤に「境町石工北原玄蕃好視・朽木常吉」とあるのは、境町に住みついていた高遠石工であろう。高遠石工の上州進出は太田辺が一応の境界のようである。

一方、西上州にはその作例が多い。「赤城村の石造文化財」には、享保

三年（二七一八）の青面金剛像を初発に、銘文の明らかなものだけでもつぎの一七基がある。

- 1 青面金剛像 享保三年 溝呂木クラブ入口
「信州高遠 保科安之丞作」
- 2 青面金剛像 享保七年 上三原田巖谷戸地藏塚
「信州高遠領 石屋彦四郎」
- 3 青面金剛像 元文化元年 津久田高科十王堂
「石屋 信州高遠 安三郎」
- 4 鳥 居 宝曆三年 津久田赤城神社
「石工 安兵衛」
- 5 鳥 居 明和四年 津久田西谷稲荷神社
「石工 新助」
- 6 鳥 居 安永九年 長井小川田清水
「石匠 高遠 伊藤新助」
- 7 鳥 居 天明七年 津久田八幡神社
「石工 伊藤新助 同新五郎」
- 8 鳥 居 寛政三年 長井小川田八幡神社
「石工 伊藤新助」
- 9 鳥 居 寛政八年 勝保沢諏訪神社
「石工 伊藤新助」
- 10 灯 籠 寛政六年 溝呂木諏訪神社
「信州高遠住 石工 伊藤新助重信」
- 11 灯 籠 文化八年 津久田八坂神社

「信州高遠野田笹村 保科要藏」

- 12 灯 籠 文化八年 長井小川田八幡神社
「石工信州高遠 伊藤平右衛門」
 - 13 灯 籠 文化十二年 敷島高瀬六〇—三
「石工信州高遠 保科要藏」
 - 14 宝篋印塔 安永五年 津久田小池原観音堂
「石工 信州高遠彌勒邑 新助 直七」
 - 15 宝篋印塔 寛政元年 溝呂木天神上り墓地
「石工 高遠彌勒村 伊藤新助 同友八」
 - 16 宝篋印塔 文化元年 溝呂木大蓮寺墓地
「石工 信州高遠 源藏 次兵衛 政孝」
 - 17 宝篋印塔 文化七年 津久田北原青木家墓地
「石工 信州高遠住 飯塚源藏 同政吉 同庄藏」
- 以上のように赤城村では享保期からはじまり、初期には庚申の青面金剛像などを彫り、ついで鳥居や灯籠・宝篋印塔となっているが、寛政以後が多く、保科・伊藤・飯塚などの石工が多く入ってきていたようである。この他石工銘のないものの中にも、信州高遠の石工の作は多くあったと考えられる。この地方は江戸石工の作例は全く見えていない。
- つぎに「甘楽町の石仏」からその例をみると、ここでは地藏菩薩像が早くに彫られ、近世後期に宝篋印塔が彫られている。
- 1 地藏菩薩 享保九年 中佐久間善龍寺跡 「信濃国中伊奈郡高遠 藤沢 栗木村 願主 北原源太郎 同武兵衛 同勝左エ門」
 - 2 地藏菩薩 明和四年 町屋薬師堂 「願主 高遠栗木村 北原七郎治」

3 子育地藏 天保十三年 天引向陽寺 「信州伊奈羽廣村 宮下与兵卫」

4 宝篋印塔 寛政二年 国峰興嚴寺 「信州高遠栗田 石工 北原七郎

治宗清」

5 宝篋印塔 寛政二年 国峰興嚴寺 「信州高遠中伊奈郡栗田村 北原平

次宗清」

などがある。ここでも近世後期には宝篋印塔が彫られている。

『伊勢崎の近世石造物』をみると、近世石工銘のあるもの二九基中、高遠石工と刻まれたもの一五基、石工名からみて高遠石工と考えられるもの三基で、合計一八基も高遠石工の作である。種別は地藏二、宝篋印塔三、庚申二、馬頭観音二、石祠二、他に鳥居・石灯笼・聖観音・二十二夜塔・

観音塔・手洗石・天道念仏塔などである。ここでも地藏は寛保元年（一七四一）と早く、宝篋印塔は寛政十一年（一七九九）が最も早い例である。

四一と早く、宝篋印塔は寛政十一年（一七九九）が最も早い例である。石工は北原・保科・西村・伊藤・宮下・高見・中山・高嶋・湯沢・中村・山崎・大石などの姓が見受けられるが、北原村の石工が早くから県内各地に入っていたようである。

このように高遠石工は親子何代にもわたり上州に入ってきていて、多くの優れた作品を残しているが、その作風は極めて特色があり、一見木彫風の繊細な彫りである。特に植物の葉や花の彫りは特色がある。木彫風といえば、石殿・石祠などには木造建築のように細部まで彫刻したものがあがり、なかでも吾妻郡吾妻町の古賀良山神社などは、大きな石殿で袖障子の彫りものまでした見事なものであり、さながら木造社殿を思わせる。また、渋川市行幸田の駒形社も大きさといひ細部の彫りといひ見事で、何れも高遠石工の作である。西毛地方の近世後期の宝篋印塔には高遠石工の優れた作



吾妻町大戸古賀良山神社本殿

品が多く目立っている。また、江戸城の石垣の石を切出したと伝える前橋市下大屋町の産泰神社境内には、江戸石工に対抗するかのように大きな灯籠を高遠石工が彫んでいる。なかでも参道脇の高灯籠はその大きさからみても県下最大級であり、灯籠を支える鬼の彫刻も見事である。総じて高遠石工の作品は木造建築や木彫を思わせる。そう見ていくと、高遠石工の銘の刻まれないものにも、高遠石工の作と考えられるものがかかり多いのではなからうか。

ところで、これら多く上州入りした高遠石工たちは、やがて上州に定住した者も多かったと考えられる。先に記した太田市円福寺の水盤銘には、「境町石工北原玄蕃」とある。近世後期には多くの北原を名乗る高遠石工が上州へ入ってきているので、佐波郡境町に定住したのであろう。『伊勢崎の近世石造物』には、太田市小暮家墓地の安政四年（一八五七）の地藏菩薩台石に「石工 信州高遠領の場村産本州伊勢崎住大石市太郎」とあり、

嘉永二年（一八四九）の曲輪町同聚院の宝篋印塔には「本国信州伊奈郡高遠領北原郷住出店当国佐位郡境町 石工 北原復祐好祖」とある。これらの人々は境町に出店しても高遠の石工として作品を刻み、大石市太郎のように「伊勢崎住」と上州の住人となったことを表現したものもある。

このように多くの上州入りした高遠石工たちは、上州に定住しても同郷の石工職人として講中をつくり、互いに高遠石工としての誇りを堅持し続けたようである。それを物語る作品が安中市原市八本木地藏堂境内の丸彫りの聖徳太子孝養像である。この像も見事であるが白石には関東入りした高遠石工の名が数十名を連ねて刻まれている。その所在と氏名を示すと次頁のようであり、岡毛・中毛・北毛から北武蔵にまでおよんでいる。高遠石工の発展を示す好資料といえよう。



前橋市産泰神社参道

黒沢 赤羽嘉傳治
 弥勒 小林栄次郎
 木下 藤森吉弥
 八幡山 伊藤清兵衛
 中坪 中山庄左門
 板山 伊藤豊三郎
 野口 矢澤松太郎
 荒町 金井久之丞
 藤塚 鍛冶屋興六
 荒町 秋山馬太郎
 高田町崎 相澤小右門
 新田町 小松政藏
 勝間 唐澤倉之助
 水上 唐澤倉之助

非持山 保科園太郎
 長岡 向山繁五郎
 彌勒 廣瀬為壽
 藤間 津澤八百太郎
 武田 八百藏
 西山崎 佐七郎
 中山 安五郎
 北原 豊藏
 櫻井 若林重藏
 尾崎 伊藤音七
 北越後 洗井伴藏
 藤澤 北原勇吉
 中村 右行五郎
 北原 助右



聖徳太子孝養像
 (安中市八本木 地藏堂境内)

町
 北原 安
 赤羽 菊藏
 茨澤 十郎左門
 宮下 政吉
 北原 市五郎
 伊藤 彌右門
 唐澤 龜吉
 中 藤左門
 伊藤 嘉吉
 保科 勝藏
 吉太郎

天保六年歲
 次乙未冬十一月
 信州伊奈
 石工講中
 満福寺現住
 俊澄代

柳外堂 藤澤徳兵衛
 行田 清水大十郎
 福鳥 井口卯之松
 磯部 堀口直次郎
 長岡 金子仁兵衛
 高梨 國太郎
 中後閑 佐五郎
 上棚 鳥山常藏
 小出 平澤藏三郎
 中坪 向山政吉
 荆口 北原岩藏
 野口 向山民吉
 武州羽生町細工人
 関口桑次郎置虎
 柏崎後 田端常藏

道祖神概説

丸山知良

一、はじめに

群馬県内の道祖神の悉皆調査を、群馬県教育委員会の主催で、全県下の市・町・村関係者を糾合して実施した。

県内に所在する道祖神への関心は、県内在住者ばかりでなく全国的に広がっており、次第に高まっている。群馬県が石造美術品の宝庫としての一翼を担っている地域だからである。道祖神の造形が庶民そのものであり、親しみもてる顔に会うことができる。あの道傍で会い、この辻で会う数多くの道祖神たちがいる。

数多くの道祖神、表情の豊かな道祖神を、多くの人びとがカメラを向け、メモをとってきた。しかし、そのすべてを知るとは困難なことである。あまりにも多く、その種類も種々分類されよう。

「松のことは松に習う」という。道祖神のことは道祖神に尋ね、道祖神に学ぶことが必要である。こうした気運が結集され、ここに調査がまとめられた。

二、分布からみる

道祖神と称し得るものを数えあげたととき三、五三六基となった。うちに像碑が一、八九二基あり、文字碑が一、六一六基あり、その他二八基となる。

像碑は、いわゆる双体道祖神と呼ばれるもので合計一、八七七基である。総数三、五三六基に占める割合は五三%である。多くの石碑は文字碑が多い中で、道祖神のみは像碑が文字碑を上まわっている。このことは道祖神といえは双体道祖神を思い出す程の親しきももたれてきたことを知るのである。

その市町村別、種別一覧表を示す。

群馬県内道祖神一覽表

郡市別	項目 市町村別	像				単体	像計	文字		文計	石殿 有無	その他	総計
		双有紀	双無紀	2神別彫	有紀			無紀					
市	1 前橋市	36	16	—	—	(52)	66	10	(76)	1	—	1	130
	2 高崎市	43	41	—	—	(84)	97	21	(118)	—	—	—	202
	3 桐生市	1	2	—	—	(3)	8	4	(12)	—	—	—	15
	4 伊勢崎市	9	2	—	1	(12)	26	8	(34)	—	—	—	46
	5 太田市	1	—	—	—	(1)	3	—	(3)	—	—	—	4
	6 沼田市	68	17	—	—	(85)	23	5	(28)	—	—	—	113
	7 館林市	3	—	—	—	(3)	6	2	(8)	4	3	—	18
	8 渋川市	36	13	—	1	(50)	30	3	(33)	—	—	—	83
	9 藤岡市	15	26	—	—	(41)	89	106	(195)	—	—	1	237
	10 富岡市	14	43	—	—	(57)	72	79	(151)	—	—	1	209
	11 安中市	44	77	—	—	(121)	108	36	(144)	—	—	—	265
市計(11)	(270)	(237)	—	(2)	(509)	(528)	(274)	(802)	(5)	(3)	(3)	(1,322)	
勢多郡	12 北橋村	22	3	—	—	(25)	19	2	(21)	—	—	—	46
	13 赤城村	16	9	—	—	(25)	34	8	(42)	—	—	—	68
	14 富士見村	12	4	—	—	(16)	17	6	(23)	—	—	—	39
	15 大胡町	5	1	—	—	(6)	6	5	(11)	—	—	—	17
	16 宮城村	2	—	—	—	(2)	3	—	(3)	—	—	—	5
	17 柏川村	1	4	—	—	(5)	11	4	(15)	—	—	—	20
	18 新里村	2	—	—	—	(2)	9	3	(12)	—	—	—	14
	19 黒保根村	3	2	—	—	(5)	6	1	(7)	—	—	—	12
	20 東村	2	4	—	1	(7)	1	1	(2)	—	—	—	9
	計(9)	(65)	(27)	—	(1)	(93)	(106)	(30)	(136)	—	—	—	(230)
群馬郡	21 榑名町	43	70	—	4	(117)	26	12	(38)	—	—	1	156
	22 倉河村	37	58	2	—	(97)	5	5	(10)	—	—	3	110
	23 箕郷町	21	14	—	—	(35)	25	14	(39)	—	—	1	75
	24 群馬町	17	5	—	—	(22)	7	2	(9)	—	—	—	31
	計(4)	(118)	(147)	(2)	(4)	(271)	(63)	(33)	(96)	—	—	(5)	(372)
北群馬郡	25 子持村	12	2	—	—	(14)	7	3	(10)	—	—	—	24
	26 小野上村	10	12	—	—	(22)	9	5	(14)	—	—	—	36
	27 伊香保町	—	1	—	—	(1)	1	—	(1)	—	—	—	2
	28 榑東村	14	20	—	1	(35)	15	2	(17)	—	—	1	53
	29 吉岡村	17	15	—	—	(32)	18	1	(19)	—	—	—	51
計(5)	(53)	(50)	—	(1)	(104)	(50)	(11)	(61)	—	—	(1)	(166)	
多野郡	30 新町	—	—	—	—	(—)	4	—	(4)	—	—	—	4
	31 鬼石町	1	4	—	3	(8)	9	4	(13)	—	—	—	21
	32 吉井町	19	26	—	1	(46)	23	11	(34)	—	—	—	80
	33 万場町	—	—	—	—	(—)	3	1	(4)	—	—	—	4
	34 中里村	1	—	—	—	(1)	—	—	(—)	—	—	—	1
	35 上野村	—	4	—	—	(4)	—	—	(—)	—	—	1	5
計(6)	(21)	(34)	—	(4)	(59)	(39)	(16)	(55)	—	—	(1)	(115)	
甘楽郡	36 妙義町	1	14	—	—	(15)	11	—	(11)	—	—	—	26
	37 下仁田町	11	53	—	—	(64)	25	19	(44)	—	—	—	108
	38 南牧村	13	39	—	—	(52)	8	21	(29)	—	—	—	81
	39 甘楽町	26	15	—	—	(41)	39	12	(51)	—	—	—	92
計(4)	(51)	(121)	—	—	(172)	(83)	(52)	(135)	—	—	(—)	(307)	

市町村別	項目	像 碑			単体	像計	文 字 碑		文字 小計	石 殿 有 無	その他	總計	
		双有紀	双無紀	2種別彫			有紀年	無紀年					
磯水 郡	40 松井田町	23	73	—	—	(96)	32	38	(70)	—	—	167	
	計(1)	(23)	(73)	—	—	(96)	(32)	(38)	(70)	—	—	(167)	
吾 妻 郡	41 中之桑町	72	47	1	—	(120)	29	13	(42)	—	—	162	
	42 東 村	13	8	—	—	(21)	5	—	(5)	—	—	26	
	43 吾妻町	34	60	—	—	(94)	19	25	(44)	1	—	139	
	44 長野原町	21	19	—	—	(40)	—	1	(1)	—	—	41	
	45 橋恋村	14	14	—	—	(28)	2	—	(2)	—	—	30	
	46 草津町	4	2	—	—	(6)	—	—	(—)	—	—	6	
	47 六合村	15	9	—	—	(24)	2	1	(3)	—	—	27	
	48 高山村	24	10	—	—	(34)	1	—	(1)	—	—	35	
	計(8)	(197)	(169)	(1)	—	(367)	(58)	(40)	(98)	(1)	—	(—)	(465)
利 根 郡	49 白沢村	11	7	—	—	(18)	—	1	(1)	—	—	19	
	50 利根村	6	—	—	—	(6)	—	—	(—)	—	—	6	
	51 片品村	16	8	—	—	(24)	7	7	(14)	—	—	38	
	52 川場村	21	7	—	—	(28)	7	4	(11)	—	—	39	
	53 月夜野町	28	14	—	—	(42)	10	4	(14)	1	—	57	
	54 水上町	15	2	—	—	(17)	6	4	(10)	1	1	30	
	55 新治村	27	14	—	—	(41)	4	7	(11)	—	—	52	
	56 昭和村	15	4	—	—	(19)	1	1	(2)	—	—	21	
計(8)	(139)	(56)	—	—	(195)	(35)	(28)	(63)	(2)	(1)	(1)	(262)	
佐 波 郡	57 赤堀村	—	2	—	—	(2)	4	2	(6)	—	—	8	
	58 東 村	2	—	—	—	(2)	—	—	(—)	—	—	2	
	59 境 町	1	—	—	—	(1)	8	8	(16)	—	—	17	
	60 玉村町	4	6	—	—	(10)	21	9	(30)	—	—	40	
	計(4)	(7)	(8)	—	—	(15)	(33)	(19)	(52)	—	—	(—)	(67)
新 田 郡	61 尾島町	—	—	—	—	(—)	9	1	(10)	—	—	10	
	62 新田町	1	—	—	—	(1)	1	—	(1)	—	—	3	
	63 藪塚本町	—	2	—	—	(2)	4	1	(5)	—	—	7	
	64 笠懸村	—	—	—	—	(—)	7	2	(9)	—	1	10	
	計(4)	(1)	(2)	—	—	(3)	(21)	(4)	(25)	—	(1)	(1)	(30)
山 田 郡	65 大間々町	4	2	—	—	(6)	5	4	(9)	—	—	15	
	計(1)	(4)	(2)	—	—	(6)	(5)	(4)	(9)	—	—	(15)	
邑 楽 郡	66 板倉町	1	—	—	—	(1)	1	—	(1)	2	—	4	
	67 明和村	—	—	—	—	(—)	6	—	(6)	—	—	6	
	68 千代田町	—	—	—	—	(—)	2	—	(2)	—	—	2	
	69 大泉町	—	1	—	—	(1)	4	—	(4)	—	—	5	
	70 邑楽町	—	—	—	—	(—)	1	—	(1)	—	—	1	
	計(5)	(1)	(1)	—	—	(2)	(14)	—	(14)	(2)	(—)	(—)	(18)
郡 計	59												
合 計		952	925	3	12	1,892	1,067	549	1,616	08	15	(13)	3,536

さて大略の分布傾向を、一先づ教育事務所管内の郡市集計をみよう。それぞれ教育事務所管内の市町村数も面積、人口も平均化されていないから一応の傾向ということになるが次表の如くである。

西部教育事務所管内		東部教育事務所管内	
双体	单体	文字	その他
高崎	八四	一一八	二〇二
藤岡	四一	一九五	二三七
富岡	五七	一五一	二〇九
安中	一一一	一四四	二六五
群馬	二六五	六	九六
多野	五五	四	五四
甘楽	一七二	一三五	三〇七
碓氷	九六	七〇	一六七
吾妻	三六六	一	四六五
利根	一九五	六三	二六二
沼田	八五	二八	一一三
中部教育事務所管内			
勢多	九二	一	一三六
伊勢崎	一一	一	三三四
佐波	一五	一	五二
北群馬	一〇三	一	一六六
合計			

渋川	四九	一	三三三	八三
前橋	五二	七六	二	一三〇
桐生	三	一一	一五	
太田	一	三	四	
館林	三	八	七	
新田	三	二五	二	三〇
山田	六	九	一五	
邑楽	二	一四	二	一八

西部教育事務所管内で、八七四基となつて、全県下の五三%を占めるのである。東部教育事務所管内が全県下の二・八%に過ぎないことと比較すれば、西毛に濃いことが確然としている。

分布の多いということは面積比などを考えなければ、正式のことは言えないであろうが、単純に市町村別集計の多いところをあげれば

安中市	二六五	藤岡市	二三九
富岡市	二〇九	高崎市	二〇二
松井田町	一六七	中之条町	一六二
榛名町	一五六	吾妻町	一三九
前橋市	一三〇	沼田市	一一三
倉渕村	一一〇	下仁田町	一〇八

という順序になる。とにかく文字碑等を含めて考えれば一碑もない市町村はない。どの市町村にも分布していることは珍しいことと言わなければならない。

これを峠道ごとに集計してみる。

総計 四六九 (三七六)

○十石峠道 上野村 五 (内像数四)

中里村 一 (一)

万場町 四 (〇)

鬼石町 二 (一)

藤岡市 二二七 (四一)

総計 二六八 (五四)

○下仁田道 下仁田町 一〇八 (六四)

南牧村 八一 (五二)

富岡市 二〇九 (五七)

甘楽町 九二 (四一)

吉井町 八〇 (四六)

総計 五七〇 (六〇)

○中山道 松井田町 一六七 (九六)

安中市 二六五 (一一二)

高崎市 二〇二 (八四)

新町 四 (〇)

総計 二二〇八 (五六一)

○鳥居峠道 榛名町 一五六 (一一七)

倉沢村 一一〇 (九七)

吾妻町 一三九 (九四)

長野原町 四一 (四〇)

嬭恋村 三〇 (二八)

十石峠道は道祖神の少ない通りである。藤岡市はむしろ埼玉県の寄居町、児玉町と高崎市の交通路にあたりと考えられるので、十石峠道としての道祖神と考えるには弱いところがある。総数も藤岡市の数が八八%を占めている。また像碑が二〇%であった。

下仁田道は信州から和美峠、内山峠、余地峠を越えてくる道である。この沿線の村々の総計は五七〇基で、内に像碑の割合は四六%であった。

中山道沿いの松井田、安中、高崎、新田と合併市町村の多いところで、旧中山道の坂本、松井田、安中、板鼻、高崎、倉賀野、新田と宿駅がつづいた五街道の主要道路だけに、道祖神の数も多い。一、二〇八基を数えた。像碑五六一基で四六%であった。

鳥居峠道は大戸道と呼ばれる信州への道である。この総計四六九基で像碑三七六基で八〇%を占める。こうした像碑の占める割合が多いことは特色とするところであろう。

以上の四つの信州からの峠道にある道祖神を集計すると二、五一五基になり、県全体の七十一%になる。内数の像碑は一、二五一基で、六六%を占めている。

三、作者たち

石工の名が刻まれているのは道祖神に限っては極めて少ない。これは双体神祖神というか、愛の表現については作者名が出にくいということなのであろうか。わずかに三基の双体道祖神に作者名が刻まれている。それ

に文字碑二基を加えても五基にすぎない。従ってこうしたいわば芸術品とも言える多くの碑は無銘のまま鑑賞してもらうことになる。路傍の石仏であり、庶民のわれわれの石仏としては、その方が良いと思うべきなのであるか。そのわずかの作者名から見よう。

前橋市広瀬町二丁目の飯玉神社の寛政八丙辰十二月大吉日（二七九六）の双体道祖神の信州石工、倉田政右衛門。

勢多郡柏川村深津字三ヶ尻の天保昭陽単開建之の石工高遠産馬場住、井上源治郎義卿の大きな双体道祖神。昭陽は癸、単開は卯のこと。こうした千支の異名が一般的でないので今まで読まなかったのか、読めないで、年号がないと通していた場合もあったようだ。天保十四年（一八四三）。

この二体は前橋市も元の勢多郡上川潤村後開と勢多郡柏川村深津字三ヶ尻で、信州石工とか高遠石工という、同じ信州高遠の石工の系列である。さすがに幕末の天保年間には勢多郡宮城村馬場に土着したのであろう。



前橋市広瀬町飯玉神社
(高遠石工倉田政右衛門作)

双体道祖神のもう一体は北上州の利根郡水上町須田員で、明治廿丁亥年七月吉日という新しい作品で、越后ノ国刈羽郡萩野島村石工とある。

この極めて少ない作者名の中で信州高遠と越後の石工が出ていることに興味をもつ。石造美術品の調査のすべてを通覧して石材彫刻者の問題は考慮しなければならぬが道祖神だけからは上記のことのみを指摘しておくたい。

なお、文字碑二基は群馬郡箕郷町富岡本村の市河米庵孔陽先生の書を刻んだという、文政十年（一八二七）の緊張した信州高遠、林仙蔵の場合と、勢多郡柏川村女潤の天保二年（一八三一）の竹沢村石工佐吉と刻まれた例をみるのみである。

四、信仰から

道祖神は、広辞苑によれば「道路の悪霊を防いで行人を守護する神。日本では八さえのかみ」と習合されてきた。くなどのかみ。たむけのかみ。」とある。

道の神であり、行路の安全を守る神であるが、さえのかみとして邪霊の侵入を防ぐ神でもある。この二面の要素をもっている。

塞（さえ）の神として防塞の神として、他からの侵入する悪霊を防ぐのである。特に疫病を中心として村中に災害をもたらすものを村境で防がなければならぬのである。そこで村境・峠・辻などに道祖神を建てておがむのであった。

悪霊は人間生活の微妙なる隙をおそるのであろう。夫婦の和合した豊か

道祖神、賽神、石神等神社一覽 (群馬県史研究第九号による)

郡名	社名	道祖(神)	道神社	猿田彦社	賽神社	(八)衛社	(久)那止	大杉神社	白鹿神社	石(神)社	尺地社	社宮司社	その他	計
利根	吾妻	一〇	七	二	三	三	七			二			一	三九
西馬	群馬	一	二	三	三	三				二			一	二八
碓氷	水									一				二
北	甘	一	一	二	二	二				一				二
多	野													一
東	馬													一
南	勢	三	三	一	一	一								一
佐	那													一
新	田													一
山	田	九	一	三	一	一								一
邑	菜													一
計		二八	四六	八八	四四	一六	一〇	二	九	六八	三	二	一七	三三三

なる家庭は悪霊のつけ込む隙を与えず退散させるに十分なる力を發揮するのであろうか。双体道祖神の像がそこに大きな役割をはたすのであろう。

この道祖神の起源を古事記や日本書紀に求める場合がある。イザナギ・イザナミの両神は天のぬほこという矛を持つてどろどろした処をかきまわして上げると、滴が落ちて島が出来た。淡路島であり、それから日本の多くの島々を生んだ。島生みの伝説である。イザナミが没して黄泉の国まで追って行ったイザナギは黄泉国からの帰路に追われて、千引岩を黄泉平坂の真中に据えられた。これがあの世とこの世の境で、さえの神となったといわれる。

日本書紀はイザナギの神が投げた杖が岐神(くなど)或はふななどのかみ)

となったと伝えている。やはり、さえの神であり、道祖神となったという。道祖神が神社となったのは明治十二年の神社明細帳を整理して萩原進、池田秀夫両氏が発表している。

「東毛地方は道祖神社と道祖神が圧倒的に多く、西毛には少なく、石神社が多い。また、猿田彦社が多く、東毛には少なく、賽神は西毛より東毛に多い。」と説明されている。

双体道祖神についての起源説話として兄妹婚のことが、池田秀夫稿県史研究第九号に述べられている。倉沢村落合伝説等をひいて、実の妹とわかり離別した悲劇の夫婦が道祖神になったと伝えている。こうした話が各地に伝えられているという。



六合村入山梨木の道祖神

これらは双体道祖神が村はずれの路傍に、雨の日も風の日も立っていることへの同情から、説明を求められた時に生れた説話が流布したものと考える。本来的な道祖神信仰ではなく、後からついてきた説明なのであろう。さて道祖神と言えばドンド焼きが思い出される。小正月行事として一月十四日の晩に行なうか、十五日朝に行なう。

道祖神の石像をつくることとドンド焼きとはどうも結びついていないようである。行事と石碑とたまたま村はずれであるという程度の一致をみるが別々に実施されていると考えた方がよいようだ。時にドンド焼きの中に道祖神石碑を投げ込んでいたので、こんなに落魄してしまつたと聞くことがある。しかしドンド焼きが実施されても像はないところ、像があつてもドンド焼きはないなど、別々と考える方がよいであろう。

六合村誌調査のときに、ぬるでの木に人の顔を書いて道祖神にそなえているのを見た。小正月行事に道祖神がきて祭り、ドンド焼きの炎につて

昇天するのであろう。都九十九一氏の調査である。

さて、県史の民俗編（都九十九一部会長）の道祖神では俗信として、道祖神とは次の六つに結論している。

①性の神。しかし性習俗と結びつくものではなく、福守様や陽物や山王の猿などに委せられている。

②道の神。路傍に立っている。道の神は足の神となり、足の病を道祖神に拝み、なおると草鞋を供えたという。

③道祖神は耳の神。道のふさがりから耳のふさがりをとって通りよくしようというまじない。

④目の神など病気にきくという。

⑤子育ての神。ドンド焼き、道祖神祭りが子どものまつりだから子育ての神とされた。

⑥厄落し。ドンド焼きは厄落しの機会。

五、造像からみて

ただの石に道祖神と書いた紙を貼るという例が富岡市一の宮にある。こうしたことは造像以前からのものであろうか。

道祖神としての最も古い銘文は寛永二年（一六二五）乙丑十一月吉日の双体道祖神で、群馬郡倉沢村の熊久保のものである。以来、年代の推移に伴って増加している。

とにかく近世以前のものはない。群馬県に於いては一六二五年からである。悉皆調査の上でこのことが確定された。年代的な変遷は別表の通りで

ある。(文末)

道祖神を大別すれば像碑と文字碑に分けられよう。

像碑は双体道祖神と単体に分けられる。当然、道祖神と呼ばれる双体道祖神が、八七七基で大部である。そのうち銘文の確認できたものが九五二基で半数以上である。

男女別像の道祖神は珍しく、群馬郡倉河村川浦の元三沢にある。男神像と女神像が一对になっている。戦国時代に下家が三河国から移転して奉祭したと伝えられている。

単体道祖神は極めて特異のものというべきであろう。

さて、双体道祖神の型式分類はまだ固定したものはない。

大塚省悟氏の分類は合掌系・肩くみ手掘り系・酒器持ち系・幣持ち系・雲上像系・あからさまな性系・秘めた性系・特殊像系の八種に分けていく。

萩原蓮氏は天孫降臨型・神像型・把手型と媒酌型・直線型と曲線型・謹厳型と微笑型・あぶな絵型・変り型などに分類することを試みた。

一応、合掌型・擔肩握手型・酒器持ち祝言型・奉幣型・雲上型・その他などに分けるのが普通だと思われる。しかし、説定があるわけではないので、多くの人が見て肯定される名称が自然に定められてゆくであろう。

橋名山ろくから鳥川の鳥居峠道にかけての道祖神調査をして遺像の変遷に及んだ近藤昭一報「二神並列型道祖神石像の成立と変遷について」を紹介しておく。

寛永二年以降を四期に分け、第一期を元禄まで、第二期を享保期、第三期を宝暦期、以下明治までを第四期とする。

第一期は仏像の形を模倣した道祖神を試みた時代である。合掌するとか正座するという像が造られた。いわば成立期である。

第二期は享保年代で、二神直立型で互いに手を前に組んだり肩にかけていても静かな信仰の形である。固定期。

第三期は宝暦期で道祖神全盛期である。自然石に丸やハート型にくり込んで二神を刻んだり、石殿のような屋根をつくるものなどが出て、男女抱擁型までできた。数も多く、多様な型式の出現となった。

第四期は文化十五年から明治期に及ぶ時代で双体道祖神の衰退期であり、文字碑が多く出現している。道祖神は特に復古神道の影響で天孫降臨型が出現してくる。猿田彦が矛を持って、天鈿女命あまのつひめと共に天降りする図に変化してくる。

六、書家の名前を

文字碑の中には書家の名が刻まれているものもある。あるいは文字碑に刻まれた文字のみが現在残されている作品というものもある。いわゆる書家として伝えられない地域の書き手としての文字を知ること、道祖神文字碑の功徳なのかも知れない。

米庵 河孔陽先生と書かれた箕郷町富岡の文政十年(一八二七)、箕郷町原山の安政七年(一八六〇)がある。共に米庵を師と仰ぐ地域の書家によって写しとられた文字を刻んだものと思われる。市川米庵は下仁田町の出身で、地域での活躍を経て、江戸京橋で書道指導に当り、加賀百万石の藩校で指導したこともある。当時江戸の第一人者であった。東京国立博物館



榛東村山子田の道祖神
角田無幻書（天保15）

館で父寛齋と共に特別展が開催されたことのある書家なのである。

無幻道人 北群馬郡吉岡村下野田の本山派修験の華藏寺で生れ、勢多郡赤城村津久田の林徳寺を嗣いだ。修験者としての修行のほかに書道にすぐれ、光格天皇に千字文を差上げた。天皇の手本として用いられたことにより、止め筆として筆跡を一般に出すことを禁じられたという。このため書名が高くなった。

赤城村梅の文化七年、群馬町中泉の寛政七年、高山村中山の寛政十年、高崎市大八木町の享和元年などの文字がある。

釋雲外史 高崎藩の儒学者、書家にして、その法帖は珍重された。赤城村津久田に文化十五年の碑がある。その他、列記する。

- 一 徳 齋 前橋市千代田町 弘化三年
- 川 中 英 前橋市上公田町 寛政七年
- 成 孝 前橋市小屋原町 万延元年

宮司光端	前橋市元総社町	享和元年
平義弓	高崎市宿横手町	宝曆十一年
赤城大璞	高崎市正観寺町	天明七年
松東野	高崎市上並榎町	明和八年
護国庵	高崎市上並榎町	明和八年
祐慶	高崎市飯塚町	嘉永五年
守一	高崎市下佐野町	文化十五年
松琴邦	高崎市下中居町	安政四年
春山	伊勢崎市堀口町	寛政九年
蓮堂	藤岡市森新田	明治七年
城谷寛周	富岡市下高尾	寛政七年
中山瑛親	富岡市瀬下	天保六年
中山瑛親	富岡市七日市	弘化四年
中山瑛	富岡市上丹生	(文化)
中山瑛	安中市郷原	文化三年
安積慶	富岡市一の宮	明治二十三年
甘谷惟寅	富岡市丹生	文政十年
平燦明	安中市伝馬町	享和二年
龍崎和道	安中市谷津	享和二年
有隣教承	安中市谷津	文化五年
閑山	安中市上後閑	大正十四年
享齋	安中市上秋間	弘化二年
法印舜盛	赤城村溝呂木	文久二年

川島蘭洲	榛名町本郷	慶応三年
関共車	榛名町高浜	明和四年
関橋守	榛名町高浜	慶応三年
芦交	榛名町下室田	文政二年
長野不染	箕郷町富岡	天明六年
良融	箕郷町白川	寛政十三年
水井暉	箕郷町柏木沢	文久二年
青山一布	箕郷町柏木沢	文政四年
静齋	群馬町井出	安政五年
如意寺鉄舟	小野上村	弘化三年
嗜山	伊香保町	寛政十一年
倭江	榛東村広馬場	嘉永二年
紫城	榛東村広馬場	明治三十一年
黒山光芳	吉岡村陣場	安政二年
石井徵言	新町	万延元年
省齋	下仁田町馬山	嘉永五年
平鉄胤	下仁田町馬山	慶応三年
天頼	吾妻町松谷	慶応元年
椿山	邑楽町窪塚	万延元年
藤賢和	大胡町堀越	文政五年

道祖神の文字碑の中から抜書きした。全部ではない。署名は二字のみのものもあり、それだけで同名なるが故に同人と比定できないことも多い。

関橋守は榛名町の歌人で、県内に歌碑が多いので知られている。

川島蘭洲は安中市板鼻出身、明治十年没。巻妻湖に師事して書家・佐藤一斎に師事して経文に通じた学者。

一徳齋は富士見村時沢の人。往来物の赤城詣や当時諸家人名録（文政八年）などで知られる。奈良姓、一徳齋光龍と称した。

二、三の人物について記したが、地域での活躍はそれぞれの意義があったことであろうと考えられる。

七、今までの道祖神考察

道祖神についての関心は、比較的古くからあったのであろうが、管見に入ったものを列挙すれば次のようである。

①矢島 胖 道祖神彫刻の技術的側面

雑誌「上毛文化」昭16・4から

道祖神についての論考の最初のように思われる。雑誌「上毛文化」の六卷三・六・八・九・十号、七卷一・三号の七回連載であった。この道祖神への切り込みがあって、多くの人びとの関心を喚起した。

②矢島 胖 象形道祖神のプロファイル

雑誌「群馬文化」25（昭和三四年）

③矢島 胖 上州の道祖神

雑誌「民芸手帖」14（同）

④矢島 胖 上州道祖神探訪

同 42（昭和三六年）

前記の論文に続く戦後の多くの関心への、再度の問いかけである。

⑤鈴木 繁著『性神考』

昭和二九年 上毛古文化協会

性神という立場から著者の関心を収集したもので、「道祖神が性を挑発し、庚申が性を抑制するという私の考え方については更に裏付の資料を蒐集する必要があります」とあとがきで述べている。とにかく「偉大なる道祖神」の一章は賛否両論を含みながら、道祖神への関心を広めた。

⑥近藤昭一「二神並列道祖神不像の成立と変遷について」

雑誌「ロータス」創刊号（立正大学教養部論集）に掲載の論文。昭和四

二年十二月。

これが道祖神の基礎的研究というか、学問的関心を満たす方向を示唆している。この頃には写真家によって興味ある被写体の一分野となり、多くの写真となったようである。県内ばかりでなく、埼玉を始めとして関東地域の自動車日帰り範囲も拡大し、特に夜間撮影は周囲を消して、ライトで浮きあがる道祖神を好む人々もあった。

⑦オギノ芳信著『上州路双体道祖神』

換乎堂 昭和五二年九月

朝日新聞群馬版に「道端の恋人たち」の連載が昭和四十九年三月に始まり百四十回で完結した。著者オギノ氏は写真家で群馬県展、二科展などの写真展に入選入賞しているベテラン。

⑧大塚省悟『やぶにらみ道祖神考』

私家版 昭和五一年

道祖神の熱心なる愛好家による私家版である。道祖神を尋ねて地域系列像形別の一覧表を別冊として付したものである。

⑨雑誌「上州路」八六号（昭和五六年）

⑩同「上州路」八九号（同）

特集・群馬の双体道祖神

群馬の双体道祖神・所在地一覽

写真は風グループの撮影でブームになっていた道祖神の悉皆調査と写真企画したが同時進行の多くのグループと競合したもので本特集として一応の終結とした。

⑪平山利男写真・萩原進文

群馬の道祖神 群馬県文化事業振興会 昭和五四年三月

「ほのぼのとした素材さに魅かれ、カメラマンは対話した、一五〇体の神々」と書かれた帯の文が本書を適格に表現している。

⑫日本石仏協会群馬県支部編

『上州路道祖神百選』あさ社 昭和五九年十月

金井竹徳氏を会長とする二十一名による写真集である。何としても写真による鑑賞は、石仏といえは双体道祖神に第一に指を屈するであろう。県内のカメラを手にする多くの人たちの代表としての著作とも言えよう。

写真家と道祖神の結びつきは、例えば群馬県教育文化事業団の文化指導者バンクでも、写真と道祖神を出している中山克己氏の例の如く数多いようである。

⑬若杉慈著『野の仏』

⑭佐島俊一著『群馬の石仏』上毛新聞社

写真による石仏紹介である。写真としての芸術性と素材としての道祖神のすぐれたものが一体となって多くの人びとの共感を得た。

⑯ 武田久志著 『路傍の石仏』 第一法規

旅行の途次に眼にふれた上州路の路傍の石仏・道祖神に注目したことが、人々の関心を掘り起す論考となった。

⑰ 萩原進著 『道しるべ』 みやま文庫

交通史研究から道標に関心が進み、その研究から道の神、道祖神に研究が及んだ。道しるべという基礎的資料を積み重ねた上の研究である。

⑱ 都九十九一著 『村と子ども』 第一法規

道祖神祭と子どもという項目にみられるように子ども行事から道祖神をみている。

⑲ 群馬県刊 『群馬県史』 資料編（民俗二）

道祖神信仰について十二頁をあてている。民俗学の成果を記している。

年代別道祖神塔造立状況

(総造立数3,536基中、紀年銘あるもの1,949基)

年代	双体道福神	単体道福神	文字道福神	石殿形道福神	計	同時代の主なできごと
1620～	1				1	寛永期 参勤交代制、鎖国完成
1640～						正保慶安期
1660～	7				7	寛文延宝期
1680～	10		1		11	元禄期 沼田真田氏改易(1683)
1700～	22		8		30	宝永正徳期 富士山噴火、正徳の治
1720～	117	1	13	1	132	享保期 享保の改革
1740～	294	2	37	2	335	宝暦期 関東大洪水(1742)
1760～	225	1	228	1	455	明和安永期 田沼時代
1780～	98	2	241		341	天明寛政期 浅間焼(1783)大飢饉、寛政改革
1800～	66	1	190		257	文化期 外国船の来航しきり
1820～	37		100		137	文政期 化政文化最盛、天保の大飢饉
1840～	39		109	1	149	天保期 天保改革、開国(1858)
1860～	19		75		94	幕末期 世直し一揆、討幕運動
計	935	7	1,002	5	1,949	

上州の道しるべ

金子 規矩雄



安中市西上秋間
県内最古の道しるべ

県文化財保護課の企画による近世石造文化財総合調査が行われ、各市町村の調査報告カードから、事務局で「道しるべ」を抽出し、独・銘・丁石・磁石型の四種類に大別して、各市町村所在数を調査し別表とした。しかし市町村により調査の精粗がある様に考えられるので、この数字が県内所在の完全な数字を示しているとは言えないが、概数は知る事ができるのである。表の「独」は単に道しるべとして建てたもの、「銘」は建てた目的が二つ以上兼たもの、「丁石」は寺社等の目的地迄、一丁ごととか一里ごととかに建て、方向や距離数を示したものの、「磁石型」は路面に一個の板石

を置き、東西南北の方位を知らしめると共に、道しるべになっているものである。兼たものには、例えば「庚申塔」の如く単に「庚申」と二字だけのもの、「庚申塔」と三字のもの、「^キ」字だけのもの、背面金剛像を彫刻したものの等あつて、同一種類のものでも表現の仕方により幾通りにもなる。その正面に記した文字や、仏菩薩像等から名称を上げれば、次の如く多種多様になる。煩雑になるが記して見る。

◆念仏供養・為有縁無縁南無阿弥陀仏・奉造立案念仏供養・◆棄念仏供養・(地藏像)念仏地藏・十夜念仏供養塔・十六日念仏供養・普賢菩薩・奉造立万日廻向仏・不退妙転為菩提・馬頭大士・馬頭觀世音・馬頭觀世音菩薩・(馬頭觀世音像)奉造立供養馬頭觀世音・馬頭觀世音像・地藏立像(右側面に総回向文)◆南無地藏菩薩・六道能化地藏大菩薩・明貴奉造立庚申為菩提也祈所・道陸神・神祖神・双体道祖神像・百番巡拝觀音供養塔・◆^キ奉納百番供養塔・◆^キ百番供養塔・三十三ヶ所觀音巡拝塔・^キ奉願札西國坂東秩父百番供養塔・秩父西國坂東百番供養・南無阿弥陀仏・(如意輪觀世音像)二十二夜塔・(如意輪觀世音像)十九夜・十九夜供養塔・甲子塔・大黒天・弁才天・弁才待供養・月山湯殿山羽黒山西國供養・八海山大神御嶽山三笠山大神・常夜塔・御神塔・奉獻夜塔・大山祇大神・矜迦羅童子制陀迦童子・毘沙門天像・狼田彦尊・南無遍照金剛・大天狗小天狗石尊大権現・有縁無縁供養塔・三界万靈塔・大乗妙典供養塔・南無藥師琉璃光如来・大日如来・石橋供養塔・野火除火防・水神塔・(子育地藏像)南無妙法蓮華經・奉造立為二世菩提也・金毘羅山大権現・念仏百万遍供養塔・為先祖菩提・天王宮・(地藏立像)法界念仏供養・聖德太子・秋葉山等々があつてあるが、これ等は何れも江戸時代建立

のもので、利己的でなく社会性があり特に幾つかのものには、宗教的信仰心が滲じみ出て居て、感動を与えられるものがある。明治大正時代に政府勅奨の下に、青年団で建てた道しるべには、御大典記念、撰政宮御成婚記念、御即位記念、御成婚記念、平和記念、大正元年記念、耕地整理記念等、主として皇室の御慶事を記念したものが大多数で、皇室中心主義の思想のみ現れており、信仰的なものは無くなり、実用主義的で無味乾燥なもののみである。しかし、ただ一基「昭和御大典記念」に建てられた群馬町井出のものは、歌で道程を示すと云う潤いのある特筆すべきもので、「古昔伊香保道者のよまれし歌、梅園翁」と詞書があり、「伊香保路や井提野が原の庚申塚伊香保に三里赤坂に二里」「伊香保路の井提野に咲きし女郎花色ゆへ人につまればかな」の二首と「新井翠石刻」と石工名がある。(みやま文庫道しるべ)

ここで歌や俳句を記してある道しるべを上げておこう。

吾妻郡嬭恋村大笹登城

馬頭観世音と刻した高さ八六センチ、巾三六センチの自然石の碑の一方に「揚雲雀見聞いてここに休らふて右を仏の道と知るべし、正道」「嘉永五子歳五月吉日、佐藤五兵衛建之」と仏の道即ち善光寺へゆけると暗に大笹関所のぬけ道を教えているのである。

太田市東本町

百番供養塔と兼ねた柱状の道しるべで「右たてはやし、こか道、左日光道、やき、さの駅」他面に「百番供養塔、享保三癸亥八月吉日、願主太田宿水竹幸助義信」次の面に「ひとすじに出れハ安き法の旅今なすわざそ後の世の夢」と一首記されている、此処は日光例幣使街道の道分で、傍らに

建てられている地藏像の敷茄子にも道標銘がある。

北群馬郡子持村中郷長坂

高さ五六センチ、巾九センチの自然石の一面を平滑にし、「牧はもく白衣はしろる、うつりかはれる俚言いかげはせん」と詞書し、「志くるるや左は白井右はもく、幻重」と雅味のある文字で字配りも巧な、雅趣溢れる道しるべである。俳句のみで道を教えているのは他に無いであろう。子持村のガイドマップに文学碑コースの部に入れてあるのも宜なるかなと頷くことが出来る。小淵幻重は土地の俳人である。

伊勢崎市豊城町権現山東

高さ六七センチ、巾二・五センチの角柱型で正面に「六道能化地藏菩薩、享保三年戊八月日、玄海建之」右に「東わき屋、阿しかがみち、南さかい、江戸みち」左に「西いせさき、めうきみ(下欠損)」「北きりう、大ま、みち」裏面に「まよひ子にみちをおしゆるかしかな、北の坊梅翁」とある。心の迷いを救う地藏菩薩を案山子と結びつけた所が面白い。

北群馬郡小野上村小野子田ノ入

高さ八〇センチ、巾三三センチの道標で、「右邑人口道、左中之条道、文化二三年夏五月」「風吹くやすすきの中の傍示杭」と一句記されている。何処からか移建したものという。

次に丁石について記しておこう。

信州の新張村から地藏峠を越えて、上州の鹿沢温泉迄の距離は三里ある。

昭和八年八月私は友人と二人で、新張村から馬で峠を越えたが当時は、一丁毎に石仏が建てられていた。しかし、石仏の種類は記憶にない。今鹿沢温泉入口にある十一面観音立像はその内の一体である。信州番掛から草津

温泉への街道筋六里ヶ原に、文化・文政頃建られた百体観音の内十九番観音像外二、三体现存すると、みやま文庫道しるべにある。桐生から下野国の根本山への道筋にもあったと言うが今は見当らない。県内でまとまって遺存するのは、勢多郡新里村から、同郡粕川村の滝沢不動への丁石のみである。総数何基建てられたか不明であるが、一四基残っている。滝沢不動は岩窟の中に堂宇が建てられ、本尊不動明王が祀られている。近くの不動の滝は赤城山第一の滝で、今も修験行者が滝の下で荒行をしている信仰の道場である。新里村間の竜光寺門前に高さ一一三センチ、巾四五センチの角柱正面に「アベウツツ七十六丁目滝沢道」、右側に「アベウツツ」左側面に「天明八戌甲申六月吉日、前任尊盛立之、現住尊英代、石工信州宮下藤左衛門」とある。前、現二人の住職は滝光寺住職である。

新里村間には昭和四七年県指定になった「関の磨崖仏」がある。この磨崖仏の前に江戸時代に堂宇を建て、滝沢の不動を分霊して前不動として祀り信仰していた。「七十四丁廿間滝よりはまで、天明八戌甲申六月吉日」とある丁石は、高さ一〇〇センチ、巾二五・五センチの角柱である。鏡文中の「滝より」の滝は不動の滝である。

次に磁石型を紹介しよう。

石平面上に方位と地名を示した道しるべを磁石型としたのであるが、この型の物は極めて少く、総数六基あるのみである。恐らく全国にも少いであろう。その旧所在地は、勢多郡富士見村弓田・同城南村上増田・同城南村菟子（城南村の二基は前橋市立図書館保管）・同赤城村持柏木字庚申塚・富岡市上丹生字木戸坂（県立歴史博物館保管）・群馬郡榛名町高浜字六本辻である。六基の内四基が勢多郡に片寄っているのは如何なる理由であら

うか、恐らく何処か最初に造られたのに触発された結果であろうと思われる。四基の内紀年銘のあるのは城南村上増田のものと同榛名町高浜の二基である。

前橋市上増田町（現市立図書館）

高さ二三・六センチ、巾四五・四一五三センチの板状の石の上面に、南北と方位を示し放射線状に地名と距離を記してある。「右ふくしま一り、五科二り、左まいはし三り、さねまさ三り、右さんたい一り、大胡二り、左いせさき一り、文政七年十一月、上増田阿佐見善藏」と建立者の名が記されている。福島・五科・実正は利根川渡河地点である。

赤城村持柏木字庚申塚



赤城村持柏木の磁石型道標

高さ一六センチ、直径六〇センチの円形に加工された安山岩の表面に、放射状に方向と距離を記し、中央に「心」の一字を刻し、その周囲に東・西・南・北と記し、「日光十八里余、前橋三里半、高崎六里余、榛名町六里、沼田五里半、赤城三里半」と六方面が記されている。更にそれを取囲む様に周縁に丸く一首の和歌が記されている。「よつの方むつちまたにわかれとこころひとつにたつねてそゆ

け、「三水舎」と万葉仮名で草体に書かれている。側面に「勢多郡持柏木邑」とあるが、建立年月日や建立者名は無い。元は六本辻の中央に置かれて旅人に見易い様になっていたが、今は保存の為、道路の傍らに移建してある。磁石型道しるべ中の逸品である。村指定文化財。

富士見村引田字馬場裏

三差路中央にあり高さ一五センチ、直径五〇センチの円形、放射状に「引田村・米の・山口・こぐれ・大」と記し、○印の下に北と記して方位を示してある。

機名町高浜字六本辻

高さ四〇センチ、巾七〇―八〇センチの平板な石の上面に放射状に「高さき、やはた、むろ田、はるな、志らひは、のみち」と六方の道の地名を示している。南側面に「文化十四（以下欠損）」と建立年が記してある。

富岡市上丹生字木戸坂

直径六三センチの円形の石の上面に変体仮名で、放射状に方位と地名が記してある。「東いたはな、南下仁田、西ふどう明（下部欠損）（上部欠損）井出」とあり、「十二村 施主 さわ子」とある。欠損部には「王」と「北ま」を加へれば地名がハッキリする（みやま文庫道しるべ）。

石灯籠を兼ねた道しるべは現存するものは十四基であるが、他の道しるべと同様隠滅した物もあると考えられる。現存する物から何基かを上げて紹介して見よう。

高崎市倉賀野下町

えんま堂のある中仙道と例幣使街道の分去りの辻にある石打籠には、卒石の台に「右中山道、左日光道、文化十一年^{甲辰}八月四日、高橋佳年女書、

常夜灯」とあり、その台石には歌舞伎役者の名前から、力士の雷電、鬼面山、佐渡藏、鏡岩等々の名前、伊香保、草津、四万等の温泉地の旅館主名、江戸、信濃、京都等の遠隔地の寄付者名、板鼻の木島、藤木川岸の小樽などの富豪等多人数の関係者名が台石の四方にぎっしり刻されている。

高崎市大八木町諏訪神社入口

石灯籠の竿石に「常夜燈」とあり裏に「時仏老人書、文化十二年歳在乙未夏」と記し、反対面に多野郡新町宿の学者田口秋因の和歌が刻してある。「灯の光にさすか行かへのひとよ夜な夜な迷はずもがな」旅人が迷はぬ様にと祈りをこめた歌である。この灯籠にまつわる挿話をみやま文庫「道しるべ」から引用させて貰う。「この道標は、もとは多野郡新町の神流川原に建てたものである。それを明治二十四年になって、大八木村のものが譲り受けて移したものである。新町先の神流川は、水量が少ないので、徒歩渡りができた。中仙道を旅する人はこの川を渡って、武州から上州へ、上州から武州への旅をしたのであるが、後には仮り橋もできたらしいが、夜になるとこの灯籠と埼玉側の灯籠の一对に灯が入り、それを見通して川を渡ったので、「見通し灯籠」とよんでいた。埼玉県分はいまもある。この灯籠については面白い話がある。例の佛人小林一茶が、文化五年に新町宿に泊っていると、村役人と寺僧が訪れて、こんど旅人のために灯籠を立てるので篤志寄附をしてほしいと頼んだ。貧乏佛人の一茶は極力断わったが、ついに十二文とられてしまい、「手枕や小言いふても来る虫」の一句をつくっている。そうした金が集まって、文化十二年にできあがったのがこの灯籠である。有名な広重と英泉の合作になる「中仙道六拾九次」の浮世絵の新町には、ちゃんとこの灯籠が描かれている。」

高崎市鼻高町少林山

この灯籠道しるべは、信州高遠の石工の作で、竿石に「御神灯」と大書し、右側面に「鼓よ里、少林山北辰堂三丁、妙義五里、榛名六里」と里程を記し、「文化六^己三月吉日 講中」と建立年月を記し尚、土地の俳人四名の四季の句を一句宛記し、其他関係者名が記してある。元は石段にかかると川の手前であったが、何者かに倒されたので其後現在地に移建した。

吾妻町萩生分去り

昭和二十五年三月頃道路改修の爲埋没したのを昭和六十年四月三日発掘し、元の位置より約三米離して再建したという経緯のある、灯籠型道しるべである。「常夜塔」と竿部に、台石に「右ハくさず、左ハやむら道」右側に「明和四歳丁^亥十月吉日 惣村中」と記されている。昭和二十五年と言えば、敗戦後の物資不足と精神生活の混乱で、似非民主主義者や、似非社会共産主義者等が横行し、文化財破壊を特々としていった時代である。吾妻町に於いて荒廃した時代の潮流の現れの一端を、のぞき見られようとは思ひもよらない事であった。運の悪い灯籠と言ふ事が出来るであらう。

草津町草津南本町運動茶屋

泣きとうろうの名で親しまれているこの灯籠には、「献燈」と竿石に、他の所に「当温泉四十度入浴、万延元年庚申林鐘發旦、建立者上州新田郡阿久津村、白石栄左衛門正廣」と記し、基段の一つに「沢渡・中之条・四方・伊香保・沼田・日光道」裏側に「江戸・高崎・川原湯・大戸・長野原・信州道」と刻してある。建立者白石栄左衛門は尾島町阿久津の富豪で、信仰心が深く各地の社寺に、献納品が残っていた今も見ることが出来る。子孫も現存している。

子持村鯉沢

この道しるべ灯籠は、小川の流れる中洲に建ててあり、竿石に「奉納弁才天、右沼田町清水越、左草津善光寺道」とあり右側面に「明治二十^丁第七月」と記してある。明治になってからのものには珍しい弁財天信仰と兼用の道しるべである。



滝沢不動の丁石
新里村関竜光寺門前

安中市宿

風雅な形をした庚申塔と兼用の道しるべ灯籠である。竿石一ばいの大きな字で「庚申塔」と記し裏面に「従一宮大日街道」と刻し、背面に「享和二年九月中宿村講中」とある。世話人は木下左衛門、字は「高竜書」とある。尚一宮は貫前神社、大日は富岡市黒岩村にある大日堂をさしている（みやま文庫調べ）。

次に銘文に特徴のあるものを上げて置き度いと思う。

前橋市東大室町三差路

半内彫の地藏立像の下に「念仏塔」と刻し、右側面に「願以此功德、普及於一切、我等與衆生、皆共成佛道」と法華經卷第三、化城喻品第七の偈文の中の言葉が記してある。この偈文は天台宗では総回向文としてゐる。左に「明和六丑歲十一月吉日」基部に右「二ノ宮道」左「いせさきミチ」と記す

前橋市西大室町

「為有縁無縁南無阿弥陀仏、延享二丑年十二月吉日」と造立趣意と年月を記し「南いせさき□□や東左大まま道、右大原道、西大胡、前橋道、北ゆのさわ道」と道しるべを記し「千吉良氏」と造立者が記してある。

前橋市荒子神社

尖頭角柱の正面に「奉鎮猿田彦尊」台石に「当邑講中」と記し基台に「東志もおみや道、南いせさき道、西まゐは志道」とある。奉鎮とは珍しい。

前橋市上増田町近戸神社

正面に「貴奉唱阿弥陀称号二百万遍供養□」右に「右まへばし道」左に「左こま加た道」裏に「天明和五戊子歲三月吉日地主□□」と建立年月と施主名を記してある。

高崎市上中居町

馬頭観世音像の下正面に「奉造立供養馬頭観世音」「寛政十一己未季十一月吉祥日、為善男善女等現当利益也」右側に「可奉誦誦普門品供養塔、世話人、北ハこミチ、東はとうや道」と記し、左側に「可奉順礼秩父丹四箇所供養塔、願主成心、世話人、講中四拾人、南はら道」とある。馬頭観音像を建立し、観音經誦誦、秩父礼所順礼の供養塔をまとめ、道しるべを付

けて造塔回向を行ったのである。

高崎市観音山埋立地南

一般県道吉井安中線丁字路に、如意輪観音坐像の下に「右東北高崎道、右西富岡、下仁田路、左南小幡、福島途」とミチ字を三様に書分け、碑の裏面に「初無西東、今有北南、知迷岐路、無人山陰、弘養碑費、賽仏誠心、夜行加護、如意観音」と道しるべを建立した趣意を記してある。建立者は「高崎市中紺屋町、高橋手、勘兵衛謹立、同清七郎補助」とある珍しい道しるべである。建立年月日が記して無い。

高崎市大八木町

総高二一センチ、巾八四センチの正面に「道祖神」と大字で書き、台石の正面に「右玉村、いせさき道」左側に「左まへばし道」裏に「享和紀元辛酉初冬大八木邑、無幻道人光鏡書、石工白鳥常七」と記した堂々たる道しるべである。無幻は上毛三大書家の一人と称された。文化六年六十七才で没した。

伊勢崎市下道寺町字塔の辻

正面に「猿田彦大神」その下に「右五りやう、左やつたわたし」と記した円柱型の道しるべには「万延紀元庚申歲庚申尊一万基同秋九月庚申日建之、下道寺村中」庚申塔參拝一万基とは良く数えたと感心するのみである。

庚申塔巡拝記念塔は県内他に例が無いのではないだろうか。

太田市矢場恵林寺

高さ一一八センチの地藏菩薩立像に「法界御供養、延享十三丙寅十月廿四日、村中」台石に「右ハ小林道、左は台之郷」とある。法界御供養とは

珍しい銘文である。

沼田市今井町中山峠下

石造弘法大師像を安置した台石の正面に、「南無大師遍照金剛」、その左右に「秩父、西国、坂東、四国」と百番観音札所と大師八十八番札場が記してある。「安永九_三月三日、今井村願主星野氏」、「右ハぬまた道、左ハ加ミカは多道」と道しるべが付けてある。

館林市松原一丁目

「奉建立地藏尊」右に、「一慶善心皆具成仏導」左に、「享保二十年卯月十日」左り花山道と下に道しるべが付けてある。面白いのは、「皆具成仏導」と最後の一字が道でなく「みちびく」になっている事で花山へ導くとかけたのであろう。

藤岡市一丁目増信寺

高さ一七四センチ、巾二七・五センチの角柱を高さ三一センチの台石上に建つ立派な道しるべがある。正面に「左江戸、本庄、八幡山」右側面に「右秩父、渡瀬、鬼石」左側面に「左妙義、榛名、高崎、吉井」と記し裏面に「行人取路遇岐旁疑之、而於衛衛人馬錯雜之際動輒角不用意、誤行數里婦者常多、雖郷人亦不違侯之一々問審以指南、故今相議建議碑欲令莫迷途者也」と道しるべ建立の意図を記し、「天保壬辰冬十一月望、鶴年書、幹旋、浅見作兵衛、小松幸兵衛、田部井与兵衛、新井半兵衛」と建立年月日と書者、幹旋者氏名が記してある。この碑は元藤岡市の三本辻で、本庄へ行く広い道の分岐点にあった道標である。(市指定文化財)

藤岡市篠塚久保西宝院

反花を造出した六角の基礎の上に六地城を陽刻した六角柱を安置し、六角

の笠を載せた六地蔵塔がある。基礎に、「太随求陀羅尼十万遍、大仏頂陀羅尼十万遍、奉誦誦、願主光現院現住、除行純」と記し更に他面に「願以此功德、普及於一切、我等与众生、皆共成佛道」と回向文と「若人欲了智、一世一切仏、應感法界性、一切唯心造」と大方広仏華嚴経の偈を記し、「安永二_己年十一月吉日、施主篠塚村中、右ふじをか道、左新町道」と建立年月と道しるべがある。元これは五本辻にあったのを移建したのである。

藤岡市篠塚南興道十字路

反花のある四角の基礎の上に蓮台を置きその上に角柱をたて笠を載せた高さ二九センチの碑身東面中心に、「南無阿弥陀如来」左右に、「伏勝地藏菩薩、不休息地藏菩薩」南面に、「南無阿彌如来」左右に、「弘法大師、達磨大師」西面に、「南無宝生如来」左右に、「禪林地蔵菩薩、無二地藏菩薩、天明七年丁未五月吉日」北面に、「南無無量壽琉璃光如来」左右に、「護国地藏菩薩、諸竜地藏菩薩」基礎東面に、「右くらがの、左ふじおか」南面に、「右しんまち、左よしい」と道しるべが記してある。(市指定文化財)

群馬郡榛名町榛名神社参道玉垣鏡柱

「奉献江戸本町塩原屋太助、文化五_{戊辰}年八月吉祥日、御師大学坊小山金大夫寛一、子年男信州高遠藤沢郷、御堂垣外藤原政吉正敬、是よ里いかは江二里半」塩原太助寄進の玉垣親柱の銘である。

群馬郡箕郷町白川橋たもと

子育地藏像の背面に、「南無妙法蓮華経」と題目を記し台石に、「いかは、みのわ、左志らかわ、白岩」と道しるべを記す。日蓮宗信者の造立であろう。

吾妻郡吾妻町大柏木の塔

馬頭尊像の下に、「為志童男童女菩提也、天明五年、上州吾妻郡大柏木村」
白石に「右ハやまみち、左ハすがをみち」と記す。男女子供たちの回向の
ために村中で馬頭観音像を建立し、道しるべとしたのである。

吾妻郡長野原町中棚観音堂

乳児を抱いた子安観音坐像を蓮台上に安置し、その下の椋石に、「為早世
菩提」右側面に「右たき沢」左側面に「文化五^{戊辰}六月吉日」基台に「施
主篠原茂左工門、同伝右工門、釈氏石梁」。早世した子供の供養に観音像
を建立し合せて道しるべを付けたのである。

同郡長野原町大津洞口

地藏像に、「為善入如清法子、明和七年六月十二日、右ハくさつ、左ハ□
□」これも前のものと同様、早世した子供の供養の為に地藏像を建立し、
合せて道しるべを付け、地藏に死んだ子供の極楽への案内をたくした親心
が偲ばれる一基である。

新田郡新田町木崎大通寺

正面に「聖徳太子」と大書し、「新田源朝臣道純拜書 天保十一年歲在庚
子十一月吉祥日立之、当駅世話人、吉田新五郎他三十六人、右大門、左大
原、大間々」三十七名の結衆で田島の殿様新田道純の揮毫を得て建立した
ことが知れる。

新田郡藪塚本町大原滝原清作氏庭

頂部方錐状の角柱に南面「江戸道、太田、木崎、足利」、西面「あ津満道、
三奈、前橋、大胡、伊香保、伊勢崎、草津」、北面「足尾銅山日光道、相生、
大間々、赤城山」、東面「天保四年癸巳初秋建、上州新田大原駅、在」道

とある「あ津満道」とある珍しい道標。

新田郡笠懸村阿左美南光寺

倉の下に「^{ナツメ}阿左美南光」と正面に梵字で名字を書き側面に「寒念仏供
養、延享四丁^{天明}天立春日」と行事と建立年月日を記し、基礎正面を道しる
べとしている、名字を梵字で書いた寒念仏供養塔の道しるべは他に無いで
あろう。

邑楽郡板倉町岩田蛭田沼北谷田川提上

駒型角柱塔に「水神塔、安永九^{庚子}七月吉日、岩田村、北岩ふねみち、
西たてばやしみち」とある。水神塔の道しるべは県内これ一基ではないだ
ろうか。度々の洪水で甚大な被害を受ける土地が想像される。

板倉町飯野中新田浅間神社入口

頂部を櫛型に造った角柱上半部各面に地藏立像を半肉彫とし、その下中
央に「為先祖菩提」その左右に「天明四辰天、十二月吉日」その右下に「施
主」左に「活門禅心法印」左右側面地藏像下に道標を付けてある。先祖の
供養と共に、自他同證、平等利益を實踐しているのである。

邑楽町狸塚

正面に「不退妙転為菩提」と書き、「上州狸塚村、享和四^{甲子}二月吉日」
下に「右五かかし、ちう志よう、左たてばやし」とある。不退妙転為菩提
とは珍しい銘文である。簡単に言えば「有縁無縁供養塔」の一基と見れば
良いであろう。

上州の道祖神

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	番形
㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	所在地
下大島町 来迎寺	胸形町 胸形神社裏手	胸形町 胸形神社	胸形町 胸形神社	胸形町 胸形神社	上佐鳥町 春日神社 神楽殿南(3)	上佐鳥町 春日神社 神楽殿南(2)	上佐鳥町 春日神社 神楽殿南(1)	六供町 寿延寺門前	川原町 市杵嶋神社	
高さ68cm 巾56cm 総高98cm	高さ41.5cm 巾33cm 総高	高さ78cm 巾45cm 総高	高さ67cm 巾41cm 総高	高さ53cm 巾31cm 総高	高さ91cm 巾55cm 総高99cm	高さ91cm 巾55cm 総高99cm	高さ75cm 巾47cm 総高	高さ78cm 巾68cm 総高88cm	高さ55cm 巾32cm 総高71cm	方量
天明2	安永2	寛政12	寛政2	天明3	明和8	明和8	寛政4	天保12	不明	年代
道祖神 七月吉祥日 講中	(講柄御手) 安永一〇年 正月吉日	道祖神 (ウラ)寛政十一年 十二月吉日	道祖神 (ウラ)寛政二〇年 十一月吉祥日	道祖神 四月吉祥日 天明三癸卯年	道祖神 (ウラ)明和八年卯年九月吉日 西原中	神祖神 (ウラ)昭和八年卯年九月吉日 新町中	道祖神 (ウラ)寛政四一歳八月 中英書	天保(ウラ)天保十一年二月吉日 講中 村中		銘文
自然石	(像高四三〇)	自然石	自然石	位牌形	自然石	自然石	下部地中 自然石		像高32cm	備考

40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	番形
㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	所在地
一之宮 赤城神社	上増田 蓮花院隣 八幡宮	上増田 蓮花院隣 八幡宮	上増田 蓮花院隣 八幡宮	西片貝町 竜沢寺東参道	西片貝町 玉蔵院	西片貝町 竜沢寺東参道 入口左側	西貝片町 竜沢寺東参道 入口左側	小屋原町村社 稲荷神代	小屋原町村社 稲荷神社	
高さ85cm 巾72cm 総高	高さ15cm 巾60cm 総高	高さ28cm 巾32cm 総高	高さ60cm 巾32cm 総高67cm	高さ66cm 巾33cm 総高	高さ79cm 巾47cm 総高89cm	高さ81cm 巾53cm 総高	高さ85cm 巾75cm 総高	高さ15cm 巾46cm 総高	高さ66cm 巾18cm 総高	方量
天明2	不明	不明	文化5	不明	天明8	安永8	文政8	元延元	文久元	年代
道祖神 (ウラ)天明一壬寅□□	□□神 (ウラ)願主□村伊之吉 細野龍次郎	□祖神	道祖神 (ウラ)文化五〇年四月吉日	道祖神	道祖神 (ウラ)天明八〇年三月吉日 講中	神祖神 八月吉日 西片貝村 講中	安永八寅年 二月吉日 文政八酉歳 当村中 東おみこの道 西南まやばし	文政八酉歳 上毛野朝臣成孝拜書	道祖神 (ウラ)文久元年酉年三月吉日 西原講中	
自然石	凝灰岩製	凝灰石製	自然石	自然石	自然石	自然石	道標	自然石(板状)	自然石(板状)	備考

前橋市

50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	番 形
㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	所在地
上新田 雷電神社	下石倉 菅原神社	小相木町 富士浅間神社 入口	下大屋 産泰神社 神門前	三河町 正幸寺	下阿内 諏訪神社前	大渡町 王守神社	榑島町 飯玉神社	南町 水神社	上増田蓮花院隣 八幡宮	所在地
高さ60cm 巾42cm 総高77cm	高さ85cm 巾18cm 総高100cm	高さ79cm 巾50cm 総高	高さ70cm 巾45cm 総高86cm	高さ72cm 巾53cm 総高96cm	高さ66cm 巾50cm 総高	高さ49cm 巾35cm 総高69cm	高さ75cm 巾45cm 総高	高さ100cm 巾50cm 総高150cm	高さ100cm 巾82cm 総高	方量
寛保元	寛政11	不 明	文化13	寛政3	明和6	享保11	明和8	安永5	不 明	年代
寛保元年 西十二月吉日	(ウラ) 寛政十一 二月吉日 村中		道祖神 文化十三丙子年八月	道祖神 寛政三、 陽月大吉日 願主子供中	道陸神 明和巳 十一月吉日 村中	享保十一乙酉 八月吉日	道祖神 (ウラ)明和八年卯天 八月吉日	道祖神 (ウラ)安永五年 十一月吉日	道祖神	銘
(酒器持舟形) 像高15	自然石 リンゴ彫	自然石 旧三河酒に た(大徳寺近く)	隸書体	自然石		上部破損 (両神共無持ち)		隸書体	自然石	備考

60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	番 形
㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	所在地
田口町 雷電神社裏 福徳神横	田口町 雷電神社裏 福徳神横	関根町 赤城神社	関根町 赤城神社	関根町 赤城神社	下新田 稲荷神社	下新田 稲荷神社	上新田町 雷電神社	上新田町 雷電神社	上新田町 雷電神社	所在地
高さ70cm 巾57cm 総高116cm	高さ100cm 巾44cm 総高144cm	高さ64cm 巾39cm 総高69cm	高さ79cm 巾52cm 総高116cm	高さ88cm 巾76cm 総高113cm	高さ87cm 巾76cm 総高122cm	高さ85cm 巾51cm 総高140cm	高さ53cm 巾30cm 総高59cm	高さ52cm 巾31cm 総高60cm	高さ62cm 巾44cm 総高85cm	方量
不 明	文化7	天明6	不 明	不 明	文化12	天明8	宝暦4	不 明	寛保元	年代
道祖神 施主村中	道祖神 文化七庚午初春旦 當村中	道祖神 天明六月廿歳 霜月吉祥日	奉獻祖猿田彦尊	道祖神 村中	文化十二乙未歳 村中	道祖神 天明八戌申季 正月吉日	道祖神 宝暦四天 正月吉日	團二月日 戊戌天	寛保元 十二月吉祥日	銘
楷書体	尊書体	自然石	自然石	自然石	ゴ彫酒器持 自然石にリン	篆書体	自然石	像高30 舟形、握手握角	像高34 舟形握手握角	備考

70	69	68	67	66	65	64	63	62	61	番形
㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	所在地
六供町 八幡宮 鳥居わき	北代田 八幡宮	古市町 公民館 和尙塚	大友町 鏡宮神社	大友町 鏡宮神社	三俣町 三俣神社	石倉町上石倉 神明社	石倉町上石倉 神明社	文京町 八幡宮	田口町 雷電神社裏 福守神社並び	
高さ 82cm 巾 50cm 総高 116cm	高さ 82cm 巾 50cm 総高 116cm	高さ 59cm 巾 45cm 総高 84cm	高さ 54cm 巾 39cm 総高 73cm	高さ 58cm 巾 36cm 総高 73cm	高さ 60cm 巾 31cm 総高 73cm	高さ 45cm 巾 24cm 総高 58cm	高さ 64cm 巾 41cm 総高 94cm	高さ 86cm 巾 41cm 総高 100cm	高さ 77cm 巾 33cm 総高 100cm	方量
安永5	安永4	不明	不明	不明	天明元	享保16	不明	天保2	安永9	年代
道祖神 (ウラ) 安永五、天十一月吉日	道祖神 安永四、壬辰十一月吉日	不明 (掬手・掘削) 申三月吉日 兼今仏 供養 施主村中	不明 □保五年□十一月吉日	不明	道祖神 五月廿四日 天明元丑年 狩野氏	道祖神 享保十六年 □月吉日	不明	道祖神 (ウラ)天保二年 十一月吉日 右さねまさ 左はぎはら	道祖神 八月吉日 安永九庚子年	銘文
自然石	自然石	不明	舟形(酒器持)	舟型(掘手・掘削)		宝珠欠五輪塔 の火輪を代用	舟型(双体像) ・鳥型(子・彌) 像高四二センチ	自然石 ・石像道標 ・石像 ・石像 ・石像	自然石	備考

80	79	78	77	76	75	74	73	72	71	番形
㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	所在地
総社町野馬塚 神明宮	若宮町 飯玉神社	鳥取町 鳥取橋際	勝沢町 勝城神社	勝沢町 勝城神社	鳥取町 大鳥神社	鳥取町 大鳥神社	鳥取町 大鳥神社	上泉町 赤城山玉泉寺	女屋町 桃川神社 女屋町公民館	
高さ 68cm 巾 40cm 総高 108cm	高さ 97cm 巾 58cm 総高 130cm	高さ 70cm 巾 40cm 総高 85cm	高さ 38cm 巾 15cm 総高 53cm	高さ 87cm 巾 48cm 総高 115cm	高さ 68cm 巾 40cm 総高 83cm	高さ 77cm 巾 70cm 総高 109cm	高さ 77cm 巾 57cm 総高 109cm	高さ 98cm 巾 49cm 総高 133cm	高さ 69cm 巾 39cm 総高 100cm	方量
安永3	天明5	天明5	不明	不明	安永6	天明5	安永6	文政5	天明5	年代
道祖神 二月吉祥日 安永三年	道祖神 (ウラ) 天明五年四月吉日 當村中	不明 天明五、己辰 五月吉祥日 曲輪中	道神宮	道祖神	道祖神 九月吉祥日 安永六、丁酉歲 曲輪中	道祖神 (ウラ)天明五、己年 四月吉日	道祖神 九月吉祥日 安永六、丁酉歲	道祖神 ウラ 文政三、庚辰歲 三月吉日 上泉村西、西組	道祖神 (ウラ)天明五、己年 仲□吉日 講中	銘文
自然石	自然石	破風形	鳥居の額兼書	自然石	自然石	自然石	自然石	自然石	自然石	備考

前橋市

90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	番号
②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②
下長磯 お上人塚	下長磯 お上人塚	神明宮 小島田	近戸神社 丸井	駒形 琴平宮	富田町 吹地	泉沢一區	泉沢一區	泉沢一區	荒口町 前原	所在地
高さ 36cm 巾 25cm 総高 25cm	高さ 70cm 巾 47cm 総高 83cm	高さ 89cm 巾 50cm 総高 99cm	高さ 110cm 巾 60cm 総高 117cm	高さ 58cm 巾 32cm 総高 32cm	高さ 68cm 巾 38cm 総高 83cm	高さ 55cm 巾 50cm 総高 73cm	高さ 73cm 巾 50cm 総高 88cm	高さ 75cm 巾 63cm 総高 90cm	高さ 96cm 巾 105cm 総高 105cm	方量
寛政5	天保15	天明3	享和3	文化14	文政5	寛政13	安永8	天保15	天保3	年代
道祖神 寛政五廿九日 小川与口	道祖神 天保十五年 六月吉日 村中	道祖神 天明三月 四月吉日 當村中	道祖神 享和三支歲 四月吉日 當村中	道祖神 文化十四丁 正月吉日 上町中	道祖神 文政五年 四月吉日 大沢氏	道祖神 寛政十二年 十一月吉日	道祖神 安永八年 八月吉日 北天こ之道	道祖神 天保十五年 六月吉日 村中	道祖神 天保三年 十一月吉日 村中	銘文
下部地中	基部地中		台石は石臼	自然石 下部地中			道標		自然石 道標 隆形	備考

100	99	98	97	96	95	94	93	92	91	番号
②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②
青梨子町前原 熊野神社	上青梨子町 淡島神社	青梨子町 前原上宿	元総社町 総社神社	元総社町 総社神社	元総社町 総社神社	元総社町 総社神社	上青梨子町前原 新田	上青梨子町 淡島神社	上青梨子町 淡島神社	所在地
高さ 42cm 巾 70cm 総高 70cm	高さ 93cm 巾 96cm 総高 106cm	高さ 96cm 巾 106cm 総高 106cm	高さ 48cm 巾 82cm 総高 82cm	高さ 58cm 巾 58cm 総高 58cm	高さ 43cm 巾 64cm 総高 64cm	高さ 45cm 巾 65cm 総高 65cm	高さ 40cm 巾 45cm 総高 66cm	高さ 99cm 巾 106cm 総高 106cm	高さ 75cm 巾 75cm 総高 75cm	方量
明和元	明和3	明和2	明和元	明和元	宝曆9	宝曆9	寛保3	享和3	不明	年代
明和元年 十一月吉日 前原村	明和三年 四月吉日 観念仕講中	明和二年 七月吉日 上屋敷中	明和元年 天十二月大吉日 元總社鳥場口中	明和元年 十一月 村金井口中	宝曆九年 月吉日 宝曆九口	宝曆九年 天十二月 總社前納手	寛保三年 天七月吉日 当 遺立 寛保三年 天七月吉日	享和三年 三月 上青梨村		銘文
像高 43		像高 38	とつくり、林 えほし	倒れている	像高 23	像高 17	手つなぎ	像高 32	間越道工事のため 形をたよつて 移したとみず	備考

110	109	108	107	106	105	104	103	102	101	番形
② 元総社町 宮鍋様	② 元総社町 宮鍋様	② 青梨子町前原 上宿二二〇	② 元総社町 總社神社	② 元総社町 宮鍋様	② 元総社町 總社神社	② 元総社町 總社神社	② 上青梨子町 三ノ原峰果 建具店前	② 池端町 神明宮	② 青梨子町前原 上宿二二〇	所在地
高さ 75 cm 巾 48 cm 総高 90 cm	高さ 74 cm 巾 47 cm 総高 89 cm	高さ 50 cm 巾 33 cm 総高 58 cm	高さ 57 cm 巾 48 cm 総高 85 cm	高さ 45 cm 巾 25 cm 総高 66 cm	高さ 63 cm 巾 35 cm 総高 98 cm	高さ 61 cm 巾 57 cm 総高 118 cm	高さ 36 cm 巾 49 cm 総高 85 cm	高さ 36 cm 巾 63 cm 総高 101 cm	高さ 45 cm 巾 57 cm 総高 102 cm	方量
天明8	文化10	不明	享保6	不明	不明	不明	不明	不明	不明	年代
道祖神 天明八戊申十月吉日	文化十□□ (天孫降臨型)	道祖神	享保六年 (併立石酒器持左傘?) 五四月十一□						道保神	銘
像高 38	自然石	像高 46	像高 46			徳 へい 利 東	像高 45	像高 45		文
										備考

120	119	118	117	116	115	114	113	112	111	番形
② 上泉町 宝林寺	② 鳥羽町 大福寺西の辻	② 上泉町 西林寺	② 總社町野馬塚 神明宮	② 上青梨子町 淡島神社	② 上青梨子町 淡島神社	② 元総社町 總社神社	② 青梨子町前原 上宿一一二〇	② 青梨子町前原 上宿一一二〇	② 青梨子町前原 熊野神社	所在地
高さ 75 cm 巾 48 cm 総高 90 cm	高さ 74 cm 巾 47 cm 総高 89 cm	高さ 50 cm 巾 33 cm 総高 58 cm	高さ 57 cm 巾 48 cm 総高 85 cm	高さ 45 cm 巾 25 cm 総高 66 cm	高さ 63 cm 巾 35 cm 総高 98 cm	高さ 61 cm 巾 57 cm 総高 118 cm	高さ 36 cm 巾 49 cm 総高 85 cm	高さ 36 cm 巾 63 cm 総高 101 cm	高さ 45 cm 巾 57 cm 総高 102 cm	方量
天明8	文化10	不明	享保6	不明	不明	不明	不明	不明	不明	年代
道祖神 天明八戊申十月吉日	文化十□□ (天孫降臨型)	道祖神	享保六年 (併立石酒器持左傘?) 五四月十一□						道保神	銘
像高 38	自然石	像高 46	像高 46			徳 へい 利 東	像高 45	像高 45		文
										備考

高崎市

130	129	128	127	126	125	124	123	122	121	番形
房九 公民館前	房九 四休明神	極楽寺境内社	鶴小路	川曲町 (岡田家重圍三差路 中央高校東方)	前箱田町 稲荷大明神	西箱田公民館 菅原神社境内	西箱田公民館 菅原神社境内	西箱田公民館 菅原神社境内	後家町 稲荷神社	所在地
高さ110cm 巾85cm 総高	高さ73cm 巾51cm 総高	高さ62cm 巾20cm 総高	高さ110cm 巾75cm 総高	高さ62cm 巾37cm 総高	高さ39cm 巾34cm 総高	高さ95cm 巾40cm 総高	高さ48cm 巾34cm 総高	高さ66cm 巾46cm 総高	高さ57cm 巾45cm 総高	方量
安永3	安永3	明和6	寛政4	宝曆3	不明	文化5	享保12	元文5	寛保3	年代
道祖神 十一月大吉日	道祖神 十一月吉日 右まいし、房名盆中 安永三年四季	握手桶屋 明和六己三年九月吉日 地家村 阿内村 女講中	道祖神 寛政四年八月吉祥日 當村 (白石) 右惣社道 左高崎道	宝曆三癸天 酒器持(瓶子蓋) 十一月吉日	道祖神 下部地中	道祖神 西箱田村 文化戊辰冬季穀日	道祖神 (備用) 男神向つて左が女神 の下腹帯を叩えている 十一月吉日	元文五年庚申 (握手桶屋) 十一月吉日	寛保三癸天 (握手桶屋) 七月吉日	銘文
	自然石 台石 像高33	破風型	自然石	像高39 舟形光背 台石下部地中	自然石	自然石に篆書 で大きく	舟形光背 像高43	舟形光背 像高43	舟形光背 像高三九・五	備考

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	番形
矢嶋町 鈴之宮神社境内	南大類町 大住神社境内	中嶋町 公民館前 観音堂跡	元嶋一名町西方 百庚申前	下大類町 荒木正一宅裏 道	矢嶋町前村 堀端	彦島神社境内 矢嶋町	宿大類町 公民館東	上大類町 飯玉神社境内	上大類町 井上コーボ前	所在地
高さ86cm 巾40cm 総高	高さ57cm 巾29cm 総高	高さ60cm 巾41cm 総高	高さ80cm 巾15cm 総高	高さ46cm 巾36cm 総高	高さ45cm 巾45cm 総高	高さ60cm 巾37cm 総高	高さ57cm 巾42cm 総高	高さ64cm 巾37cm 総高	高さ55cm 巾42cm 総高	方量
不明	慶応3	延享2	寛政12	宝曆4	明和8	元文5	寛延2	不明	不明	年代
道祖神	道祖神 南大類村 總代 天田富次郎	延享二年己九月吉日 (握手)	寛政十二年十一月吉日 元嶋名村西方中	宝曆四年十一月吉日 笠原中 (酒器持)	明和八年 (酒器持)	元文五年三月吉日 □祖神 酒器持 矢嶋 反町彦一良	寛延二年正月吉日 願主 (酒器持) (台) 道祖神	(酒器持)	(備用 握手)	銘文
自然石	自然石真一つ に割れている		自然石	光背形			光背形	破風形影有	向右側面影有	備考

高崎市

上州の道祖神一覧

78 - 82 頁は

個人情報が含まれるため非公開

120	119	118	117	116	115	114	113	112	111	番形
②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②
倉賀野町下町 諏訪神社	倉賀野町上町 倉賀野神社	倉賀野町上町 倉賀野神社	倉賀野町上町 倉賀野神社	倉賀野町 田子屋	下佐野町 翁橋西の辻	下佐野町 「放光神社」南	下佐野町 「古峯神社」	上佐野町「西光庁」 東の辻	下大頭町 新居八雲道社	所在地
高さ 85cm 巾 50cm 総高 112cm	高さ 60cm 巾 60cm 総高 120cm	高さ 60cm 巾 60cm 総高 120cm	高さ 60cm 巾 60cm 総高 120cm	高さ 56cm 巾 37cm 総高 93cm	高さ 50cm 巾 50cm 総高 100cm	高さ 74cm 巾 50cm 総高 124cm	高さ 80cm 巾 45cm 総高 125cm	高さ 60cm 巾 60cm 総高 120cm	高さ 60cm 巾 60cm 総高 120cm	方量
天明3	不	明	明	文化5	宝暦5	不	明	明	宝暦13	年代
道祖神 天明三季正月吉禊日氏子			文化二年乙丑正月吉日 上町惣子供施主大熊三右エ門	宝暦五年乙丑正月吉日 田子屋	道祖神 翁講中	道祖神 □□元月十日吉日 左□□右ハ野道	文正所守一書 道祖神 文化十五戊寅 三月吉日	道祖神	道祖神 宝暦十三戌未 正月吉日	銘文
						明和元年 宝永元年	徳道標			備考

130	129	128	127	126	125	124	123	122	121	番形
②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②
栗崎町 栗崎神社	栗崎町 栗崎神社	東中里町 水雷若御子神社	台新田町 稲荷神社	下之城町 諏訪神社	下之城町 諏訪神社	下之城町 水路端	下之城町 松村	新後閑町 琴比羅宮東三差路	倉賀野町下町 諏訪神社	所在地
高さ 63cm 巾 48cm 総高 111cm	高さ 60cm 巾 60cm 総高 120cm	高さ 54cm 巾 37cm 総高 91cm	高さ 55cm 巾 34cm 総高 89cm	高さ 45cm 巾 40cm 総高 85cm	高さ 37cm 巾 38cm 総高 75cm	高さ 60cm 巾 40cm 総高 100cm	高さ 47cm 巾 36cm 総高 83cm	高さ 100cm 巾 75cm 総高 175cm	高さ 75cm 巾 56cm 総高 131cm	方量
不明	不明	不明	不明	延享元	天保2	延享2	不明	天保4	不明	年代
道祖神	道祖神	享元□天十一月吉日中村村中		延享元年(天十一月吉日)下之城村	□保二年三月吉日下之城村	延享二年正月吉日		天保四巳二月日	道祖神 氏子	銘文
										備考

140	139	138	137	136	135	134	133	132	131	番形
②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	所在地
綿貫町 赤城神社	下中居町	下中居町	下中居町 普門寺入口の反対側	上中居町 諏訪神社入口西	上中居町 諏訪神社	上中居町 諏訪神社	上中居町 極楽寺前	下大類町 丸家呉本店うら	矢中町 東外水路端	所在地
高さ 69cm 巾 40cm 総高 94cm	高さ 58cm 巾 33cm 総高 82cm	高さ 68cm 巾 48cm 総高 112cm	高さ 60cm 巾 47cm 総高 107cm	高さ 93cm 巾 40cm 総高 133cm	高さ 63cm 巾 35cm 総高 98cm	高さ 34cm 巾 42cm 総高 76cm	高さ 58cm 巾 36cm 総高 94cm	高さ 63cm 巾 35cm 総高 98cm	高さ 51cm 巾 35cm 総高 86cm	方量
天明6	天保6	安政4	享和3	文政6	天明4	延享2	不明	安永7	不明	年代
天明六年十二月吉日 綿貫村講中 道祖神	天保六年霜月吉日 当所 新井中 道祖神	安政四年丁巳正月吉辰西北中 松琴邦喜書 道祖神	享和三年 霜月吉日 道祖神	文政六年庚子正月吉日 当所氏子中 道祖神	天明四年正月吉日 字名屋中 道祖神	延享二年 〇月吉日 道祖神	延享〇年 十一月吉日 道祖神	安永七年 八月吉日 道祖神	道祖神	銘
						欠				備考

150	149	148	147	146	145	144	143	142	141	番形	
②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	所在地	
南大類町 馬頭観音堂	南大類町 馬頭観音堂	八幡原町 八幡宮	下滝町 赤城神社	下滝町 赤城神社	下滝町 赤城神社	上瀧町 滝宮神社	綿貫町 天王さま	綿貫町 天満宮	綿貫町 小林	綿貫町 諏訪神社	所在地
高さ 76cm 巾 51cm 総高 89cm	高さ 39cm 巾 34cm 総高 73cm	高さ 67cm 巾 46cm 総高 113cm	高さ 54cm 巾 40cm 総高 94cm	高さ 82cm 巾 55cm 総高 137cm	高さ 95cm 巾 62cm 総高 157cm	高さ 75cm 巾 60cm 総高 135cm	高さ 75cm 巾 43cm 総高 88cm	高さ 99cm 巾 41cm 総高 140cm	高さ 90cm 巾 47cm 総高 137cm	方量	
宝暦4	宝暦3	寛政元	宝暦7	文化15	不明	宝暦6	明和6	天明5	天明6	年代	
宝暦四年戊辰正月吉日	(宝暦) 〇〇三歳 大類村 正月吉日	寛政元年 寛政示己酉 道祖神	宝暦七年己巳九月吉日 道祖神	文化十五年戊寅年 正月 道祖神 下瀧村		宝暦六年十一月吉日 道祖神	明和六年八月吉日 道祖神	天明五年己巳正月吉日 道祖神 綿貫 小林中	天明六年十二月吉日 道祖神 曲師講中	天明六年十二月吉日 道祖神	銘
										備考	

160	159	158	157	156	155	154	153	152	151	番形
②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	所在地
観音寺西藤川端	中豊岡町 上台公民館西	中豊岡町 下台公民館	中豊岡町 車道シテ十本 剣崎との境	豊岡町 和風のレストラ 内の橋脇	上豊岡町 宗伝寺南水路端	藤塚町 総の宮	佐野窪町	下佐野町 一本松橋ノブ手前	南大類町柳原 馬頭観音堂	所在地
高さ96cm 巾65cm 総高	高さ94cm 巾58cm 総高	高さ68cm 巾82cm 総高	高さ75cm 巾38cm 総高	高さ98cm 巾52cm 総高	高さ100cm 巾60cm 総高	高さ180cm 巾70cm 総高	高さ45cm 巾30cm 総高	高さ95cm 巾90cm 総高	高さ53cm 巾33cm 総高	方量
明和7	宝暦4	宝暦12	明和6	不 明	寛政12	宝暦3	不 明	天保14	宝暦6	年代
道祖神 明和七庚辰 九月吉辰	道陸神 宝暦四戌 三月吉日	道祖神 宝暦十一 六月吉日下台 藤川	道祖神 明和六年八月 吉日	道祖神 □□□ 三月申中流造立之	道祖神 寛政十二庚辰 六月吉日 前村中	道祖神 宝暦三四年 正月吉辰	□保一	道祖神 天保十四年 癸卯正月吉日 原講中	□曆六十一年 月吉日中大類藩 村中	銘文
						自然石	舟形	自然石		備考

170	169	168	167	166	165	164	163	162	161	番形
②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	所在地
片岡町二丁目33 南東の角	片岡町三丁目 変形十字路	乗附町下乗附 乗附公民館脇	乗附町下乗附 乗附一号楼ざわ	乗附町上乗附	乗附町上乗附	鼻高町上鼻高 天満宮	鼻高町上鼻高 天満宮脇を南へ登 るY字路	上豊岡町食堂 里見道「西」脇	上豊岡町 「四川」の脇を北に 入った左手	所在地
高さ116cm 巾45cm 総高	高さ116cm 巾45cm 総高	高さ100cm 巾80cm 総高	高さ90cm 巾68cm 総高	高さ85cm 巾39cm 総高	高さ52cm 巾33cm 総高	高さ49cm 巾32cm 総高	高さ67cm 巾40cm 総高	高さ96cm 巾90cm 総高	高さ76cm 巾42cm 総高	方量
元治2	不 明	享保11	安永9	天明5	天保6	不 明	不 明	宝暦11	明和元	年代
道祖神 正月吉祥日 氏子中	道祖神 寛□□□□四月	道祖神 享保十一年 四月吉日	道祖神 安永九九年 四月吉日	道祖神 天明五乙巳年 正月吉日 氏子中	道祖神 天保六□□年二月廿日 上州□□□村			道祖神 宝暦十一巳年 十一月六日 村中	明和元年 春 道祖神 十一月 氏子	銘文
自然石	板状石塔	自然石	自然石	自然石	起舟形	舟形	自然石	自然石		備考

180	179	178	177	176	175	174	173	172	171	番形
②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	所在地
寺尾町 中即Y字路一号楼	寺尾町 姥山公民館の角	寺尾町 「寺尾小」西南の角	寺尾町 一号楼東三差路	寺尾町 掛古屋から寺尾へ 入ってY字路	石原町東半田	石原町東半田 東半田公民館脇	石原町 三島寺遺址北北路傍	石原町 有賀園脇を東南に入 った三差路	石原町 有賀園入口の辻	所在地
高さ16cm 巾90cm 総高90cm	高さ30cm 巾30cm 総高30cm	高さ36cm 巾36cm 総高36cm	高さ65cm 巾65cm 総高65cm	高さ93cm 巾66cm 総高93cm	高さ90cm 巾68cm 総高90cm	高さ95cm 巾70cm 総高95cm	高さ105cm 巾65cm 総高105cm	高さ105cm 巾65cm 総高105cm	高さ130cm 巾76cm 総高130cm	方量
文政2	嘉永3	不	寛延3	文化8	不	宝暦9	不	不	不	年代
道祖神 文政一巳歳正月吉日 当町氏子中	道祖神 嘉永三年 九月吉日	不	道祖神 寛延三庚午 正月吉日	道祖神 文化八年壬申仲秋 当所中	道祖神 「当」以下埋没	道祖神 宝暦九巳歳 七月吉日 当郷中	道祖神	道祖神	道祖神	銘
自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	自然	舟	自然	備考
石	石	石	石	石	石	石	石	形	石	

190	189	188	187	186	185	184	183	182	181	番形
②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	所在地
阿久津町岩立 山名団地西T字路	山名町 山名八幡宮	阿久津町 山名八幡宮 のT字路	木部町田端 県道端	阿久津町 ブロック塀の角	阿久津町 氏宅東の路傍	阿久津町 「心洞寺」北うらの角	阿久津町 「地蔵」北北路を西 に入れた突きあたり	阿久津町 共栄橋の南を左折坂 助下のT字路	阿久津町 共栄橋南石垣下	所在地
高さ58cm 巾36cm 総高58cm	高さ30cm 巾30cm 総高30cm	高さ30cm 巾30cm 総高30cm	高さ51cm 巾38cm 総高51cm	高さ30cm 巾30cm 総高30cm	高さ30cm 巾30cm 総高30cm	高さ59cm 巾28cm 総高59cm	高さ55cm 巾35cm 総高55cm	高さ44cm 巾37cm 総高44cm	高さ57cm 巾32cm 総高57cm	方量
不	不	享保14	不	不	明和5	不	不	不	宝暦5	年代
		享保十四巳酉正月吉日	安□□ （上部欠半ばで折損） □□□□村田端	宝暦□年 正月吉日阿久津村	明和五年子正月吉日	阿久津村	（年部分欠損） □□津西村組	（上部欠損）	宝暦五乙未年五月吉日 阿久津	銘
				舟	舟	板	舟		起	備考
				形	形	碑	形		舟	

高崎市

200	199	198	197	196	195	194	193	192	191	番 形
②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	所在地
山名町 光台寺南東十字水路帯	山名町 光台寺南東十字路 水路帯	下豊岡町 千日堂の西十字路	根古屋町 宝性寺南十字路北側	根古屋町上組 念沢神入口東十米程	根古屋町中郷 根古屋城址登り口	根古屋町 薬師沢橋北	片岡町 片岡第一号 児童公園南西角	上佐野町 天神さま	山名町戸屋 山名伊集原十字路 を東に入った右手	所在地
高さ30cm 巾32cm 総高cm	高さ29cm 巾30cm 総高cm	高さ89cm 巾67cm 総高cm	高さ98cm 巾80cm 総高117cm	高さ156cm 巾130cm 総高cm	高さ86cm 巾47cm 総高112cm	高さ90cm 巾116cm 総高cm	高さcm 巾cm 総高cm	高さcm 巾cm 総高cm	高さ55cm 巾37cm 総高cm	方量
不明	不明	宝暦13	明和6	明和5	明和2	明和4	天保4	寛保3	不明	年代
□祖神		道祖神 宝暦十二〇〇	道祖神 明和六己年 当所 正月吉祥日 講中	道祖神 明和五戊子年 根小屋村 正月吉祥日 上組	道祖神 明和一乙酉天	道祖神 明和四丁亥年五月吉祥日 当村 下組	(酒器持ち) 天保四己年五月吉日落合氏子中	(肩くみ手にきり) 寛保三亥年 正月吉祥日	道祖神	銘
欠	欠	自然石	自然石	自然石	自然石	自然石	自然石	舟形		備考
損	損									

202	201	番 形
②	②	所在地
上乗附大黒	中豊岡町 中華料理 四川うら庭	所在地
高さ61cm 巾50cm 総高cm	高さcm 巾cm 総高cm	方量
正徳5	不明	年代
(合掌) 十一月吉日	正徳五乙未戊	銘
		文
破風形	欠損	備考

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	番 形
②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	所在地
境野町六丁目 祥雲寺門前	広沢町五丁目	広沢町四丁目 水神橋下	広沢町二丁目 雷電神社	広沢町間の島 金井自動車近く	梅田町五丁目 石鴨	梅田町四丁目 猿石	梅田町四丁目 荷場	梅田町一丁目 湯沢	梅田町一丁目 大門	所在地
高さ 38 cm 巾 79 cm 総高 不明	高さ 32 cm 巾 61 cm 総高 不明	高さ 41 cm 巾 75 cm 総高 11	高さ 58 cm 巾 55 cm 総高 8	高さ 31 cm 巾 67 cm 総高 不明	高さ 60 cm 巾 41 cm 総高 4	高さ 78 cm 巾 50 cm 総高 7	高さ 79 cm 巾 46 cm 総高 6	高さ 80 cm 巾 46 cm 総高 不明	高さ 80 cm 巾 46 cm 総高 5	方 量
不明	不明	寛政11	寛政8	不明	宝暦4	天明7	天明6	不明	天明5	年 代
道祖神	道祖神	道祖神 寛政十一年星舎 己未秋八月	道祖神 寛政八年 星舎丙辰春三月	道祖神	宝暦四年 十一月日 (亀に乗る)	道祖神	道祖神	道祖神	道祖神 天明五乙巳晩冬吉日 折内田平四郎 願主内田平左登	銘 文
					市舟 重形 文	自然石 二波神社 櫓書	自然石 残馬神社里言 櫓書	自然石 行書	自然石 行書	備 考

15	14	13	12	11	番 形
②	②	②	②	②	所在地
水明寺	川内町三丁目	川内町五丁目 赤城神社	川内町五丁目 忠霊塔	川内町一丁目 峠	所在地
高さ 40 cm 巾 70 cm 総高 不明	高さ 50 cm 巾 31 cm 総高 不明	高さ 35 cm 巾 46 cm 総高 3	高さ 30 cm 巾 32 cm 総高 不明	高さ 31 cm 巾 71 cm 総高 不明	方 量
天明7	安永9	文政3	不明	不明	年 代
道祖神 天明七丁十一月吉日 當所願主星野氏	道祖神 安永九年十二月吉日	道祖神 文政三庚辰年二月吉日 願主今泉三之助			銘 文
			舟 形	合舟 掌形	備 考

上州の道祖神一覧 89、90頁は
個人情報が含まれるため非公開

46	45	44	43	42	41	40	番 形
㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	
飯島町 薬師堂	長沼町 養気山	馬見塚清水町 五十五風 ホンダ北	中町和田三九二	上之宮町 倭文神社	宮子町 一四一〇 中野建設西五	稲荷町 今村神社	所 在 地
高さ 41cm 巾 60cm 総高 60cm	高さ 34cm 巾 55cm 総高 55cm	高さ 33cm 巾 41cm 総高 41cm	高さ 29cm 巾 82cm 総高 82cm	高さ 33cm 巾 76cm 総高 76cm	高さ 17cm 巾 46cm 総高 46cm	高さ 46cm 巾 69cm 総高 69cm	方 量
不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	年 代
道祖神	道祖神	道祖神	道祖神	道祖神	道祖神	道祖神	銘 文
自然石	駒型	自然石	自然石	自然石	自然石	箱型	備 考

4	3	2	1	番 形	太 田 市
㊸	㊸	㊸	㊸		
(鳥山)新野 赤城神社	(玉泉)下田島 日吉神社	(強戸)寺井 聖王寺	(玉泉)下田島 日吉神社	所 在 地	
高さ 88cm 巾 46cm 総高 88cm	高さ 42cm 巾 27cm 総高 42cm	高さ 88cm 巾 51cm 総高 88cm	高さ 50cm 巾 24cm 総高 50cm	方 量	
天保5	文化5	寛政6	寛政6	年 代	
道祖 猿田彦大神	文化五戊辰年十一月吉日 (握手) 願主桑原氏	寛政六年五月壬寅日 道祖神	寛政六年正月吉祥日 道祖神	銘 文	
自然石				備 考	

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	番 形	沼 田 市
⑩	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①	所在地	
新上久屋町 新田	尾形原町 北原	尾形原町 篠尾神社	井土上町 中井 塔之辻 野村利一家	町田町(西)	石愚町(東) 大神宮境内	新田 石愚町(東)	上久屋町 十二反	新田 上川田町	石愚町 なべかいと	所在地	
高さ 54cm 巾 33cm 総高 54cm	高さ 66cm 巾 36.5cm 総高 66cm	高さ 53cm 巾 36cm 総高 53cm	高さ 57cm 巾 35.5cm 総高 57cm	高さ 54cm 巾 34.5cm 総高 54cm	高さ 64cm 巾 36cm 総高 85cm	高さ 78cm 巾 48cm 総高 112cm	高さ 60cm 巾 40cm 総高 60cm	高さ 61cm 巾 40cm 総高 78cm	高さ 34cm 巾 34cm 総高 47cm	方 量	
延享2	延享元	延享元	寛保4	寛保2	元文5	元文5	元文4	元文4	元文2	年 代	
(道祖神双神像) 延享二丑歳 四月吉日	(道祖神双神像) 延享元年十月吉日	(道祖神双神像) 延享元年六月吉日	(道祖神双神像) 寛保四年 子三月吉日	(道祖神双神像) 寛保二年 五月吉日	(道祖神双神像) 元文五年 四月吉日	(道祖神双神像) 元文五年 申四月吉日	己 未 仲春吉立之日 (道祖神双神像) 元文四年	(道祖神双神像) 元文四年五月吉日 奉立口道祖神川田村小西保太郎 酒持ち手振り	(道祖神双神像) 元文二年 二月吉日	銘 文	
肩くみ手振り	破風型 肩組み手振り	破風型 肩組み手振り	破風型 手振り	光背型 手振り	破風型 肩組み手振り	自然石 肩組み手振り	光背型 女神像あり の持たせ	板碑型 酒持ち手振り	自然石 肩組み手振り	備 考	

20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	番 形	沼 田 市
⑩	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①	所在地	
中免知町 湯舟橋上	鍛冶町 正覚寺観音堂前	坊新田町 真庭今助家脇	善桂寺町 天満宮	恩田町 熊野神社	下沼田町 武尊神社	上久屋町 上久屋神社	下久屋町 新田	戸鹿野町 東原寺	井上上町 諏訪神社	所在地	
高さ 61cm 巾 32cm 総高 61cm	高さ 57cm 巾 33cm 総高 57cm	高さ 59cm 巾 37cm 総高 59cm	高さ 79cm 巾 45cm 総高 79cm	高さ 58cm 巾 38.5cm 総高 58cm	高さ 56.5cm 巾 35.5cm 総高 56.5cm	高さ 58cm 巾 39cm 総高 58cm	高さ 57cm 巾 34cm 総高 71cm	高さ 58cm 巾 36cm 総高 73cm	高さ 56.5cm 巾 35.5cm 総高 56.5cm	方 量	
延享4	延享4	延享3	延享3	延享2	延享2	延享2	延享2	延享2	延享2	年 代	
(道祖神双神像) 延享四丁丑歳 四月吉日 施主中組	(道祖神双神像) 延享四丁丑歳 四月吉日	(道祖神双神像) 延享三年十一月吉日	(道祖神双神像) 延享三年 七月吉日 村中	(道祖神双神像) 延享二年 十二月吉日	(道祖神双神像) 延享二年 丑十一月吉日	(道祖神双神像) 延享二年丑歳 八月吉日	(道祖神双神像) 延享二年乙丑歳 六月吉日 中口	(道祖神双神像) 延享二年乙丑歳 六月吉日	(道祖神双神像) 延享二年乙丑歳 五月吉日	銘 文	
手振り	破風型 肩くみ手振り	光背型 肩くみ	破風型 肩くみ手振り	光背型 肩くみ手振り	破風型 手振り	光背型 肩組み手振り	光背型 肩組み手振り	光背型 手振り	光背型 肩くみ手振り	備 考	

沼田市

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	番 形
㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	所 在 地
屋形原町 八幡宮	新町 千日堂横	高橋場町 原田神明宮	下川田町 宿	戸神町上	奈良町 武尊神社	岡谷町 辻	下川田町 宮塚	下川田町 塚	横塚町 新井茂次家前	所 在 地
高さ 78cm 巾 36cm 総高 98cm	高さ 61cm 巾 40cm 総高 83cm	高さ 58cm 巾 33cm 総高 75cm	高さ 95cm 巾 59cm 総高 110cm	高さ 69cm 巾 43cm 総高 88cm	高さ 57cm 巾 11.5cm 総高 57cm	高さ 59cm 巾 8.5cm 総高 59cm	高さ 41.5cm 巾 37cm 総高 41.5cm	高さ 36.5cm 巾 34cm 総高 35.5cm	高さ 33cm 巾 34cm 総高 33cm	方 量
寛延2	寛延2	寛延元	寛延元	延享5	延享5	延享4	延享4	延享4	延享4	年 代
(道祖神双神像) 寛延二年(己年) 四月吉祥日 地主広瀬組	(道祖神双神像) 寛延二年 巳十一月吉日 氏子三拾人	(道祖神双神像) 寛延元年(壬天) 十月吉日(日) 式人 菅村	(道祖神双神像) 寛延元年(壬年) 九月吉祥日 地主前宿中	(道祖神双神像) 延享五年四月吉日	(道祖神双神像) 延享五年(壬天)地主 三月吉祥日 十一月木氏	(道祖神双神像) 延享四年(酉)月吉日 地主 歌白	(道祖神双神像) 享四年(卯)十一月吉日 地主 宮塚組中 (上那欠損)	(道祖神双神像) 延享四年(卯)十一月吉日 地主 宮塚組中	(道祖神双神像) 享四年(卯)六月吉祥 地主 辻氏歌白 (上那欠損)	銘 文
酒 破 器 風 持 型	光 背 型	屏くみ手振り	石 殿 型	酒 破 器 風 持 型	光 背 型	屏くみ手振り	光 背 型	箱 型	手 光 握 背 り 型	備 考

40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	番 形	
㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	所 在 地	
今井町	秋塚町	屋形原町 横子	今井町	町田町(東) 天満宮	下川田町 滝	下川田町 平井	掘廻町 河内神社入口	硯田町 天満宮	上川田町 新田	所 在 地	
高さ 67cm 巾 30cm 総高 67cm	高さ 52cm 巾 11.5cm 総高 52cm	高さ 63cm 巾 32cm 総高 63cm	高さ 66cm 巾 38cm 総高 86cm	高さ 66cm 巾 33cm 総高 66cm	高さ 59cm 巾 35cm 総高 79cm	高さ 60cm 巾 38cm 総高 72cm	高さ 68cm 巾 43cm 総高 90cm	高さ 64cm 巾 33cm 総高 81cm	高さ 53cm 巾 30cm 総高 53cm	方 量	
宝曆5	宝曆3	宝曆3	宝曆3	寛政4	寛延4	寛延4	寛延3	寛延3	寛延3	年 代	
(道祖神双神像) 宝曆五年(乙未)八月吉辰	(道祖神双神像) 宝曆三年(壬天) 十月吉日	(道祖神双神像) 宝曆三年 五月吉日	(道祖神双神像) 宝曆三年五月吉日	(道祖神双神像) 寛延四年十月吉日	(道祖神双神像) 寛延四年(壬天) 閏六月吉日	(道祖神双神像) 寛延三年(壬天) 三月吉日	(道祖神双神像) 寛延三年(壬天) 三月吉日	(道祖神双神像) 寛延三年(壬天)九月吉日 硯田村中	(道祖神双神像) 寛延三年(壬天)九月吉日	(道祖神双神像) 寛延三年(壬天)五月吉日	銘 文
手 光 握 背 り ホホよせ 型	屏くみ手振り	胸 型 風 型	つ 破 風 やうの 型 もの 形 を持 した	手 光 握 背 り ホホよせ 型	破 風 型	屏くみ手振り	破 風 型	手 破 握 風 り 型	屏くみ手振り	備 考	

50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	番形	
透門	池田神社	下免知町	下佐山町	下川田町	大竹	下免知町	東光寺入口	湯舟橋上	中免知町	中免知町	所在地
高さ54cm 巾33cm 総高さ54cm	高さ49cm 巾31cm 総高さ49cm	高さ46cm 巾30cm 総高さ49cm	高さ77cm 巾36cm 総高さ98cm	高さ62cm 巾35cm 総高さ82cm	高さ61.5cm 巾40cm 総高さ85.5cm	高さ81.5cm 巾37cm 総高さ78.5cm	高さ55cm 巾30cm 総高さ77cm	高さ73cm 巾33cm 総高さ73cm	高さ52cm 巾32cm 総高さ52cm	高さ52cm 巾32cm 総高さ52cm	方量
明和2	明和2	明和2	宝暦12	宝暦11	宝暦10	宝暦9	宝暦9	宝暦9	宝暦7	宝暦7	年代
(道祖神双神像) 明和二年 十月吉日	(道祖神双神像) 明和二年乙酉 八月吉日	(道祖神双神像) 明和二年 二月吉日	(道祖神双神像) 十月吉日 同行七人 宝暦十二年 下佐山村	(道祖神双神像) 宝暦十一年 八月吉日 大竹氏	(道祖神双神像) 宝暦十年庚辰 四月吉日	(道祖神双神像) 宝暦九年 卯 九月吉日	(道祖神双神像) 宝暦九年乙酉 八月吉日	(神祖道祖神像) 宝暦九 宮崎中 四月吉日	(道祖神双神像) 宝暦七 岩本中	(道祖神双神像) 宝暦七 岩本中	銘文
破風型の裳形 屏くみ手振り	破風型 酒器持ち	破風型 屏くみ手振り	破風型 手振り	光背型 酒器持ち	光背型 手振り	光背型 屏くみ手振り	破風型 酒器持ち	破風型 酒器持ち	破風型と思わ れる手振り	破風型と思わ れる手振り	備考

60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	番形	
後入沢	南	上久屋町	石墨町(東)	上川田町	原町	発知新田町	井土上町	佐山町(下)	松井義夫家入口	発知新田町	所在地
高さ58cm 巾30cm 総高さ58cm	高さ81.5cm 巾33cm 総高さ71.5cm	高さ54cm 巾42cm 総高さ54cm	高さ55cm 巾39cm 総高さ81.5cm	高さ54cm 巾34cm 総高さ54cm	高さ59cm 巾35cm 総高さ80cm	高さ57cm 巾29cm 総高さ57cm	高さ60cm 巾38cm 総高さ60cm	高さ70cm 巾38cm 総高さ70cm	高さ32cm 巾32cm 総高さ60cm	高さ32cm 巾32cm 総高さ60cm	方量
明和9	明和8	明和8	明和8	明和6	明和6	明和5	明和5	明和3	明和2	明和2	年代
(道祖神双神像) 明和九年 六月吉日日入澤 願主	(道祖神双神像) 明和八年 九月吉日	(道祖神双神像) 明和八年 四月吉日	(道祖神双神像) 明和八年 三月吉日石墨町 左八三氏 右八佐山道 新田久保組	(道祖神双神像) 明和六年 十月吉日	(道祖神双神像) 明和六年 十月吉日 右石正面 左石背面	(道祖神双神像) 明和五年戊子歲 十月吉日	(道祖神双神像) 明和五年戊子 八月吉日	(道祖神双神像) 明和三戌年 十月吉日	(道祖神双神像) 明和二年 西十月吉日	(道祖神双神像) 明和二年 西十月吉日	銘文
破風型の裳形 酒器持ち	破風型 酒器持ち	光背型 酒器持ち	光背型 酒器持ち	破風型 屏くみ手振り	光背型 屏くみ手振り	破風型 酒器持ち	光背型 酒器持ち	破風型 屏くみ手振り	破風型 屏くみ手振り	破風型 屏くみ手振り	備考

沼田市

70	69	68	67	66	65	64	63	62	61	番形
㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	所在地
上野	岩本町 りごセンター前	上佐山町	下川町内宿 川間神社入口	上之町 生方たつゑ家	鍛冶町 東電前	上川田町 下村	栄町	上之町 生方たつゑ家	沼須町 下河原	榛名町 榛名神社
高さ 56cm 巾31cm 総高71cm	高さ 73cm 巾35cm 総高73cm	高さ 55cm 巾35cm 総高94cm	高さ 57cm 巾35cm 総高94cm	高さ 29cm 巾47cm 総高29cm	高さ 55cm 巾30cm 総高19cm	高さ 130cm 巾42cm 総高130cm	高さ 61.5cm 巾37cm 総高61.5cm	高さ 86cm 巾98cm 総高126cm	高さ 50cm 巾50cm 総高50cm	方量
天明元	安永8	安永8	安永7	安永5	安永5	安永5	安永5	安永2	明和9	年代
(道祖神双神像) 天明元年 八月吉日	(道祖神双神像) 安永八年 五月吉日	(道祖神双神像) 安永八年 三月吉日	(道祖神) 安永七年 九月吉日	(道祖神) 安永五年 十一月日	(道祖神双神像) 安永五年 十月吉日	(道祖神) 安永五年 九月日	(道祖神双神像) 安永五年 七月十九日	(道祖神双神像) 安永二年 八月日	(道祖神) 明和九年 九月吉日	銘文
破風型 肩くみ手握り	破風型 酒器持ち	石殿型 肩くみ手握り	自然石	自然石	石殿型 肩くみ手握り	自然石	光背型 酒器持ち	自然石 自然石のくはみ に文字を刻んで	自然石	備考

80	79	78	77	76	75	74	73	72	71	番形
㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	所在地
北	上免知町	上免知町	上免知町	上免知町	上免知町	上免知町	上免知町	上免知町	上免知町	所在地
北	上免知町	上免知町	上免知町	上免知町	上免知町	上免知町	上免知町	上免知町	上免知町	所在地
高さ 39cm 巾19cm 総高39cm	高さ 130cm 巾56cm 総高130cm	高さ 51.5cm 巾31cm 総高81.5cm	高さ 97cm 巾69cm 総高97cm	高さ 88cm 巾58cm 総高111cm	高さ 61.5cm 巾61.5cm 総高61.5cm	高さ 71cm 巾61cm 総高71cm	高さ 66cm 巾34cm 総高66cm	高さ 85cm 巾68cm 総高111cm	高さ 50cm 巾50cm 総高50cm	方量
文政10	文政4	文化13	文化7	文化6	享和元	寛政3	寛政2	天明5	天明4	年代
(道祖神) 文政十年 八月吉日	(道祖神) 文政四年 三月吉日	(道祖神) 文化十三年 丙子四月吉日	(道祖神) 文化七年 四月吉日	(道祖神) 文化六年 四月吉日	(道祖神) 享和元年 九月吉日	(道祖神双神像) 寛政三年 白岩村	(道祖神) 寛政二年 四月日	(道祖神双神像) 天明五年 八月吉日	(道祖神) 天明四年 正月吉日	銘文
角柱型	自然石	自然石	自然石	自然石	自然石	破風型 酒器持ち	自然石	破風型 酒器持ち	自然石	備考

90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	番形
②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	所在地
柳三光院	尾形原町 高尾山入口	下川田町 前入沢	篠尾町 十ノ嶺	岡谷町 西部	下久屋町 前原	下川田町 寺尾	尾形原町 錦改戸	篠尾町 十三峰	上佐山町 大神宮入口	
高さ65cm 巾37cm 総高さ65cm	高さ54cm 巾29cm 総高さ54cm	高さ79cm 巾49cm 総高さ79cm	高さ117cm 巾60cm 総高さ117cm	高さ82cm 巾45cm 総高さ82cm	高さ64cm 巾42cm 総高さ99cm	高さ99cm 巾17cm 総高さ119cm	高さ51cm 巾31cm 総高さ51cm	高さ92cm 巾42cm 総高さ92cm	高さ93cm 巾24cm 総高さ93cm	方量
慶応3	慶応3	安政6	安政5	弘化3	弘化2	天保15	天保6	天保4	文政12	年代
道祖神 慶応三丁卯歲四月吉日	道祖神 慶応三卯二月吉日 願主 生方氏	道祖神 安政六巳年	道祖神 安政五戊午歲正月吉日	道祖神 弘化三甲午八月吉日 当村両組子供	道祖神 弘化二年巳正月 永井氏	道祖神 天保十五年甲辰十二月吉日	(道祖神双神像) 天保六年 十月吉日	道祖神 天保四癸巳年十一月吉日	道祖神 文政十二己丑 八月吉日	銘文
自然石	自然石	自然石	自然石	自然石	自然石	自然石	胸くみ手掘り 形	自然石	角柱型	備考

100	99	98	97	96	95	94	93	92	91	番形
②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	所在地
上発知町 透門先	下佐山町 竹名戸	横塚町 上組	上久屋町 幹谷朝代家	上久屋町 上久屋神社	下久屋町	下久屋町 屋敷	戸鹿野町 長田清家	材木町 平等寺	上川田郡新田 砥石神社下	
高さ67cm 巾37cm 総高さ67cm	高さ46cm 巾32cm 総高さ65cm	高さ122cm 巾52cm 総高さ122cm	高さ47cm 巾30cm 総高さ47cm	高さ65cm 巾41cm 総高さ65cm	高さ50cm 巾32cm 総高さ50cm	高さ64cm 巾38cm 総高さ78cm	高さ36.5cm 巾30cm 総高さ46.5cm	高さ53cm 巾35cm 総高さ53cm	高さ80cm 巾60cm 総高さ80cm	方量
不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	明治2	年代
道祖神	(道祖神及神像) (左) □吉 (日)	道祖神 右、ふ道 左加王者道	(道祖神双神像)	(道祖神双神像)	(道祖神双神像)	(道祖神双神像)	(道祖神双神像)	(道祖神双神像)	道祖神 明治一巳正月 組中	銘文
自然石	光背型 破損激しい	道標石	光背型 酒器持ち	光背型 手掘り足踏み	光背型 肩組み手掘り	光背型 肩組み手掘り	破風型 酒器持ち	光背型 肩くみ手掘り	自然石	備考

沼田市

110	109	108	107	106	105	104	103	102	101	番
㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	形
屋形原町 篠尾入口	下川田町 横子	下川田町 中	石墨町 追田薬師近く	井上上町 石原	下沼田町 武尊神社	岡谷町 大雲寺	上免知町 中町	上免知町 諏訪神社前	上免知町 諏訪神社前	所在地
高さ 80cm 巾 110cm 総高 110cm	高さ 61cm 巾 40cm 総高 61cm	高さ 59cm 巾 33cm 総高 59cm	高さ 56cm 巾 42cm 総高 83cm	高さ 63cm 巾 31.5cm 総高 63cm	高さ 61.5cm 巾 33cm 総高 61.5cm	高さ 63cm 巾 32cm 総高 63cm	高さ 34cm 巾 26cm 総高 49cm	高さ 70cm 巾 35cm 総高 70cm	高さ 70cm 巾 35cm 総高 70cm	方量
不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	年代
(道祖神双神像)	村中施主名敬白 (道祖神双神像)	(右) □保六年 願国田㊦ (道祖神双神像)	道祖神	道祖神	(道祖神双神像)	(神祖道祖神像)	(道祖神双神像)	(道祖神双神像)	(道祖神双神像) 二月全□□ □□□□	銘文
肩組み手掘り	破風型 手掘り	破風型 破損激しい	自然石	自然石	肩組み手掘り	破風型 破損激しい	破風型 光背型のみ 合掌型のみ の神として信仰 されている	破風型 手掘り	破風型 手掘り	備考

113	112	111	番
㊦	㊦	㊦	形
岩本町 上組 金子家入口	屋形原町 油店	屋形原町 篠尾入口	所在地
高さ 59cm 巾 37cm 総高 76cm	高さ 41cm 巾 31cm 総高 41cm	高さ 50cm 巾 35cm 総高 50cm	方量
不明	不明	不明	年代
(道祖神双神像)	道祖神	(道祖神双神像) 念佛供養□主	銘文
光背型	自然石	光背型 念仏供養のため の建立か	備考

上州の道祖神一覧 98頁は

個人情報が含まれるため非公開

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	番 形
大崎	川島 甲波宿称神社	大崎	半田	中村	半田 早尾神社	中村 早尾神社	石原 猿田彦神社	上之町	八木原	所在地
高さ 16cm 巾 80cm 総高 113cm	高さ 82cm 巾 66cm 総高 100cm	高さ 80cm 巾 70cm 総高 100cm	高さ 169cm 巾 77cm 総高 159cm	高さ 94cm 巾 37cm 総高 100cm	高さ 95cm 巾 60cm 総高 122cm	高さ 74cm 巾 44cm 総高 100cm	高さ 80cm 巾 75cm 総高 128cm	高さ 160cm 巾 115cm 総高 150cm	高さ 60cm 巾 40cm 総高 100cm	方量
天明5	天明4	天明4	天明2	安永9	安永8	安永8	安永3	明和8	明和2	年代
道祖神 天明五己年孟春吉日	道祖神 天明四年龍集甲子閏正月吉日 榎村	道祖神 天明四年 尾五春	道祖神 天明二年 極月日新井中	道祖神 安永九年 孟春吉辰新屋敷中	道祖神 安永八年己未四月吉日	道祖神 安永八年己未三月吉日早尾中	道祖神 安永三年 石原村中建之	道祖神 明和八年 十一月吉日 当驛上町連中建焉	道祖神 明和二年己未三月吉辰 建立野野氏	銘文
										備考

20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	番 形
八木原 諏訪神社	祖母島 宿称神社	御除	上郷	祖母島	元町 弁財天	半田 早尾神社	行幸田	並木町 八坂神社	石原 大山祇神社	所在地
高さ 87cm 巾 55cm 総高 115cm	高さ 80cm 巾 40cm 総高 100cm	高さ 100cm 巾 55cm 総高 100cm	高さ 85cm 巾 69cm 総高 130cm	高さ 130cm 巾 53cm 総高 100cm	高さ 100cm 巾 100cm 総高 100cm	高さ 87cm 巾 50cm 総高 130cm	高さ 100cm 巾 100cm 総高 100cm	高さ 115cm 巾 115cm 総高 130cm	高さ 130cm 巾 115cm 総高 100cm	方量
享和元	寛政10	寛政6	寛政5	寛政3	寛政元	天明7	天明6	天明6	天明5	年代
道祖神 享和元山西六月吉日	道祖神 寛政十年 六月吉日榎手中	道祖神 田大 十一歳書	道祖神 寛政五年龍集 上郷同請中 極月日	道祖神 寛政三年冬十一月吉日願主	道祖神 寛政元年 三月吉日	道祖神 天明七年龍集 季冬良辰 願主 北中	道祖神 天明六年龍集 飛西□□□	道祖神 天明九年正月吉日願主外丸	道祖神 天明五年歲次己未冬十一月 高源地村中	銘文
										備考

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	番形
②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	所在地
石原	有馬 渠口神社	金井	金井 八坂神社	有馬 中有馬	有馬 神戸	八木原 諏訪神社	八木原 諏訪神社	寄居町 妙法寺	半田	所在地
高さ 53cm 巾 25cm 総高	高さ 52cm 巾 32cm 総高	高さ 60cm 巾 30cm 総高	高さ 55cm 巾 38cm 総高	高さ 51cm 巾 45cm 総高	高さ 69cm 巾 33cm 総高	高さ 61cm 巾 31cm 総高	高さ 50cm 巾 45cm 総高	高さ 112cm 巾 80cm 総高	高さ 45cm 巾 32cm 総高	方量
元治2	嘉永7	弘化3	弘化3	文政11	文政4	文化8	文化5	文化2	享和4	年代
道祖神 元治二年正月吉日建立	道祖神 嘉永七年正月吉日下有馬	道祖神 弘化三年閏五月	道祖神 弘化三年十一月吉祥日 下新田中	道祖神 文政十一年子十二月吉日 中有馬中	道祖神 文政巳四天	道祖神 文化八年孟誦吉祥日中之町	道祖神 干吉文化五龍 八木原懸蓮中 夏吉祥日	道祖神 文化二乙 寄居中 正月月上旬	道祖神 享和四歳子正月吉日半田村 善兵衛 佐次兵衛	銘文
										備考

40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	番形
②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	所在地
川島	寄居町 妙法寺	元町 秋葉神社	半田 新屋敷	有馬	石原 手川	金井 金井本町	祖母島	金井	東町	所在地
高さ 53cm 巾 25cm 総高	高さ 52cm 巾 32cm 総高	高さ 60cm 巾 30cm 総高	高さ 55cm 巾 38cm 総高	高さ 51cm 巾 45cm 総高	高さ 69cm 巾 33cm 総高	高さ 61cm 巾 31cm 総高	高さ 50cm 巾 45cm 総高	高さ 112cm 巾 80cm 総高	高さ 45cm 巾 32cm 総高	方量
元文2	享保18	享保18	享保17	享保15	享保7	不明	不明	不明	不明	年代
元文二年二月吉日	享保十八年九月	享保十八年八月	享保十七年十一月吉日	享保十五年口廿八日神戸	道祖神 享保七年十一月	(双体像)	道祖神 横手中	道祖神 岸市郎右衛門同武兵衛	道祖神	銘文
					単体像	飯坂盛一宅				備考

渋川市

50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	番形
⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	所在地
入 渋川八幡宮	大 崎	半 田 新屋敷	石 原 田中	半 田 新堀	元 町 観音堂	南 牧 十二社	入 沢 渋川八幡宮	金 井	金 井 金蔵寺	
高さ 56cm 巾 33cm 総高 83cm	高さ 75cm 巾 45cm 総高	高さ 53cm 巾 36cm 総高	高さ 53cm 巾 36cm 総高 70cm	高さ 67cm 巾 50cm 総高	高さ 55cm 巾 37cm 総高 67cm	高さ 59cm 巾 30cm 総高 78cm	高さ 72cm 巾 32cm 総高	高さ 85cm 巾 59cm 総高	高さ 70cm 巾 42cm 総高 95cm	方量
寛延4	寛延3	寛延元 (寛)	延享3	延享2	寛保3	寛保2	寛保元	元文5	元文4	年代
寛延四歲辛未六月吉祥日	寛延三歲辛未六月吉日	□延元年月前川原中	延享三年天十月吉辰前田中	堂開戸□方中 延享二乙未天八月吉日	寛保三天九月吉日	寛保二戊辰年三月吉日	寛保元年三月吉日 南横町	元文五甲申九月吉日	元文四己歲霜月吉祥 金井村上宿	銘文
										備考

60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	番形
⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	⑥	所在地
金 井	有 馬	金 井 鳥頭百庚申	石 原	石 原 諏訪神社	祖 母 島	川 島 甲波宿称神社	行 幸 田	東 町	八 木 原	
高さ 90cm 巾 46cm 総高	高さ 92cm 巾 90cm 総高	高さ 70cm 巾 35cm 総高	高さ 76cm 巾 45cm 総高	高さ 70cm 巾 54cm 総高	高さ 64cm 巾 40cm 総高	高さ 67cm 巾 45cm 総高	高さ 55cm 巾 33cm 総高	高さ 64cm 巾 42cm 総高	高さ 45cm 巾 32cm 総高	方量
明和2	明和元	宝暦13	宝暦12	宝暦12	宝暦11	宝暦9	宝暦9	宝暦9	宝暦7	年代
明和一乙酉年十月吉日 岸豊後守	明和元年甲申十二月中有間村	宝暦十三癸未天八月吉日	宝暦十二年十一月吉日	宝暦十二年壬午十月吉日建立 施主 諏訪之木邑中	宝暦十一年己六月吉日	宝暦九卯年十一月吉日	宝暦九己卯六月吉日	宝暦九己卯歲五月吉祥日	宝暦七年六月吉日 新井	銘文
										備考

70	69	68	67	66	65	64	63	62	61	番 形
金井	半田 新屋敷	金井	並木町 真光寺	金井	金井 八坂神社	石原 手川	金井 八坂神社	半田 新屋敷	祖母島	所 在 地
高さ 57cm 巾 41cm 総高 71cm	高さ 80cm 巾 70cm 総高 16cm	高さ 60cm 巾 42cm 総高 80cm	高さ 65cm 巾 42cm 総高 70cm	高さ 73cm 巾 40cm 総高	高さ 40cm 巾 40cm 総高	高さ 13cm 巾 16cm 総高	高さ 60cm 巾 40cm 総高	高さ 53cm 巾 35cm 総高 70cm	高さ 61cm 巾 43cm 総高	方 量
安政5	嘉永3	文化9	天明3	安永10	安永7	安永4	明和6	明和3	明和2	年 代
加藤安左衛門 安政五年十二月吉日	嘉永三年歳在庚子九月吉日新 屋敷中 寄附押石並木物右衛 門台石高橋基右衛門 世話人 中沢三次郎 山口郷右衛門	文化九年十一月吉日	天明三年三月吉日	安永十年正月吉辰願主岸氏	戊二月吉祥日宿中子供	安永四乙歳十二月吉辰前手川	明和六己年十一月吉丑日	明和三戊天十二月吉日	明和二乙年吉夏吉祥日 願主 村山氏	銘 文
					安永七か	二二四				備 考

80	79	78	73	76	75	74	73	72	71	番 形
八木原	八木原 諏訪神社	金井 脚気薬師	川島 甲波宿神社	祖母島 宿称神社	富貴原	入沢 洪川八幡宮	入沢 洪川八幡宮	入沢 洪川八幡宮	入沢 洪川八幡宮	所 在 地
高さ 58cm 巾 33cm 総高	高さ 72cm 巾 45cm 総高	高さ 52cm 巾 25cm 総高 75cm	高さ 96cm 巾 58cm 総高	高さ 70cm 巾 37cm 総高	高さ 56cm 巾 37cm 総高 119cm	高さ 53cm 巾 47cm 総高	高さ 64cm 巾 43cm 総高	高さ 70cm 巾 45cm 総高 94cm	高さ 87cm 巾 64cm 総高	方 量
不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	文久3	年 代
									文久三癸丑年四月良建立 町内中	銘 文
										備 考

83	82	81	番 形
②	②	②	所 在 地
行幸田	石原 猿田彦神社	石原 田中	
高さ55cm 巾38cm 総高不明	高さ60cm 巾35cm 総高不明	高さ70cm 巾38cm 総高不明	方 量 年 代
			銘 文 備 考

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	番 形
②	②	②	②	②	②	③	③	③	③	所 在 地
藤岡旭町 八高線西	小林、舞台 風天神社	藤岡芦田町 東組	藤岡南町 前組	藤岡鷹匠町 慰霊塔北	藤岡天川町 八高線西	藤岡仲町 女子高南角	小林堀之内東 田の端	藤岡芦田町 北組	藤岡芦田町 西組	
高さ90cm 巾49cm 総高不明	高さ94cm 巾55cm 総高不明	高さ78cm 巾46cm 総高不明	高さ63cm 巾29cm 総高63cm	高さ130cm 巾53cm 総高142cm	高さ100cm 巾37cm 総高120cm	高さ90cm 巾42cm 総高96cm	高さ68cm 巾51cm 総高68cm	高さ66cm 巾39cm 総高71cm	高さ85cm 巾48cm 総高120cm	方 量 年 代
不明	寛政3	文政10	寛政12	寛政12	寛政9	寛政3	不明	明和4	元文2	
道祖神 □□□ 平成正月建之	道祖神 嘉永三年庚戌十一月再建	道祖神 文政十一年正月吉日	道祖神 寛政十二年庚申	道祖神 寛政十二年庚申年 四月吉日	道祖神 寛政九年四月吉日 首末土中上町野丁	道祖神 寛政三年正月申中町中	道祖神 □□八 □歳正月吉祥日	道祖神 明和四年庚寅九月吉日 西田北村組	道祖神 元文二年正月吉日 上組	銘 文
銀香立あり 自然石、緑色片岩	左下部が剥落 自然石、緑色片岩	自然石 緑色片岩	自然石、緑色片岩 下部割れあり	自然石、緑色片岩 篆書体	自然石、緑色片岩 名石、緑香立に氏	自然石 緑色片岩	自然石 緑色片岩	自然石 緑色片岩	自然石	備 考

20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	番形
㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	所在地
下栗須西組 稻荷神社	下戸塚 宮側下り	上戸塚 島戸塚神社	小林舞台東 堀の端	藤岡四丁目東 庚申堂	藤岡四丁目東 庚申堂	藤岡菅田町 中宿	藤岡宮本町 浅間神社	藤岡南町 下組公会堂	藤岡、山崎 運動公園東	所在地
高さ 150cm 巾 50cm 総高 130cm	高さ 56cm 巾 30cm 総高 63cm	高さ 51cm 巾 38cm 総高 89cm	高さ 32cm 巾 21cm 総高 32cm	高さ 37cm 巾 25cm 総高 37cm	高さ 73cm 巾 46cm 総高 73cm	高さ 56cm 巾 30cm 総高 70cm	高さ 64cm 巾 31cm 総高 64cm	高さ 65cm 巾 45cm 総高 79cm	高さ 72cm 巾 53cm 総高 75cm	方量
明和4	不明	明和8	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	年代
道祖神 明和四口 左正口 村中		明和八口 天口 月十四日 上戸塚	道祖神 中野口	道祖神 願主 平五郎	道祖神 当所 水井整一郎	道祖神 中宿組	祖神	道祖神	道祖神 山崎村子供連	銘
自然石 緑色片岩	崩落著し	舟型、砂岩 握手	自然石 緑色片岩、行書体	石積上	自然石、緑色片岩 石積上	自然石、褐色 コンクリート台上	自然石	自然石、緑色片岩 コンクリート台上	自然石 緑色片岩	備考

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	番形
㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	所在地
下戸塚上方 西の田の端	岡之郷 上郷新田	下戸塚宮地 水沼神社	上戸塚赤塚 笹川橋横	下栗須東組 手長神社	上戸塚 島戸塚神社	上戸塚原 笹川岸	岡之郷温井 光蓮寺	岡之郷、台門 新幹線南	岡之郷、下郷 西口	所在地
高さ 83cm 巾 62cm 総高 83cm	高さ 56cm 巾 18cm 総高 18cm	高さ 73cm 巾 50cm 総高 73cm	高さ 86cm 巾 80cm 総高 86cm	高さ 78cm 巾 27cm 総高 112cm	高さ 68cm 巾 48cm 総高 93cm	高さ 113cm 巾 93cm 総高 113cm	高さ 83cm 巾 43cm 総高 83cm	高さ 17cm 巾 56cm 総高 18cm	高さ 88cm 巾 40cm 総高 108cm	方量
不明	不明	安政7	天保15	寛政12	寛政2	寛政2	寛政元	安永	安永8	年代
道祖神	道祖神 吉祥日	道祖神 安政七口 歳北組 杏所妻口	旗田彦 天棚女 天明保十五口 年正月吉日	道祖神 寛政十一口 九月吉日	道祖神 庚寅政二年正月吉日 宮地子供中	道祖神 寛政二年戊八月吉日 戸塚村原子供中 中央縦に割れる	道祖神 寛政元年九月口	道祖神安永口 二年一月吉祥日	道祖神 八口 歳左口 吉日 講中	銘
自然石 緑色片岩	自然石 片岩	自然石 緑色片岩	自然石、緑色片岩 右側縦に割れる	自然石 砂岩、行書体	自然石 緑色片岩	自然石、緑色片岩 中央縦に割れる	自然石	自然石 片岩	自然石 緑色片岩	備考

藤岡市

40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	番形
立石新田 下川	立石 本立石	立石 清水南路傍	立石 茨谷戸	中下泡宮神社	森新田上宿 八一番地 天王様	森県道東	上戸塚 久保堀端	岡之郷下郷東口	下戸塚宮地 水沼神社	所在地
高さ 50cm 巾 15cm 総高さ 50cm	高さ 39cm 巾 20cm 総高さ 47cm	高さ 68cm 巾 31cm 総高さ 18cm	高さ 49cm 巾 30cm 総高さ 71cm	高さ 50cm 巾 37cm 総高さ 59cm	高さ 41cm 巾 30cm 総高さ 59cm	高さ 62cm 巾 43cm 総高さ 84cm	高さ 56cm 巾 25cm 総高さ 73cm	高さ 62cm 巾 25cm 総高さ 87cm	高さ 57cm 巾 26cm 総高さ 57cm	方量
明和5	寛政11	不明	不明	不明	安政7	寛文6	不明	不明	不明	年代
道祖神 明和五子正月吉日 下川子	道祖神 寛政十一年己未 十一月吉日	(双体浮彫)清水中□つ	(双体浮彫)	(双体浮彫)	安政七年申九月	寛文六年 村中	道祖神	道祖神	道祖神	銘文
箱型 割れ目あり	箱型	下部のみ残り、 体部を欠失	舟型	舟型	頭部少し損傷	折損し接着	山状角状 砂岩	角柱 塔岩積み上	自然石 緑色片岩	備考

50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	番形
中栗須神明宮	上栗須 赤城神社	立石 清水南路傍	立石 西久保	中栗須神明宮	立石新田 茨谷戸	中上	中島養蚕神社	立石 後久保	立石東久保 (宮地)	所在地
高さ 90cm 巾 45cm 総高さ 90cm	高さ 56cm 巾 45cm 総高さ 56cm	高さ 63cm 巾 38cm 総高さ 63cm	高さ 129cm 巾 29cm 総高さ 138cm	高さ 97cm 巾 47cm 総高さ 97cm	高さ 63cm 巾 30cm 総高さ 63cm	高さ 73cm 巾 38cm 総高さ 89cm	高さ 72cm 巾 38cm 総高さ 114cm	高さ 89cm 巾 58cm 総高さ 89cm	高さ 61cm 巾 42cm 総高さ 61cm	方量
不明	不明	慶応元	万延元	万延元	寛政12	寛政3	天明6	安永4	安永3	年代
道祖神	道祖神	道祖神 慶応元年十一月□□ 立石村圍困	道祖神 開闢 道祖猿田彦 万延元年	道祖神 万延元年庚申春一月子供中	道祖神 寛政十一年	道祖神 寛政三年	道祖神 天明六年正月大吉 中島	道祖神 安永四年未年 月吉日	道祖神 安永三年甲午四月吉日	銘文
自然石	自然石	自然石	自然石(割り石) 緑色片岩	自然石	自然石	自然石	自然石	自然石	自然石	備考

60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	番形
㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	所在地
立石 石新田	立石 立石神社	森飯 玉神社東	中下 泡宮神社	中 下 泡宮神社	中西 組神社境内	中 上	中 上	中 栗須 神明宮	中 栗須 神明宮	所在地
高さ 85cm 巾 35cm 総 高 97cm	高さ 34cm 巾 20cm 総 高 49cm	高さ 85cm 巾 50cm 総 高 119cm	高さ 86cm 巾 52cm 総 高 95cm	高さ 94cm 巾 63cm 総 高 108cm	高さ 90cm 巾 50cm 総 高 108cm	高さ 71cm 巾 40cm 総 高 80cm	高さ 93cm 巾 59cm 総 高 108cm	高さ 46cm 巾 23cm 総 高 46cm	高さ 54cm 巾 32cm 総 高 54cm	方量
不 明	不 明	不 明	不 明	不 明	不 明	不 明	不 明	不 明	不 明	年代
道祖 神 子開二 月吉日	道祖 神	道祖 神	道祖 神	道祖 神	道祖 神 当所西 組 七月吉 日□建	道祖 神	道祖 神 北組中	道祖 神	道祖 神	銘
氏子 中										文
自 然 石	箱 型	自 然 石	自 然 石	自 然 石	自 然 石	自 然 石	自 然 石	山 状 角 柱	自 然 石	備考

70	69	68	67	66	65	64	63	62	61	番形
㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	所在地
上落 合上郷 産胎神 社北道	下大 塚西組 火の見 下	上大 塚南組 大雲寺	上大 塚南組 大雲寺	本動 堂 前屋敷 西組	篠塚 上組 田とう し水田 端	森新 田明神 下 大神宮 前の路 傍	森新 田上宿 天王社	中島 兼養 神社	立石 清水	所在地
高さ 60cm 巾 33cm 総 高 90cm	高さ 54cm 巾 38cm 総 高 72cm	高さ 81.5cm 巾 35cm 総 高 61.5cm	高さ 73cm 巾 32cm 総 高 86cm	高さ 68cm 巾 28cm 総 高 68cm	高さ 53cm 巾 42cm 総 高 53cm	高さ 110cm 巾 62cm 総 高 115cm	高さ 110cm 巾 62cm 総 高 115cm	高さ 63cm 巾 25cm 総 高 63cm	高さ 60cm 巾 40cm 総 高 60cm	方量
不 明	宝曆 14	不 明	不 明	天保 12	明和 5	不 明	明治 7	明治 2	不 明	年代
(双 体浮 彫)	宝曆 十四 年□□	(双 体浮 彫)	(双 体浮 彫)	天保 十二 年正 月十 四日 前家 敷中	明和 五戊 子天 三月 吉上 日 篠塚 邸□□ 中	道祖 神	道祖 神 明治 七年 甲戌 九月 蓮堂 護書	道祖 神 明□□ 巳年 正月 吉日 中島 村□□ □□	道祖 神	銘
舟 型、砂 岩 並立、 磨滅	舟 型、砂 岩、左 を神 右を 向き 右足 を出 す	舟 型、砂 岩 酒器 持、並 立	舟 型、砂 岩 並立 細長 い	胸 形角 柱 左神 徳利 を持 つ	砂 岩 型	砂 岩 型	自 然 石	草 書 体 石	自 然 石	文
										備考

80	79	78	77	76	75	74	73	72	71	番 形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	所在地
下大塚西組 平地神社	下大塚東組 飯塚商店西	中大塚南組 新井正一家北 (庚申棟)	篠塚西口原口 石洞貞吉家南	中大塚田中 塚の越九一五 町田実家畑角	本動堂 前屋敷西組	篠塚上組 観音堂南	上落合、長津 鍋川土手前	上落合、長津 鍋川土手南	篠塚中組 伊賀大明神烏屋西	所在地
高さ69cm 巾31cm 総高さ88cm	高さ60cm 巾24cm 総高さ85cm	高さ64cm 巾28cm 総高さ80cm	高さ90cm 巾48cm 総高さ90cm	高さ71cm 巾43cm 総高さ81cm	高さ102cm 巾38cm 総高さ117cm	高さ58cm 巾31.5cm 総高さ78cm	高さ46cm 巾21cm 総高さ62cm	高さ56cm 巾37cm 総高さ56cm	高さ54cm 巾31.5cm 総高さ54cm	方 量
不明	弘化3	寛政12	安永5	安永2	明和9	明和3	元文2	不明	不明	年 代
道祖神	道祖神 弘化三年正月十四日 下大塚村東組中	道祖神 寛政十二年正月吉日 中大塚お ゆ大塚お	道祖神 安永五年三月吉日 篠塚村	道祖神 安永三年十一月吉日 中大塚	道祖神 明和九年壬戌九月吉日 本動堂邑	道祖神 明和三年十一月吉日 篠塚村上之組中	道祖神 元文二	(双体浮彫)	当邑中組 □□□	銘 文
文字大きい 山状角柱、砂岩	山状角柱 砂岩磨減	自然石 緑色片岩	自然石、緑色 片岩分厚い	自然石 白茶色の片岩	自然石 緑色片岩	山状角柱	山状角柱	頭部から折損 舟型、砂岩	舟型、砂岩 並立、磨減	備 考

90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	番 形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	所在地
緑笠久保 三又路	鮎川西 北野神社	緑笠板倉 大聖峰寺東	緑笠板倉 大聖峰寺東	緑笠下組 秩父往還南	中大塚中郷 の場墓地	上落合前組 宗水寺裏道	上落合前組 伊勢塚古墳東	本動堂 下宿松本商店前	下大塚西組 平地神社	所在地
高さ71cm 巾39cm 総高さ100cm	高さ75cm 巾27cm 総高さ75cm	高さ40cm 巾39cm 総高さ40cm	高さ47cm 巾29cm 総高さ52cm	高さ40cm 巾32cm 総高さ40cm	高さ40cm 巾50cm 総高さ58cm	高さ78cm 巾38cm 総高さ78cm	高さ82cm 巾52cm 総高さ92cm	高さ50cm 巾34cm 総高さ85cm	高さ74cm 巾53cm 総高さ74cm	方 量
明和2	宝暦12	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	年 代
道祖神 明和二年乙酉十一月	道祖神 宝暦十二年八月吉日 久保子共中受願主 善六	(双体浮彫)	(双体浮彫)	□六月吉日 折願主□	(自然石)	道祖神	道祖神	道祖神 □□十二□	道祖神	銘 文
青色凝灰石	自然石、青色凝 灰岩、石組上に 並ぶ	光背、砂岩上部 含う 握手、向き	舟型、砂型 並立	光背形、立体的、 握手、右神が左 向き左足を出す	自然石、緑色片 岩石塊が台石上 に載る	砂岩	自然石、片岩 東鮎川岸から移	自然石、赤褐色、 安山岩石積み上	緑色片岩 自然石	備 考

100	99	98	97	96	95	94	93	92	91	番形
②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	所在地
鯨川東組 鎌倉街道五又路	鯨川北野神社	西平井 三高神社下佐	緑埜中郷 美国神社道東	東平井 円満寺西方塚	東平井 平野石油西	鯨川新田 滝川家南三差路	白石上郷 般若寺西	緑埜板倉 大聖峰寺東	白石、中郷 飯玉神社北	所在地
高さ 100cm 巾 37cm 総高さ 137cm	高さ 79cm 巾 27cm 総高さ 90cm	高さ 97cm 巾 46cm 総高さ 97cm	高さ 70cm 巾 36cm 総高さ 96cm	高さ 94cm 巾 64cm 総高さ 111cm	高さ 150cm 巾 31cm 総高さ 150cm	高さ 166cm 巾 66cm 総高さ 150cm	高さ 55cm 巾 28cm 総高さ 55cm	高さ 90cm 巾 78cm 総高さ 90cm	高さ 80cm 巾 81cm 総高さ 80cm	方量
不明	不明	不明	不明	不明	寛政3	天明4	安永5	明和9	明和6	年代
道祖神	道祖神	道祖神	道祖神 正□□□	道祖神	道祖神 寛政十二年庚申十一月吉日	道祖神 天明四辰年十二月吉日	道祖神 安永五内、稔十一月吉祥日	道祖神 明和九壬辰天四月吉祥日 左めうき道	道祖神 明和六壬辰正月吉日 中郷組	銘
東組	中郷							右高崎	中郷組	文
緑色片名 自然石	片石(日月)	自然石、砂岩 下の中間に割れ	自然石、砂岩	砂岩 自然石	緑色片岩 自然石	砂岩(天引石) 自然石	青色凝灰岩 自然石	自然石、砂岩 朱入り文字	山状角柱砂岩 朱入り文字	備考

110	109	108	107	106	105	104	103	102	101	番形
②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	所在地
東平井南 変電所北	東平井下宿 信号機西水路際	東平井上新町 田の畔道	緑埜板倉 大聖峰寺東	緑埜中郷 緑埜橋東方一町	東平井南東 信号機西	緑埜南英霊殿	白石城谷戸 旧道三又路	緑埜 信号機南堀の端	緑埜 斉藤家墓地東	所在地
高さ 66cm 巾 55cm 総高さ 84cm	高さ 88cm 巾 50cm 総高さ 115cm	高さ 91cm 巾 64cm 総高さ 91cm	高さ 38cm 巾 22cm 総高さ 38cm	高さ 104cm 巾 45cm 総高さ 104cm	高さ 71cm 巾 30cm 総高さ 89cm	高さ 79cm 巾 38cm 総高さ 115cm	高さ 96cm 巾 56cm 総高さ 115cm	高さ 82cm 巾 45cm 総高さ 82cm	高さ 63cm 巾 30cm 総高さ 63cm	方量
慶応4	慶応3	慶応3	弘化3	寛政12?	寛政12	不明	不明	不明	不明	年代
道祖神 慶応四辰歳正月吉祥日 上宿組	道祖神 慶応三年丁卯正月	道祖神 慶応三年 上新丁	道祖神 弘化三年十一月吉日	道祖神 寛政斗申 三月吉日	道祖神 寛政十二年庚申一月吉日 寛正	道祖神	道祖神	道祖神	道祖 □	銘
砂 角柱、角丸 岩	緑色片岩 自然石	自然石 緑色片岩 上彫欠	角柱、裏は荒 削り、砂岩	草書体 自然石、緑色片岩	自然石 緑色片岩	赤っぽい片岩 自然石	緑色片岩 自然石	緑色片岩 自然石	自然石、緑色片岩 木の太に割れかか	備考

藤岡市

120	119	118	117	116	115	114	113	112	111	番形
②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	所在地
本郷神明 前方墓地	神田宿神田 公会堂	本郷風久保 東池田端	白石北原 裏組十二天社	白石下郷 鳥寺増野家畑	白石下郷 ボラ組天王山	白石下郷 滝組東坂道	西平井 大神池池東土手	西平井 平井橋東崖	東平井下新町 鮎川境	
高さ 8.5cm 巾 22cm 総高さ 8.5cm	高さ 47cm 巾 37cm 総高さ 47cm	高さ 43cm 巾 35cm 総高さ 43cm	高さ 63cm 巾 65cm 総高さ 85cm	高さ 85cm 巾 44cm 総高さ 85cm	高さ 96cm 巾 36cm 総高さ 96cm	高さ 76cm 巾 41cm 総高さ 93cm	高さ 90cm 巾 65cm 総高さ 90cm	高さ 27cm 巾 10cm 総高さ 27cm	高さ 72cm 巾 36cm 総高さ 72cm	方量 年代
万延元	安政3	安永2	慶応3	天保13	嘉永6	安永9	不明	不明	明治3	銘文
願主 宮田伊左門	安政三年辰九月吉日	安永二乙亥十一月当所子供中	道祖神 慶応三年正月吉日建之	道祖神 天保十三年三月三日	道祖神 嘉永六年癸丑正月吉日	道祖神 安永九年正月吉辰	道祖神	道祖神	道祖神 明治二年庚子月吉日 下新町建立之	
厚さ 12cm 握手	駒立型	並舟立型	砂自然石	行書体 自然石、緑色片岩	自然石、緑色片岩 三社を祭る樹の東にある	自然石 緑色片岩	自然石、砂岩 表面を削り昭和60年より祭り復活	自然石、砂岩、緑色片岩 にはめ込まれる	自然石 緑色片岩	備考

130	129	128	127	126	125	124	123	122	121	番形
②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	所在地
根岸 薬王寺跡	牛田新井 医光寺南方	高山中組 入山大笹	高山上組 杓子谷戸 長谷川家	高山上組 弘法井戸北	本郷寺山 瓶酒神社	神田中神田 郵便局南	保美塚ノ越	本郷神明 前方墓地	本郷中郷 東坂四辻	
高さ 80cm 巾 70cm 総高さ 80cm	高さ 48cm 巾 18cm 総高さ 48cm	高さ 100cm 巾 55cm 総高さ 100cm	高さ 73cm 巾 42cm 総高さ 73cm	高さ 60cm 巾 25cm 総高さ 60cm	高さ 67cm 巾 27cm 総高さ 78cm	高さ 15cm 巾 24cm 総高さ 15cm	高さ 42cm 巾 33cm 総高さ 42cm	高さ 49cm 巾 31cm 総高さ 49cm	高さ 34cm 巾 29cm 総高さ 34cm	方量 年代
天明5	天明4	天明2	安永6	安永4	宝暦12	不明	不明	不明	不明	銘文
道祖神 天明五年十二月吉日 根岸邑中	道祖神 天明四年	道祖神 水神 天明二年寅年六月吉日	道祖神 安永六年丁酉八月吉日 子供中下部折損	道祖神 安永四年乙未正月吉日	道祖神 宝暦十二年十一月一日 願主邑中	(双体浮彫)	(双体浮彫)	(双体浮彫)	(双体浮彫)	
緑色片岩	自然石	自然石 緑色片岩	自然石、緑色片岩	自然石 緑色片岩	山状角柱	舟型 磨滅著しい	舟型、砂岩 上部を欠く	舟型 頭部を欠く	舟型 上部を欠く	備考

140	139	138	137	136	135	134	133	132	131	番形
②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	所在地
高山 上組香田	保美塚ノ越	三本木東組 旗立台傍	三本木 水口道東	本郷田中	本郷中郷 神明境	神田後神田 水村周作家	本郷道中郷 鎌倉街道東	矢場御巡部神社	矢場御巡部神社	所在地
高さ 84cm 巾 60cm 総高さ 166cm	高さ 58cm 巾 56cm 総高さ 58cm	高さ 84cm 巾 53cm 総高さ 98cm	高さ 61.5cm 巾 47cm 総高さ 81.5cm	高さ 80cm 巾 42cm 総高さ 80cm	高さ 48cm 巾 23cm 総高さ 48cm	高さ 40cm 巾 56cm 総高さ 106cm	高さ 43cm 巾 41cm 総高さ 104cm	高さ 35cm 巾 26cm 総高さ 61cm	高さ 87cm 巾 61cm 総高さ 87cm	方量
不明	不明	不明	不明	寛政2	元治2	万延元	安政7	安政6	寛政元	年代
道祖神	道祖神 左におし	道祖神	美神	道祖神 寛政二年十月吉日 田中村	道祖神 元治二年西	道祖神 萬延元庚申年壬三月吉日	道祖神 安政七年庚申仲春 道中郷	道祖神 安政六年乙未正月大吉	道祖神 寛政改元西四月吉日 村中子供	銘文
村中	保美									備考
緑色片岩	自然石 道標	緑色片岩	緑色片岩	緑色片岩	緑色片岩	自然石	緑色片岩	角柱	自然石	備考

150	149	148	147	146	145	144	143	142	141	番形
②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	所在地
下日野塩井 十二の森	下日野芝平	下日野 鉦沢	下日野中倉 鷲宮神社	金井大平 大天白	下日野中倉 鷲宮神社	下日野駒留 地守神社	下日野印地	下日野高井戸 観音堂	川除宝蔵寺	所在地
高さ 54cm 巾 39cm 総高さ 69cm	高さ 58cm 巾 30cm 総高さ 72cm	高さ 43cm 巾 32cm 総高さ 55cm	高さ 61cm 巾 42cm 総高さ 72cm	高さ 55cm 巾 43cm 総高さ 55cm	高さ 54cm 巾 27cm 総高さ 69cm	高さ 48cm 巾 30cm 総高さ 48cm	高さ 51cm 巾 30cm 総高さ 58cm	高さ 43cm 巾 36cm 総高さ 57cm	高さ 50cm 巾 42cm 総高さ 50cm	方量
不明	不明	不明	不明	天明9	安永5	安永5	享保20	元禄8	不明	年代
(双体浮彫)	(双体浮彫)	(双体浮彫)	(双体浮彫)	天明九乙 施主野田左衛門	安永五天申四月吉日 中井村	安永五 □	享保二十卯 □	元禄八乙 天五月吉日	道祖 □	銘文
砂舟型、 握手 岩	砂舟型 岩	舟型、砂岩 上部欠損	握光背、 砂岩 手	舟型、砂岩 上部欠損、 抱合	左神右向く 舟型、砂型	握光背、 砂岩 手	砂光 岩背	砂光 岩背	下部地中 自然石、 緑色片岩	備考

160	159	158	157	156	155	154	153	152	151	番 形
㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	所在地
下日野中倉中井 鮎川南	金井稲荷神社	下日野駒留 地守神社	金井稲荷神社	下日野猪ノ田 普寛堂	上日野小柏 大谷旧道	上日野 小柏日向	上日野 小柏下組	上日野 細谷戸	下日野塩平 十二の森	所在地
高さ28cm 巾17cm 総高さ28cm	高さ85cm 巾79cm 総高さ85cm	高さ54cm 巾28cm 総高さ54cm	高さ50cm 巾26cm 総高さ50cm	高さ47cm 巾30cm 総高さ67cm	高さ50cm 巾29cm 総高さ67cm	高さ54cm 巾23cm 総高さ64cm	高さ56.5cm 巾27cm 総高さ56.5cm	高さ55cm 巾36cm 総高さ69cm	高さ51cm 巾33cm 総高さ71cm	方 量
安永2	安永2	明和9	宝暦11	明治4	不 明	不 明	不 明	不 明	不 明	年 代
道祖神 安永一巳年正月吉日	道祖神 安永一五六〇吉祥日上町	道祖神 明和九年八月吉日宮後村子供中	道祖神 宝暦十一〇 金井下町子〇	明治四年 六月吉日	(双体浮彫)	(双体浮彫)	(双体浮彫)	(双体浮彫)	(双体浮彫)	銘 文
自然石、砂岩 上部が割れる	自然石 緑色片岩	自然石 緑色片岩	山状角柱	舟型、砂岩 莖、徳利を持つ	舟型、砂岩 莖、徳利を持つ	舟型、砂岩 割れる、倒伏	握 手 光背、緑色片岩	舟型、砂岩 上部が割れる	握 手	備 考

170	169	168	167	166	165	164	163	162	161	番 形
㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	所在地
下日野箕輪	上日野板野 下板野	上日野小柏 奥ノ反	上日野上平	下日野芝平	下日野印地	上日野尾根	金井岡ノ原	下日野渡牛	上日野田本 辛科八幡	所在地
高さ56cm 巾58cm 総高さ56cm	高さ110cm 巾64cm 総高さ110cm	高さ111cm 巾50cm 総高さ111cm	高さ110cm 巾33cm 総高さ116cm	高さ128cm 巾46cm 総高さ129cm	高さ40cm 巾35cm 総高さ40cm	高さ50cm 巾45cm 総高さ57cm	高さ70cm 巾44cm 総高さ94cm	高さ81.5cm 巾31.5cm 総高さ90cm	高さ62cm 巾30cm 総高さ62cm	方 量
弘化元	天保9	天保8	文化10	享和元	不 明	寛政12	寛政12	寛政11	寛政10	年 代
道祖神 弘化元年	道祖神 天保九戊戌年正月吉日	道隆神 天保八酉年	道祖神 文化十癸酉曆八月大拝日	道祖神 享和元年辛酉三月日	道祖神 寛政一〇〇 十月吉日	道祖神 寛政十二庚申 八月吉祥日	道祖神社 寛政庚申 六月日	道祖神 寛政十一年 正月吉日	道祖神 寛政十午歳 正月十四日	銘 文
自然石	自然石 緑色片岩	自然石 緑色片岩	板石加工、緑色 片岩、上下半分 に折損	草書体 割り石、砂岩	自然石	自然石 緑色片岩	自然石 緑色片岩	箱 型	砂 岩 角 柱	備 考

180	179	178	177	176	175	174	173	172	171	番 形
㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	所 在 地
上日野細谷戸	下日野駒留 地守神社	上日野坂野 上坂野	上日野奈良山	上日野奈良山	上日野馬渡戸	下日野印地	下日野駒留 地守神社	上日野日本 辛科八幡	上日野鹿島 鹿島神社	所 在 地
高さ 51 cm 巾 38 cm 総高 66 cm	高さ 89 cm 巾 46 cm 総高 89 cm	高さ 62 cm 巾 35 cm 総高 76 cm	高さ 40 cm 巾 30 cm 総高 50 cm	高さ 43 cm 巾 38 cm 総高 43 cm	高さ 80 cm 巾 42 cm 総高 80 cm	高さ 65 cm 巾 35 cm 総高 65 cm	高さ 74 cm 巾 50 cm 総高 74 cm	高さ 79 cm 巾 48 cm 総高 79 cm	高さ 80 cm 巾 47 cm 総高 80 cm	方 量 年 代
不 明	不 明	不 明	不 明	不 明	不 明	不 明	不 明	永 嘉 2	弘 化 4	銘 文
(双体浮彫)	道祖神	道祖神	道祖神	道祖神	道祖神	道祖神	道祖神	道祖神 高水二 西年 四月吉日	道祖神 弘化四年三月吉日 鹿島村	銘 文
砂舟 岩型	自然石 緑色片岩	自然石 後に断片あり	自然石	自然石	自然石 上部左欠ける	自然石 緑色片岩	自然石 緑色片岩	自然石 緑色片岩	自然石 緑色片岩	備 考

184	183	182	181	番 形
㊸	㊸	㊸	㊸	所 在 地
緑野上郷 美国神社	緑禁下組 伝兵衛屋敷	緑禁下組 秩父住連三本止 齊藤家墓地	緑禁下組 秩父住連三本止 高藤家墓地	所 在 地
高さ 巾 総高	高さ 巾 46 cm 総高	高さ 巾 77 cm 総高	高さ 巾 58 cm 総高	方 量 年 代
不 明	不 明	不 明	寛 政 12	銘 文
百体道祖神 加藤!知国の三基を合々、計五三基現存 する。全て文字牌で堀口伝兵衛(ホリナ)が寛政十一年に彫刻して文政二年(一)文字の間に五三基に計五三基の道祖神 彫刻のあるもの八基、道祖を重なるも の三基、篆書体五、草書体三十一、楷、 行書体十、不明一	道祖神 奉造立一百社堀口伝兵衛定寿 左白山道 第三番	道祖神奉造立一百社 一番 堀口伝兵衛定寿	道祖神 奉造立一百社 寛政十二星庚申口大願主堀 第一番	銘 文
	自然石 竹藪内にあり ◎道標	自然石 緑色片岩	自然石 緑色片岩 ◎道標	備 考

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	番号
⑩	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①	番形
高瀬 上高瀬	高瀬 内匠	高瀬 内匠	小野 高尾 千福寺	小野 須山 上組	小野 藤木	小野 桑原 日影	小野 小桑原	小野 蕨 下組	小野 後賀	所在地
高さ 54cm 巾 36cm 総高 cm	高さ 55cm 巾 66cm 総高 cm	高さ 67cm 巾 55cm 総高 cm	高さ 48cm 巾 30cm 総高 cm	高さ 51cm 巾 39cm 総高 cm	高さ 98cm 巾 75cm 総高 cm	高さ 42cm 巾 25cm 総高 cm	高さ 53cm 巾 39cm 総高 cm	高さ 57cm 巾 34cm 総高 cm	高さ 57cm 巾 32cm 総高 cm	方量
延宝元	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	年代
(双体道祖神像) 延宝 丑十一月十五日	(双体道祖神像)	(双体道祖神像)	(双体道祖神像)	(双体道祖神像)	(双体道祖神像)	(双体道祖神像)	(双体道祖神像) 子年	(双体道祖神像)	(双体道祖神像)	銘文
			合 掌	祝 言	祝 言	合 掌	祝 言	握 手	合 掌	備考

20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	番号	
⑳	⑲	⑱	⑱	⑱	⑱	⑱	⑱	⑱	⑱	番形	
黒川 戸河瀬	黒川 手代坂	黒川 手代坂	吉田 小林	吉田 小林	吉田 小林	吉田 稲荷沢	吉田 久保田居村	吉田 梅沢	吉田 神成	所在地	
高さ 59cm 巾 33cm 総高 cm	高さ 33cm 巾 30cm 総高 cm	高さ 60cm 巾 32cm 総高 cm	高さ 46cm 巾 36cm 総高 cm	高さ 58cm 巾 39cm 総高 cm	高さ 33cm 巾 34cm 総高 cm	高さ 49cm 巾 37cm 総高 cm	高さ 61cm 巾 50cm 総高 cm	高さ 51cm 巾 40cm 総高 cm	高さ 60cm 巾 42cm 総高 cm	方量	
不明	不明	明和2	不明	不明	享保7	宝暦13	不明	明和4	不明	年代	
(双体道祖神像)	(双体道祖神像)	(双体道祖神像) 明和乙卯 正月吉日 同行十三人 黒川村	(双体道祖神像)	(双体道祖神像)	(双体道祖神像) 享保七壬 十一月吉日	(双体道祖神像) 宝暦十三未年 二月十五日	(双体道祖神像) 壬辰八月吉日 女中念仏供養	(双体道祖神像) 明和四年六月吉日	(双体道祖神像)	(双体道祖神像)	銘文
										備考	

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	番形
額 岡本部 川久保	額 岡本部 下川	額 岡本部 下川	額 岡本部 下川	黒岩 上黒岩 大月	黒岩 下黒岩 田中	黒岩 下黒岩 砂田	黒岩 下黒岩 砂田	黒岩 下黒岩 芥田	黒岩 黒川 横場	所在地
高さ 巾 総高	46 37 cm	64 49 cm	66 39 cm	60 27 cm	73 46 cm	45 34 cm	56 41 cm	40 38 cm	66 39 cm	方量
不明	不明	不明	不明	享保11 四月吉日	不明	不明	不明	不明	不明	年代
(双体道祖神像)	(双体道祖神像)	(双体道祖神像)	(双体道祖神像)	(双体道祖神像) 享保十一年丙午	(双体道祖神像)	(双体道祖神像)	(双体道祖神像)	(双体道祖神像)	(双体道祖神像)	銘文
測定不能	頭部を欠く					測定不能				備考

40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	番形
額 野上部 三協	額 岩部 染	額 岩部 染	額 南後箇 下大塩	額 岡本部 柳谷戸	額 岡本部 東	額 岡本部 日向	額 岡本部 上北根	額 岡本部 上北根	額 岡本部 下北根	所在地
高さ 巾 総高	46 37 cm	64 49 cm	66 39 cm	60 27 cm	73 46 cm	45 34 cm	56 41 cm	40 38 cm	66 39 cm	方量
不明	不明	不明	不明	宝永3	明和6	寛政12	不明	不明	不明	年代
(双体道祖神像)	(双体道祖神像) □□七〇五月吉日	(双体道祖神像)	(双体道祖神像)	(双体道祖神像) 宝永三年 四月吉日	(双体道祖神像) 明和六十年 十二月吉日	(双体道祖神像) 寛政十一年 六月吉日	(双体道祖神像)	(双体道祖神像) □□七〇五月吉日	(双体道祖神像)	銘文
										備考

富岡市

50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	番 形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	所 在 地
小 相 野 田	小 相 野 田	小 野 巖 根 古 屋	小 一 の 坂	小 野 岩	小 野 岩	小 野 賀	野 上 部 塩 名 田	野 上 部 加 生	野 上 部 新 加 生	所 在 地
高さ 61 cm 巾 31 cm 総高	高さ 79 cm 巾 43 cm 総高	高さ 71 cm 巾 43 cm 総高	高さ 50 cm 巾 28 cm 総高	高さ 62 cm 巾 96 cm 総高	高さ 73 cm 巾 50 cm 総高	高さ 90 cm 巾 32 cm 総高	高さ 49 cm 巾 32 cm 総高	高さ 57 cm 巾 37 cm 総高	高さ 65 cm 巾 46 cm 総高	方 量
不 明	不 明	不 明	不 明	寛政 9	寛政元	寛政 13	享保 6	不 明	享保 6	年 代
道 祖 神	道 祖 神 下 組 相 野 田 村	道 祖 神 氏 子 中	道 祖 神 明 和	道 祖 神 寛 政 九 季 正 月 吉 日	道 祖 神 寛 政 元 西 年 正 月 吉 日	道 祖 神 寛 政 十 三 年 西 正 月 吉 日 中 子 氏	道 祖 神 享 保 六 年 天 (双 体 道 祖 神 像)	道 祖 神 享 保 六 年 天 (双 体 道 祖 神 像)	道 祖 神 享 保 六 年 天 (双 体 道 祖 神 像)	銘 文
				下 部 埋 れる						備 考

60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	番 形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	所 在 地
富 岡 小 舟 神 社	富 岡 酢 ノ 瀬	富 岡 酢 ノ 瀬	小 野 下 高 尾	小 野 下 高 尾	小 野 藤 木	小 野 藤 木 日 影	小 野 桑 原 小 浜	小 野 桑 原 北 前 組	小 野 桑 原 丸 山	所 在 地
高さ 85 cm 巾 25 cm 総高	高さ 62 cm 巾 48 cm 総高	高さ 85 cm 巾 35 cm 総高	高さ 78 cm 巾 67 cm 総高	高さ 69 cm 巾 57 cm 総高	高さ 72 cm 巾 68 cm 総高	高さ 78 cm 巾 53 cm 総高	高さ 66 cm 巾 50 cm 総高	高さ 38 cm 巾 35 cm 総高	高さ 31 cm 巾 28 cm 総高	方 量
不 明	不 明	不 明	嘉永 4	寛政 7	不 明	寛政 2	不 明	不 明	不 明	年 代
道 祖 神	道 祖 神	道 祖 神	道 祖 神 嘉 永 四 亥 正 月 吉 日 当 所 西 組	道 祖 神 寛 政 七 年 庚 申 乙 卯 百 春 良 辰 当 所 新 保 谷 戸 氏 子 中	道 祖 神 藤 木 村	道 祖 神 寛 政 二 年 十 一 月 吉 祥 日	道 祖 神 正 月 吉 日	道 祖 神	道 祖 神 氏 子	銘 文
行 書 体		行 書 体			篆 書 体	行 書 体				備 考

70	69	68	67	66	65	64	63	62	61	番 形
富 岡 七 日 市 南 新 田	富 岡 七 日 市	富 岡 別 保 熊 野 社	富 岡 小 沢	富 岡 小 田 谷	富 岡 市 役 所 前	富 岡 富 小 前	富 岡 屋 敷	富 岡 屋 敷	富 岡 小 舟 神 社	所 在 地
高 さ 69 cm 総 高	高 さ 72 cm 総 高	高 さ 60 cm 総 高	高 さ 61 cm 総 高	高 さ 97 cm 総 高	高 さ 72 cm 総 高	高 さ 95 cm 総 高	高 さ 89 cm 総 高	高 さ 91 cm 総 高	高 さ 98 cm 総 高	方 量
文 化 7	弘 化 4	寛 政 2	不 明	天 明 6	不 明	不 明	享 和 2	文 政 12	天 保 6	年 代
道 祖 神 文 化 七 重 と 春	道 祖 神 東 年 巻 書 弘 化 四 季 如 月 殺 且 七 日 市 下 組	道 祖 神 寛 政 二 庚 戌 十 一 月 吉 日	道 祖 神 正 月 吉 日 □ _一 □ _二 壬 寅 年	道 祖 神 天 明 六 年 午 春	道 祖 神 歳 己 寅	道 祖 神	道 祖 神 享 和 二 壬 戌 歲 十 二 月 吉 辰	道 祖 神 文 政 己 未 年 正 月 吉 日 屋 敷 包 子 供 中	道 祖 神 天 保 六 季 乙 未 正 月 十 四 日 珠 親 書 世 話 人 二 三 名 略	銘 文
	中 山 珠 親		行 書 体 天 明 一 一 壬 寅			篆 書 体			中 山 珠 親 書 体	備 考

80	79	78	77	76	75	74	73	72	71	番 形
一 の 宮 田 島 和 合 橋	一 の 宮 田 島	一 の 宮 神 農 原 馬 場	一 の 宮 神 農 原 馬 場	一 の 宮 神 農 原 馬 場	一 の 宮 神 農 原	一 の 宮 神 農 原 五 組	富 岡 本 城 寺	富 岡 七 日 市 駅 東	富 岡 七 日 市	所 在 地
高 さ 75 cm 総 高	高 さ 71 cm 総 高	高 さ 62 cm 総 高	高 さ 98 cm 総 高	高 さ 87 cm 総 高	高 さ 70 cm 総 高	高 さ 66 cm 総 高	高 さ 70 cm 総 高	高 さ 15 cm 総 高	高 さ 87 cm 総 高	方 量
寛 政 2	文 化 3	不 明	不 明	不 明	文 化 元	不 明	不 明	慶 應 4	安 永 4	年 代
道 祖 神 寛 政 二 庚 戌 春 正 月 吉 日	道 祖 神 文 化 三 年 寅 四 月 五 日 田 嶋 村	道 祖 神	道 祖 神 ば ん 八 中	道 祖 神	道 祖 神 文 化 元 甲 子 年 十 一 月 吉 日 神 原 村	道 祖 神	(双 体 道 祖 神 像)	道 祖 神 正 月 十 四 日 北 新 町	道 祖 神 安 永 四 乙 未 天 正 月 吉 日 七 日 市	銘 文
						下 部 埋 も れ る				備 考

富岡市

90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	番 形
②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②
一の宮 宇田 中寺田	一の宮 宇田 おみ堂	一の宮 宇田 宿中	一の宮 宇田 姥子堂橋	一の宮 宇田	一の宮 宇田	一の宮	一の宮 一峰公園	一の宮	一の宮	所在地
高さ 64cm 巾 50cm 総高	高さ 96cm 巾 33cm 総高	高さ 87cm 巾 10cm 総高	高さ 70cm 巾 77cm 総高	高さ 76cm 巾 15cm 総高	高さ 109cm 巾 98cm 総高	高さ 80cm 巾 65cm 総高	高さ 94cm 巾 94cm 総高	高さ 105cm 巾 51cm 総高	高さ 105cm 巾 51cm 総高	方量
不明	文化6	不明	明和6	明和6	安政3	安永3	不明	不明	文久2	年代
道祖神 中寺田 辰正月吉日	道祖神 二月吉日 文化六己天	道祖神 二月初八日 巳年 宿中	道祖神 二月八日 明和六己	道祖神 二月初八日 明和六己 宇田村	道祖神 安政三丙辰二月建	道祖神 安永三甲辰正月吉日	道祖神	道祖神 (紙に墨書) 自然石	猿田彦大神 文久壬辰年四月吉日	銘 文
篆 書 体			下 部 没				や つ と 判 読	香が道祖神と書し てた紙をに貼りつけ てた道祖神と云	地域の人は道祖神 としてつまりこの を所てどんと地き を場してきたという	備考

100	99	98	97	96	95	94	92	92	91	番 形
②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②
一の宮 宮崎	一の宮 根岸	一の宮 根岸	一の宮 根岸	一の宮 宮崎	一の宮 宮崎	一の宮 坂井	一の宮 坂井	一の宮 坂井	一の宮 宇田 上寺田	所在地
高さ 100cm 巾 58cm 総高	高さ 88cm 巾 43cm 総高	高さ 74cm 巾 47cm 総高	高さ 95cm 巾 46cm 総高	高さ 100cm 巾 58cm 総高	高さ 83cm 巾 54cm 総高	高さ 57cm 巾 40cm 総高	高さ 61cm 巾 31cm 総高	高さ 113cm 巾 130cm 総高	高さ 70cm 巾 88cm 総高	方量
不明	不明	慶応3	不明	安政4	不明	安永7	不明	文化5	安永9	年代
道祖神	道祖神	道祖神 慶応三丁卯十二月吉日	道祖神 根岸村	道祖神 安政四丁己酉月	道祖神 宮崎村	道祖神 西正月吉日 安永戊辰	道祖神	道祖神 文化五戊辰年十二月良辰	道祖神 安永九庚子季 上寺田	銘 文
										備考

110	109	108	107	106	105	104	103	102	101	番 形
②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	所在地
東富岡 君川	東富岡 星田	東富岡 星田 岩棚	東富岡 星田 下星田	東富岡 下田篠	東富岡 上田篠	一の宮 神農原	一の宮 宇田 上寺田	一の宮 下り松	一の宮 柳沢	所在地
高さ 53 cm 巾 42 cm 総高 cm	高さ 53 cm 巾 30 cm 総高 cm	高さ 61 cm 巾 21 cm 総高 cm	高さ 70 cm 巾 30 cm 総高 cm	高さ 94 cm 巾 60 cm 総高 cm	高さ 92 cm 巾 41 cm 総高 cm	高さ 38 cm 巾 28 cm 総高 cm	高さ 52 cm 巾 27 cm 総高 cm	高さ 52 cm 巾 35 cm 総高 cm	高さ 100 cm 巾 40 cm 総高 cm	方量
不明	不明	寛政9	不明	不明	安永9	寛延2	享保11	不明	元禄9	年代
循祖神 未正月吉日	道祖神	道祖神 寛政九己正月吉日	道祖神	道祖神	道祖神 安永九年 十一月日	(双体道祖神像) 寛延二年 己十一月吉日	(双体道祖神像) 享保十二年 正月	(双体道祖神像) □月吉日	道祖神 元禄九年子年八月吉日	銘 文
								不明	紀年銘の部分	備考

120	119	118	117	116	115	114	113	112	111	番 形
②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	所在地
東富岡 曾木	東富岡 曾木	東富岡 曾木	東富岡 曾木	東富岡 曾木	東富岡 曾木	東富岡 星田	東富岡 田篠	東富岡 曾木	東富岡 曾木	所在地
高さ 42 cm 巾 38 cm 総高 cm	高さ 58 cm 巾 33 cm 総高 cm	高さ 59 cm 巾 48 cm 総高 cm	高さ cm 巾 cm 総高 cm	高さ cm 巾 cm 総高 cm	高さ 59 cm 巾 37 cm 総高 cm	高さ 80 cm 巾 63 cm 総高 cm	高さ 66 cm 巾 45 cm 総高 cm	高さ 70 cm 巾 48 cm 総高 cm	高さ 50 cm 巾 53 cm 総高 cm	方量
不明	不明	享保7	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	年代
(双体道祖神像)	(双体道祖神像)	(双体道祖神像) 享保七年九月吉日 曾木村 施主	(双体道祖神像)	(双体道祖神像)	(双体道祖神像)	(双体道祖神像)	(双体道祖神像)	道祖神 曾木村	道祖神	銘 文
										備考

富岡市

130	129	128	127	126	125	124	123	122	121	番 形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗
高 瀬	高 上高 瀬	高 上高 瀬	高 中高 瀬 薬師寺	高 中高 瀬 薬師寺	高 下高 瀬	高 下高 瀬	内 高 瀬 匠	内 高 瀬 匠	内 高 瀬 匠	所 在 地
高さ 55cm 巾 60cm 総高 cm	高さ 80cm 巾 80cm 総高 cm	高さ 73cm 巾 63cm 総高 cm	高さ 65cm 巾 46cm 総高 cm	高さ 73cm 巾 63cm 総高 cm	高さ 73cm 巾 47cm 総高 cm	高さ 85cm 巾 75cm 総高 cm	高さ 53cm 巾 56cm 総高 cm	高さ 82cm 巾 26cm 総高 cm	高さ 75cm 巾 43cm 総高 cm	方 量
不 明	不 明	文久2	文化3	不 明	安永6	安永5	不 明	安永9	不 明	年 代
術 祖 神	道 祖 神	道 祖 神 文久一 壬戌三月 吉日 氏子中	道 祖 神 文化三 酉天	道 祖 神	道 祖 神 安永六丁 酉年 十月吉日	道 祖 神 安永五 酉年 正月吉日	道 祖 神	道 祖 神 安永九 子年 八月吉日	道 祖 神	銘
										文
										備 考

140	139	138	137	136	135	134	133	132	131	番 形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗
吉 神 成	吉 神 成	吉 神 成	高 中高 瀬	高 中高 瀬 幅	高 中高 瀬	高 高 瀬	高 高 瀬 上 谷 戸	高 高 瀬 上 谷 戸	高 高 瀬 上 谷 戸	所 在 地
高さ 75cm 巾 60cm 総高 cm	高さ 90cm 巾 70cm 総高 cm	高さ 65cm 巾 45cm 総高 cm	高さ 84cm 巾 45cm 総高 cm	高さ 87cm 巾 86cm 総高 cm	高さ 84cm 巾 50cm 総高 cm	高さ 111cm 巾 64cm 総高 cm	高さ 138cm 巾 54cm 総高 cm	高さ 23cm 巾 23cm 総高 cm	高さ 83cm 巾 59cm 総高 cm	方 量
文化14	天明元	不 明	不 明	不 明	明和9	安永4	不 明	不 明	不 明	年 代
道 祖 神 文化十四 酉正月 吉日 中神成村	術 祖 神 天明元年 丑年十一 月吉日 神成村	道 祖 神 下 神 成	道 祖 神	道 祖 神	道 祖 神 明和九 丑年 四月吉日	道 祖 神 安永四 未九月 吉日	道 祖 神	道 祖	道 祖 神	銘
										文
			行 書 体							備 考

150	149	148	147	146	145	144	143	142	141	番形
②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	所在地
吉田 小倉	吉田 破風前場	吉田 蚊沼	吉田 蚊沼	吉田	吉田	吉田 鳥糞神社	吉田 鳥糞神社	吉田 新田	吉田 神成	所在地
高さ74cm 巾46cm 総高	高さ88cm 巾53cm 総高	高さ120cm 巾85cm 総高	高さ86cm 巾48cm 総高	高さ71cm 巾14cm 総高	高さ66cm 巾46cm 総高	高さ65cm 巾32cm 総高	高さ60cm 巾38cm 総高	高さ95cm 巾50cm 総高	高さ65cm 巾50cm 総高	方量
不明	不明	天保9	文政4	文政4	不明	不明	不明	天明5	不明	年代
道祖神 小倉村	道祖神	道祖神 北海小比叡山主人 七十一叟 道栄 天保九年戊辰辰建之	道祖神 文政四己歲正月吉祥日	衝祖神 己年廿庚 正月吉日 □祭 □寅謹書	道祖神	道祖神	道祖神	道祖神 天明五乙巳歲正月大吉日 新堀村中	道祖神 神成寺	銘 文
				横書きである						備考

160	159	158	157	156	155	154	153	152	151	番形
②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	所在地
吉田 小林	吉田 小林	吉田 千平	吉田	吉田 三つや	吉田	吉田 普門寺	吉田 稲荷沢	吉田	吉田 実相寺参道	所在地
高さ46cm 巾30cm 総高	高さ106cm 巾68cm 総高	高さ80cm 巾80cm 総高	高さ90cm 巾82cm 総高	高さ83cm 巾50cm 総高	高さ64cm 巾73cm 総高	高さ69cm 巾80cm 総高	高さ67cm 巾70cm 総高	高さ108cm 巾108cm 総高	高さ63cm 巾58cm 総高	方量
不明	不明	寛政7	天保4	安永5	不明	弘化2	不明	天保11	嘉永2	年代
道祖 □	道祖神	道祖神 寛政七乙卯年三月吉祥日 南蛇井邑千平中	道祖神 (妻)天保龍舎四冬建	道祖神 安永五年 正月吉日 三つや茂木氏	道祖 □	道祖神 普門寺村 正月良辰 弘化一乙巳	道祖神	道祖神 天保十一年庚子正月 当郷中	道祖神 嘉永二年	銘 文
下部埋まる					下部埋まる					備考

富岡市

170	169	168	167	166	165	164	163	162	161	番形
②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	所在地
丹生 上丹生 南組	丹生 小屋敷	丹生 下丹生 打越	丹生 下丹生 寺ヶ前	丹生 下丹生 向田	丹生 下丹生 かさ	丹生 下丹生 東区	丹生 下丹生 東区	吉田 小林	吉田 小林	所在地
高さ15 巾96 総高	高さ64 巾62 総高	高さ10 巾13 総高	高さ80 巾57 総高	高さ66 巾66 総高	高さ55 巾73 総高	高さ59 巾50 総高	高さ52 巾40 総高	高さ67 巾67 総高	高さ59 巾66 総高	方量
不明	寛政13	不明	不明	寛政2	文化4	寛政5	不明	不明	不明	年代
道祖神 中山塚書 上丹生村	道祖神 正月吉日 寛政十三年	道祖神	道祖神 二月吉日	道祖神 寛政三年 戊三月吉日	道祖神 正月吉日 文化四卯歳	道祖神 丑正月吉日 寛政五年 下丹生村	道祖神	道祖神 中小林	道祖神 石井氏	銘文
中山塚親書 行書体		篆書体			下部没					備考

180	179	178	177	176	175	174	173	172	171	番形
②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	所在地
丹生 上丹生	丹生 下丹生 ミスの上	丹生 山口	丹生 原	丹生 原	丹生 上丹生 せいしん	丹生 上丹生 千足	丹生 中山	丹生 上丹生	丹生 上丹生 五分一	所在地
高さ55 巾41 総高	高さ34 巾23 総高	高さ10 巾15 総高	高さ67 巾58 総高	高さ74 巾73 総高	高さ75 巾35 総高	高さ100 巾80 総高	高さ30 巾43 総高	高さ54 巾33 総高	高さ50 巾50 総高	方量
不明	不明	文政10	不明	不明	不明	天保4	慶応4	安永7	不明	年代
(双体道祖神像)	(双体道祖神像)	道祖神 山口村 文政十年 信心道中 正月吉日 西毛日谷惟実親書	道祖神	道祖神	安鎮勢神	道祖神 天保4 已禊正月下辰 上丹生村	道祖神 慶応4 慶心四 成年	道祖神 安永7 成年 上丹生村	道祖神	銘文
									下部没	備考

190	189	188	187	186	185	184	183	182	181	番形
⊙	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙
黒岩 下黒岩 谷津	黒岩 下黒岩 砂田	黒岩 黒岩 新田	黒岩 上黒岩 打越	黒岩 上黒岩 深町	黒岩 黒川 中才	黒川 上黒川	黒岩 黒川 上黒川	黒岩 黒川 御臺	黒岩 黒川 御臺	所在地
高さ 59cm 巾 36cm 総高 cm	高さ 82cm 巾 58cm 総高 cm	高さ 51cm 巾 51cm 総高 cm	高さ 76cm 巾 47cm 総高 cm	高さ 83cm 巾 64cm 総高 cm	高さ 130cm 巾 85cm 総高 cm	高さ 80cm 巾 35cm 総高 cm	高さ 8cm 巾 79cm 総高 cm	高さ 66cm 巾 40cm 総高 cm	高さ 66cm 巾 70cm 総高 cm	方量
不明	明和8	不明	明和6	不明	不明	明和8	不明	安永10	寛政2	年代
道祖神	道祖神 明和八天 正月吉日 砂田村	道祖神	道祖神 明和六天 丑十月吉日	道祖神	道祖神	道祖神 明和八 ^天 吉祥日 講中	道祖神	道祖神 安政十年 正月吉日	道祖神 寛政 ^成 正月吉日	銘文
									篆書体	備考

200	199	198	197	196	195	194	193	192	191	番形
⊙	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙
額 岡本部 下北根	額 岡本部 下北根	額 岡本部 下北根	額 岡本部 川久保	額 岡本部 下川	額 岡本部	黒岩 上黒岩 宮本	黒岩 上黒岩 宮本	黒岩 下黒岩 谷津	黒岩 下黒岩 谷津	所在地
高さ 86cm 巾 43cm 総高 cm	高さ cm 巾 cm 総高 cm	高さ 95cm 巾 48cm 総高 cm	高さ 54cm 巾 32cm 総高 cm	高さ 62cm 巾 45cm 総高 cm	高さ 93cm 巾 81cm 総高 cm	高さ 78cm 巾 48cm 総高 cm	高さ 59cm 巾 67cm 総高 cm	高さ 100cm 巾 67cm 総高 cm	高さ 77cm 巾 35cm 総高 cm	方量
不明	不明	不明	不明	不明	不明	寛政12	不明	弘化3	不明	年代
道祖神	道祖神	道祖神	道祖神	道祖神	衝祖神	道祖神 寛政十二 ^年 正月吉日	道祖神	道祖神 弘化二 ^季 正月吉日	道祖神	銘文
										備考

209	208	207	206	205	204	203	202	201	番形
㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	
額野上	額野上	額野上	額野上	額南後園	額部	額南後園	額部	額岡本	所在地
西平	宮城	中井	三協	森		田沢			
高さ 102cm 巾 69cm 総高 cm	高さ 78cm 巾 45cm 総高 cm	高さ 77cm 巾 66cm 総高 cm	高さ 77cm 巾 54cm 総高 cm	高さ 63cm 巾 52cm 総高 cm	高さ 130cm 巾 98cm 総高 cm	高さ 53cm 巾 46cm 総高 cm	高さ 78cm 巾 53cm 総高 cm	高さ 39cm 巾 24cm 総高 cm	方量
嘉永5	明和7	寛政12	不 明	安永6	文久3	安永5	不 明	不 明	年代
道祖神 正月吉日 西平村	道祖神 三月吉日 明和庚寅年	道祖神 正月吉日 寛政十二庚申年	道祖神	道祖神 正月吉日建立 中村惣	道祖神 当所 氏子 文久三亥年正月吉日	道祖神 安永五丙午年	道祖神 大森	道祖神	銘
									文
									備考

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	番形
㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	
磯部神社 鳥居の傍	磯部神社 境内	磯部神社 境内	下磯部上水口 墓地	大竹下水口 塚田家墓地	大竹下水口 毘沙門堂内	下磯部 尾崎	大竹 薬師堂跡	大竹 五四〇	池田六六七 柳沢方角 東方角	所在地
高さ 75cm 巾 64cm 総高 cm	高さ 40cm 巾 33cm 総高 cm	高さ 75cm 巾 64cm 総高 cm	高さ 56cm 巾 48cm 総高 cm	高さ 53cm 巾 34cm 総高 cm	高さ 64cm 巾 70cm 総高 cm	高さ 90cm 巾 60cm 総高 cm	高さ 98cm 巾 50cm 総高 cm	高さ 83cm 巾 62cm 総高 cm	高さ 90cm 巾 90cm 総高 cm	方量
宝暦13	不 明	不 明	安永4	不 明	寛政7	天明8	享保3	不 明	文政6	年代
道祖神 宝暦十三癸未			道祖神 未正月吉日 水口村 安永四年		道祖神 正月吉日 寛政七年	道祖神 戊申正月吉日 下磯部 天明八年	道祖神 享保三年戊戌年 七月吉日 問屋	道祖神 大竹村	道祖神 文政六年天中十二月吉日 願主組中	銘
	楕形合掌	搦肩把手	下部土中 自然石	像高三五 合掌像形			搦肩把手		裏に凹穴あり	文
										備考

20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	番形
㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	所在地
西上磯部 舞臺 大手家墓地	下磯部馬場 旧諏訪神社境内	下磯部馬場 旧諏訪神社境内	下磯部馬場 旧諏訪神社境内	西上磯部中村 信照寺山門入口	東上磯部 舞臺 薬師堂境内	東上磯部 舞臺 薬師堂境内	東上磯部 三軒	磯部四丁目登城 松岸寺入口	東上磯部新井 一九六一	所在地
高さ 75cm 巾高 60cm 総高 95cm	高さ 56cm 巾高 35cm 総高	高さ 56cm 巾高 35cm 総高	高さ 75cm 巾高 総高	高さ 55cm 巾高 60cm 総高	高さ 68cm 巾高 74cm 総高 90cm	高さ 58cm 巾高 52cm 総高 77cm	高さ 79cm 巾高 総高	高さ 58cm 巾高 40cm 総高	高さ 91cm 巾高 66cm 総高	方量
不明	不明	宝暦12	文政4	宝暦6	寛政3	不明	寛政3	明和4	寛政2	年代
九月吉日 (欠) □□□		道祖神 宝暦十二年□□ 正月吉祥日 田村氏 願主	道祖神 文政四年歲 春正月十四日建之	道祖神 宝暦六年 子十一月吉日	道祖神 寛政三年 正月吉日	不明	道祖神 寛政三辛未 正月吉日	明和四年□□吉□ 施主□□	道祖神 寛政二庚戌	銘
合舟 掌形						兩手握手	ハ丨ト形		自然石	備考

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	番形
㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	所在地
東上磯部 神明社境内	東上磯部 神明神社跡	東上磯部 神明神社跡	東上磯部 神明神社跡	西上磯部 新地	西上磯部 新地	西上磯部 寺前	上磯部新寺 笠原	上磯部新寺 笠原	西上磯部 赤城神社東	所在地
高さ 68cm 巾高 46cm 総高	高さ 60cm 巾高 60cm 総高	高さ 52cm 巾高 64cm 総高	高さ 60cm 巾高 74cm 総高	高さ 80cm 巾高 70cm 総高	高さ 55cm 巾高 64cm 総高	高さ 79cm 巾高 55cm 総高	高さ 50cm 巾高 42cm 総高	高さ 70cm 巾高 50cm 総高	高さ 94cm 巾高 76cm 総高 100cm	方量
不明	享和3	宝永5	宝永元	不明	不明	不明	延享元	不明	不明	年代
道祖神 □□□□	道祖神 享和三年 亥九月吉日	道祖神 宝永五年 正月吉日	道祖神 宝永元年 八月大吉日	道祖神	道祖神	道祖神	延享元年□□	道祖神	道祖神 □□□□	銘
			自然石	倒伏	年号判読不可	行書体		自然石行書体		備考

上州の道祖神一覧 125頁は
個人情報が含まれるため非公開

60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	番形
㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	所在地
高別当 小峰	高別当 小峰	高別当 井戸谷戸	米山公民館前	米山地蔵堂 境内	米山地蔵堂 境内	小間 久保方	小間 南入口	小間 一一〇一	小間 一一〇三	所在地
高さ 21cm 巾 30cm 総高 cm	高さ 79cm 巾 44cm 総高 cm	高さ 76cm 巾 54cm 総高 88cm	高さ 70cm 巾 56cm 総高 94cm	高さ 45cm 巾 26cm 総高 59cm	高さ 58cm 巾 30cm 総高 cm	高さ 75cm 巾 63cm 総高 cm	高さ 43cm 巾 39cm 総高 cm	高さ 87cm 巾 65cm 総高 cm	高さ 106cm 巾 63cm 総高 cm	方量
不明	寛政12	明和4	寛政5	不明	天明5	享和2	不明	不明	文化5	年代
	道祖神 寛政十二年庚申天 十一月吉祥寺	道祖神 明和四年 正月吉日 井戸谷戸	道祖神 寛政五癸丑年 十一月吉日		天明五己年 十一月吉祥日	享和二壬戌三月 小間中		道祖神	文化五年辰正月吉日	銘文
断片				江戸初期と推定	明治に復元し たもの					備考

70	69	68	67	66	65	64	63	62	61	番形
㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	所在地
小俣上村	小俣下村	古屋 下古屋	古屋 法楽寺	高別当 森谷戸	高別当 森谷戸	高別当 森谷戸	高別当 西三又路 (愛宕社)	高別当 鬼谷戸	高別当 鬼谷戸	所在地
高さ 68cm 巾 57cm 総高 cm	高さ 69cm 巾 47cm 総高 cm	高さ 53cm 巾 44cm 総高 cm	高さ 55cm 巾 39cm 総高 63cm	高さ 75cm 巾 50cm 総高 cm	高さ 50cm 巾 34cm 総高 cm	高さ 60cm 巾 36cm 総高 cm	高さ 73cm 巾 55cm 総高 cm	高さ 90cm 巾 71cm 総高 cm	高さ 52cm 巾 54cm 総高 84cm	方量
不明	不明	不明	延享元	文化5	不明	寛延元	不明	明和4	明和元	年代
道祖神	道祖□	道祖神	延享元年 六月吉日	文化五戊辰年 道祖神 孟夏大吉祥日 施主中島伝右衛門		寛延元年 一月吉日	道祖神 当所 有坂氏	道祖神 明和四年丁亥 正月大吉祥日	明和元年	銘文
	神の文字 舗装に埋まる		三差路	傘古屋			奇石なし			備考

安中市

80	79	78	77	76	75	74	73	72	71	番 形
②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	所在地
板鼻 国道十八号 階橋下	上野山坂 (中殿小腹)	上野山坂 (中殿小腹)	板鼻小丸田 三叉路	板鼻一区 大乘院石段下	板鼻本町 二一・二九ノ一 彰忠碑前	高别当 天照寺	小俣清沢	小俣清沢	小俣清沢	
高さ126cm 巾96cm 総高さ	高さ74cm 巾37cm 総高さ	高さ31cm 巾17cm 総高さ	高さ75cm 巾42cm 総高さ	高さ70cm 巾70cm 総高さ	高さ85cm 巾150cm 総高さ	高さ47cm 巾26cm 総高さ	高さ40cm 巾34cm 総高さ	高さ70cm 巾45cm 総高さ	高さ34cm 巾31cm 総高さ	方量
安政5	不明	不明	享保15 正月吉日	不明	寛政9	不明	不明	宝暦3 五月吉日	不明	年代
安政五戊午歲正月吉祥日	道祖神			道祖 □	寛政九、正月十四日建立 主神 柏若者 副神 山十六代 早白 物奉持形(巨大)			宝暦三年 道祖神 当村 内田氏		銘
祝言形 下部土中に埋没		異下一小さい 双体像		下部約半分土 に埋まる	宿場女郎達の建 立した双体像(器 物奉持形(巨大)	擁肩把手				文
										備考

89	88	87	86	85	84	83	82	81	番 形
②	②	②	②	②	②	②	②	②	所在地
築 一枚畑橋西	築 瀬公會堂 北側	築 城山稲荷	築 城山稲荷	一里山 杉並木	原市馬場	悪 勤乗院 途	谷 津舞台横町 四ツ角	板鼻下町 清水氏宅傍	
高さ60cm 巾38cm 総高さ70cm	高さ72cm 巾38cm 総高さ82cm	高さ90cm 巾70cm 総高さ90cm	高さ100cm 巾105cm 総高さ100cm	高さ58cm 巾50cm 総高さ73cm	高さ75cm 巾150cm 総高さ150cm	高さ30cm 巾54cm 総高さ57cm	高さ100cm 巾60cm 総高さ100cm	高さ150cm 巾100cm 総高さ150cm	方量
不明	不明	不明	安永7	不明	文政12	寛政3	文化5	寛政4	年代
(女性から男性へ話し掛け型)	(肩たき搦手型)	道祖神 明和□天 正月吉祥日	道祖神 安永七戌天 正月吉日	道祖神 一里山	道祖神 文政十二年己丑 夏四月吉辰 高橋平右衛門	道祖神 寛政三年亥 十一月吉日 悪達村	道祖神 文化五戌辰年 正月吉日 有徳教書	寛政四年十一月十四日 寛政五年正月十一日 江戸(二百一)里半十 日光(三十三)里半十 善光寺(二十八)里三十三 榑名山(四)里半 加判所(九十二)里半	銘
					篆 書 体			◎自然石 道標	備考

119	118	117	116	115	114	113	112	111	110	番形
②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②
岩 石 入 山 古 墳 口	岩 石 入 山 古 墳	水 境 第 一 公 會 堂	大 白 山 一 郷 神 社	郷 原 山 本 家 宅 地	古 屋 茂 木	原 市 茂 木	茂 木 神 社	茂 木 裏	茂 木 裏	所 在 地
高 さ 85 cm 巾 65 cm 総 高 85 cm	高 さ 16 cm 巾 70 cm 総 高 86 cm	高 さ 70 cm 巾 50 cm 総 高 100 cm	高 さ 60 cm 巾 45 cm 総 高 70 cm	高 さ 100 cm 巾 100 cm 総 高 100 cm	高 さ 60 cm 巾 55 cm 総 高 60 cm	高 さ 57 cm 巾 40 cm 総 高 77 cm	高 さ 60 cm 巾 60 cm 総 高 60 cm	高 さ 80 cm 巾 65 cm 総 高 94 cm	高 さ 68 cm 巾 50 cm 総 高 80 cm	方 量
寛 政 8	寛 政 13	天 明 8	不 明	安 永 3	寛 政 4	延 享 元	天 保 4	明 和 8	天 保 6	年 代
道 街 神 寛 政 十 三 辛 酉 天 建 之	道 隣 神 正 月 吉 日 寛 政 八 丙 辰 年	道 祖 □ □ □ □ 天 明 八 戊 申 二 月 吉 日	道 隣 神	道 祖 神 安 永 三 年 甲 十 一 月 吉 日	道 祖 神 寛 政 四 壬 子 十 月 日	道 祖 神 延 享 元 年 六 月 吉 日 (軍 ば い 手 ひ き 型)	道 祖 神 天 保 四 癸 巳 年 大 陸 吉 日	道 祖 神 明 和 八 年 卯 四 月 吉 日 茂 木 原 市	道 祖 神 天 保 六 乙 未 正 月 吉 日	銘 文
										備 考

129	128	127	126	125	124	123	122	121	120	番形
②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②
上 後 閑 宮 掛 諏 訪 神 社 境 内	野 殿 (中 村)	野 殿 前 屋 敷 白 石	大 谷 常 楽 寺	水 境 第 一 公 會 堂	水 境 第 一 公 會 堂	聖 殿 前 屋 敷 白 石 家 墓 地	聖 殿 前 屋 敷 白 石 家 墓 地	岩 井 白 山 比 羊 神 社 境 内	岩 井 石 尊 山 古 墳 口	所 在 地
高 さ 50 cm 巾 40 cm 総 高 72 cm	高 さ 80 cm 巾 45 cm 総 高 80 cm	高 さ 70 cm 巾 50 cm 総 高 80 cm	高 さ 38 cm 巾 35 cm 総 高 38 cm	高 さ 50 cm 巾 30 cm 総 高 70 cm	高 さ 90 cm 巾 40 cm 総 高 110 cm	高 さ 65 cm 巾 60 cm 総 高 95 cm	高 さ 95 cm 巾 45 cm 総 高 125 cm	高 さ 94 cm 巾 45 cm 総 高 111 cm	高 さ 75 cm 巾 35 cm 総 高 75 cm	方 量
不 明	不 明	不 明	不 明	宝 暦 2	不 明	寛 政 4	享 和 3	不 明	宝 暦 6	年 代
	道 祖 神 常 村 □ □ □ □	(合 掌) □ □ □ □ 十 月 日	(握 手)	握 手 宝 暦 二 天 上 面 欠 損 □ 月 吉 日	水 境 村	道 祖 神 寛 政 四 壬 歲 九 月 大 吉 日	道 祖 神 享 和 三 亥 年 十 月 吉 日	道 祖 神	道 隣 神 宝 暦 六 年 子 十 一 月 吉 日	銘 文
					祝 言 形					備 考

139	138	137	136	135	134	133	132	131	130	番形
上後 藤木	上後 大平	上後 宮ノ上	上後 宮ノ上	上後 青木	上後 青木	上後 龍谷戸	上後 杉山の中	上後 榜久保村入口	上後 渋川氏宅裏	上後 宮掛
高さ 57cm 巾 35cm 総高 80cm	高さ 75cm 巾 53cm 総高 87cm	高さ 40cm 巾 27cm 総高 50cm	高さ 77cm 巾 42cm 総高	高さ 37cm 巾 35cm 総高 61cm	高さ 62cm 巾 37cm 総高 93cm	高さ 74cm 巾 45cm 総高 88cm	高さ cm 巾 cm 総高 cm	高さ 84cm 巾 35cm 総高	高さ 55cm 巾 38cm 総高	方量
不明	不明	不明	明和4	不明	不明	不明	享保14 月吉日	不明	不明	年代
			明和四年十一月吉日	(双体合掌)	寛延四年		享保十四酉天	寛四	道祖神	銘
(合掌)	舟形 (合掌)	舟形 (合掌)	捕肩握手像		双体合掌像	捕肩握手型	享保欠損			備考

149	148	147	146	145	144	143	142	141	140	番形
上後 三ツ木諏訪社	上後 原町田家西	上後 原前八津	上後 西久保	上後 大沢	上後 山田	上後 山田	上後 堀之内橋際	上後 笹原社宮祠	上後 中島氏宅庭	上後 笹原
高さ 75cm 巾 60cm 総高	高さ 70cm 巾 45cm 総高 90cm	高さ 65cm 巾 60cm 総高 80cm	高さ 61cm 巾 40cm 総高	高さ 61cm 巾 34cm 総高 81cm	高さ 66cm 巾 59cm 総高 71cm	高さ 61cm 巾 44cm 総高 90cm	高さ 61cm 巾 cm 総高 cm	高さ 48cm 巾 40cm 総高 78cm	高さ 53cm 巾 51cm 総高 62cm	方量
安永8	延享元 八月日	元文5 二月吉日	宝暦4	寛延3 庚午天 十月吉日	安永4 六月吉日	享和元 西八月吉日	不明	不明	文政9	年代
道祖神 六月吉祥日	延享元年 八月日	元文五年 二月吉日	宝暦四年	寛延三年 庚午天 十月吉日	安永四年 六月吉日	享和元年 西八月吉日			文政九年二月吉日	銘
自然石	破風形 握手捕肩	舟形合掌	舟形・合掌	舟形 握子・捕肩	舟形 握手・捕肩	舟形 握手・捕肩	捕肩握手	捕肩握手	相向い 手つなぎ	備考

安中市

159	158	157	156	155	154	153	152	151	150	番 形
㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	所在地
中後 小井戸中島家東	中後 山寺中里 墓地入口	中後 山寺尼寺	中後 山寺尼寺	上後 山寺尼寺	上後 山寺尼寺	上後 山寺中山家南	上後 三ツ木観音堂	上後 三ツ木諏訪社	上後 三ツ木諏訪社	所在地
高さ 64cm 巾 45cm 総高 69cm	高さ 71cm 巾 43cm 総高 95cm	高さ 97cm 巾 80cm 総高 106cm	高さ 55cm 巾 56cm 総高 67cm	高さ 43cm 巾 36cm 総高 65cm	高さ 90cm 巾 56cm 総高 115cm	高さ 70cm 巾 50cm 総高 90cm	高さ 60cm 巾 60cm 総高 90cm	高さ 73cm 巾 70cm 総高 82cm	高さ 55cm 巾 50cm 総高 65cm	方量
不明	延享4	文化6	文政2	不明	不明	不明	寛政3	明和9	文政6	年代
	延享四年 十一月吉日	文化〆己巳 寺ノ大成成國成立名同給 遺徳田學大神 或本尊現地給呼 大日尊皇 相傳皇國御孫々々	文政二年 四月吉日				道祖神 寛政三年 正月吉辰 施主	道祖神 明和九年 二月八日	道祖神 文政六年 九月吉辰	銘 文
舟 握子	舟 握子		男神が女神の 手をひいてい ごなう姿	対面抱擁型	舟 握子	合 掌型	自然 石	自然 石	自然 石	備考

169	168	167	166	165	164	163	162	161	160	番 形
㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	所在地
下後 高見	下後 高見	下後 山王	下後 金藏	下後 金藏	下後 大上サ	上後 大平	上後 宮ノ上	上後 向原	上後 柿平	所在地
高さ 48cm 巾 35cm 総高 63cm	高さ 81cm 巾 58cm 総高 106cm	高さ 90cm 巾 80cm 総高 93cm	高さ 63cm 巾 54cm 総高 76cm	高さ 55cm 巾 44cm 総高 76cm	高さ 63cm 巾 54cm 総高 83cm	高さ 72cm 巾 54cm 総高 83cm	高さ 47cm 巾 25cm 総高 57cm	高さ 75cm 巾 41cm 総高 88cm	高さ 60cm 巾 43cm 総高 75cm	方量
享保10	寛政10	天明元	寛政3	不明	不明	不明	不明	明和5	文化14	年代
正月吉日 享保十年 施主□□	道祖神 十一月吉日 村中	道祖神 十一月吉日 山王村中	道祖神 正月吉日 寛政三年					明和五年 十二月吉日	文化十四酉天 □月吉日	銘 文
			自然 石	合 掌形	舟 握子形	合 掌形	合 掌形	舟 握子	合 掌	備考

179	178	177	176	175	174	173	172	171	170	番形
㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	所在地
下後開 松久保	下後開 松久保	下後開 松久保 田中家墓地	下後開 松久保	下後開 丹生公会堂	下後開 北野	下後開 北野	下後開 芝原	下後開 牛ノ入	下後開 別所	所在地
高さ 59cm 巾 38cm 総高 72cm	高さ 52cm 巾 45cm 総高 63cm	高さ 89cm 巾 82cm 総高 95cm	高さ 15cm 巾 71cm 総高 95cm	高さ 85cm 巾 45cm 総高 95cm	高さ 50cm 巾 27cm 総高 70cm	高さ 65cm 巾 42cm 総高 65cm	高さ 50cm 巾 33cm 総高 60cm	高さ 53cm 巾 35cm 総高 63cm	高さ 35cm 巾 31cm 総高 83cm	量 年代
不明	享保13	万延元	天明2	寛政3	不明	宝暦10	不明	不明	不明	銘
	享保十三 □□ 施主 田中氏	道祖神 九月吉日 万延元申年	道祖神 正月大吉日 天明二次壬寅	道祖神 十一月吉辰 寛政三辛亥		宝暦十		延享 □□		文
横肩握子形	横肩握子形		自然石		合掌形	横肩握子形	合掌形	横肩握子	横肩握子	備考

189	188	187	186	185	184	183	182	181	180	番形
㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	所在地
下秋間 雉子ケ尾入口	下秋間 相水	下秋間 藤の木	下秋間 立石橋	下秋間 立石橋	下秋間 八重巻 沢家前	下秋間 刈又三叉路	下秋間 打越	下秋間 打越	下後開 滑沢	所在地
高さ 60cm 巾 35cm 総高 75cm	高さ 70cm 巾 50cm 総高 95cm	高さ 45cm 巾 35cm 総高 57cm	高さ 50cm 巾 54cm 総高 75cm	高さ 50cm 巾 30cm 総高 60cm	高さ 56cm 巾 30cm 総高 76cm	高さ 52cm 巾 65cm 総高 72cm	高さ 100cm 巾 65cm 総高 120cm	高さ 50cm 巾 35cm 総高 70cm	高さ 70cm 巾 55cm 総高 83cm	量 年代
寛政9	文化5	不明	明治3	文政6	不明	天保2	文化8	不明	不明	銘
道祖神 寛政九年己未□月□日	道祖神 文化五年 辰正月十一日		道祖神 明治三庚年 午二月吉月 桜井かを	道祖神 六政六月吉祥日		正月吉日 天保二年 天	道祖神 文化八歳 當村 未三月十四日	握手型	道祖神	文
		合掌形			合掌形	祝言形			自然石	備考

安中市

199	198	197	196	195	194	193	192	191	190	番形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	所在地
中秋間 三角	中秋間 八貝戸	中秋間 中山崎 中里見家人口	中秋間 宮原 大森神社	中秋間 宮原	中秋間 八貝戸	下秋間 明後沢 (天台)	下秋間 明後沢 (天台)	下秋間 三反田	下秋間 雉子ケ尾	所在地
高さ 60cm 巾 40cm 総高 70cm	高さ 36cm 巾 21cm 総高 51cm	高さ 75cm 巾 63cm 総高 90cm	高さ 15cm 巾 95cm 総高 115cm	高さ 33cm 巾 32cm 総高 48cm	高さ 70cm 巾 48cm 総高 85cm	高さ 73cm 巾 60cm 総高 118cm	高さ 60cm 巾 35cm 総高 60cm	高さ 60cm 巾 42cm 総高 80cm	高さ 55cm 巾 38cm 総高 65cm	方量
不明	不明	不明	宝暦8	不明	宝暦8	不明	不明	不明	不明	年代
(合掌型)	道祖口 新井氏	(肩だき抱擁型)	道祖神 宝暦八年 七月吉日 宮原村	(合掌型)	道祖神 宝暦八戌寅歳 七月吉日	道祖神	(握手抱擁型)	(合掌型)	(握手抱よう型)	銘 文
										備考

209	208	207	206	205	204	203	202	201	200	番形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	所在地
東上秋間 十二	東上秋間 笠刈稲 (上)	東上秋間 刈稲	東上秋間 外城	東上秋間 外城	西上秋間 鮑馬神社南	西上秋間 二軒茶屋 鮑馬神社	西上秋間 二軒茶屋	東上秋間 風戸峠	中秋間 蛇喰	所在地
高さ 50cm 巾 40cm 総高 50cm	高さ 60cm 巾 38cm 総高 78cm	高さ 60cm 巾 33cm 総高 90cm	高さ 55cm 巾 53cm 総高 75cm	高さ 25cm 巾 23cm 総高 40cm	高さ 50cm 巾 30cm 総高 50cm	高さ 54cm 巾 30cm 総高 74cm	高さ 50cm 巾 45cm 総高 70cm	高さ 100cm 巾 46cm 総高 128cm	高さ 50cm 巾 35cm 総高 50cm	方量
不明	不明	不明	天保3	不明	文政12	不明	文政8	宝暦3	不明	年代
(合掌型)	(合掌型)	(合掌型)	道祖神 天保三 壬辰春	(屋根付 合掌型)	道隠神 文政十二年 丑正月吉日	(合掌型) □曆□年	(もちつき道祖神) 三月吉日 文政八年	道祖神 標名山 野火除火防 妙義山 九月吉日 宝暦三年	(肩だき抱擁型)	銘 文
							だし いたみはなは	道に ある山 の街 道で	道に ある山 の街 道で	備考

219	218	217	216	215	214	213	212	211	210	番形
㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	所在地
西上秋間 平上 上間 月	西上秋間 較若沢	西上秋間 滝之入 山の神	西上秋間 滝之入 山の神	西上秋間 滝之入 山の神	東上秋間 久保薬師堂	東上秋間 久保薬師堂	東上秋間馬 田鳥家墓地	東上秋間馬 内出城大手	東上秋間 十二	
高さ50cm 巾30cm 総高さ65cm	高さ60cm 巾38cm 総高さ80cm	高さ56cm 巾38cm 総高さ69cm	高さ75cm 巾34cm 総高さ100cm	高さ54cm 巾23cm 総高さ154cm	高さ39cm 巾24cm 総高さ52cm	高さ39cm 巾24cm 総高さ52cm	高さ65cm 巾45cm 総高さ75cm	高さ30cm 巾40cm 総高さ45cm	高さ95cm 巾60cm 総高さ115cm	方量
不明	宝曆10	不明	不明	宝曆7	文政8	文政8	不明	不明	天保11	年代
(合掌型) 宝曆□年 □月□日	宝曆十一年庚子 二月廿七日 明和元年申 三月廿七日	(合掌型)	(合掌型)	(合掌型) 宝曆七年 □月吉日	弘化(己巳)年 三月廿七日 文政八年 九月吉日 當村中	道祖神 九月吉日 當村中	(肩抱き握手型) 内出村	(肩抱き握手型) 内出村	道祖神 天保十一年庚子 春三月建之	銘 文
								両首欠損		備考

229	228	227	226	225	224	223	222	221	220	番形
㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	所在地
中秋間 油谷津	西上秋間 二軒茶屋 飽高神社	下秋間 日向	下秋間 日向	下秋間 台	下秋間 明後沢 台	下秋間 明後沢 台	東上秋間 日向	東上秋間 伊豆村 鈴木家墓地	西上秋門 平	
高さ50cm 巾35cm 総高さ50cm	高さ54cm 巾40cm 総高さ74cm	高さ42cm 巾35cm 総高さ67cm	高さ53cm 巾35cm 総高さ71cm	高さ70cm 巾55cm 総高さ70cm	高さ60cm 巾35cm 総高さ80cm	高さ73cm 巾60cm 総高さ118cm	高さ85cm 巾55cm 総高さ95cm	高さ70cm 巾50cm 総高さ70cm	高さ51cm 巾40cm 総高さ63cm	方量
明和元	不明	延享5	宝曆14	天明6	不明	不明	天保2	天明5	萬延元	年代
(屋根付 合掌型) 明和元年申歲	□曆□年 □月□日	(肩抱き握手型) 延享五年 八月吉日	(組) 宝曆十四甲申年 四月吉日	道祖神 天明六年 三月□日	(肩抱き握手型)	道祖神	奉建立道祖 天保二子辰・卯月吉日	道祖神 天明五乙巳年 九月吉日	道祖神 萬延元庚申年 □月□日	銘 文
										備考

229	228	227	226	225	224	223	222	221	220	番 形
⊙	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙	所 在 地
中野谷神社	中野谷神社	中野谷 中敷 中の谷神社	中秋間 道場	中秋間道場 入沢家東	中秋間 道場 山の神橋西	中秋間村 宮貝戸村	中秋間山崎 大沢之氏前	中秋間山崎 大沢之氏前	中秋間 山崎 中里見家	所 在 地
高さ 74cm 巾高 46cm 総高 96cm	高さ 16cm 巾高 15cm 総高 15cm	高さ 14cm 巾高 12cm 総高 12cm	高さ 45cm 巾高 34cm 総高 45cm	高さ 95cm 巾高 45cm 総高 110cm	高さ 15cm 巾高 50cm 総高 115cm	高さ 70cm 巾高 50cm 総高 116cm	高さ 55cm 巾高 58cm 総高 55cm	高さ 89cm 巾高 70cm 総高 99cm	高さ 71cm 巾高 65cm 総高 71cm	方 量
宝暦6	安永7	安永7	不 明	文化2	文化4	弘化5	天保2	不 明	天保2	年 代
道祖神 宝暦六年	道祖神 十一月吉日 安永七年 安永七年 上宿	道祖神 十一月吉日 安永七年 上宿	(合掌型)	道祖神 文化二年 當村中	道祖神 三月吉日 文化四年 卯歳	道祖神 弘化五年 申正月 宮貝戸村	道祖神 正月吉日 天保二年	道祖神 山崎村	道祖神 天保二年 卯正月 吉日 當村	銘 文
			思賀と同じ							備 考

249	248	247	246	245	244	243	242	241	240	番 形
⊙	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙	⊙	所 在 地
上 平	鷺宮 居内江 消防小屋	鷺宮 居内百庚神南	鷺宮 宮本公民館	鷺宮五賀 観音堂内	鷺宮 咲雨神社南 桜林	鷺宮 文珠寺道場	鷺宮 羊神社	中野谷久保新田	中野谷神社	所 在 地
高さ 85cm 巾高 56cm 総高 100cm	高さ 40cm 巾高 90cm 総高 60cm	高さ 50cm 巾高 13cm 総高 13cm	高さ 80cm 巾高 80cm 総高 120cm	高さ 76cm 巾高 50cm 総高 100cm	高さ 60cm 巾高 40cm 総高 85cm	高さ 89cm 巾高 52cm 総高 110cm	高さ 88cm 巾高 64cm 総高 120cm	高さ 13cm 巾高 80cm 総高 16cm	高さ 68cm 巾高 83cm 総高 90cm	方 量
明和4	宝暦2	不 明	天明2	宝暦13	宝暦14	明和5	嘉永元	安永9	宝暦11	年 代
道祖神 十二月吉辰 明和四年 上平 村中	道祖神 □月日 宝暦二年 天	道祖神	道祖神 赤生吉日 天明二年 (壬子)	道祖神 未正月吉日 宝暦十三年 村伍賀 村中	道祖神 甲十二月吉日 宝暦十四年	道祖神 正月吉日 明和五年 戊子年	道祖神 季冬良辰 嘉永元年	道祖神 三月吉日 安永九年 庚子年	道祖神 □正月吉日 宝暦十一年 己年	銘 文
										備 考

259	258	257	256	255	254	253	252	251	250	番形
㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	所在地
下間仁田 三間橋北	下間仁田 日影	上間仁田 崇台山登呂	中間仁田 久保川橋南	中間仁田 久保川橋南	前小峯 川南	前小峯 川南	前小峯 円明寺	後小峯	上平西	所在地
高さ 70 cm 巾 80 cm 総高 90 cm	高さ 65 cm 巾 60 cm 総高 95 cm	高さ 44 cm 巾 30 cm 総高 70 cm	高さ 36 cm 巾 21 cm 総高 60 cm	高さ 60 cm 巾 37 cm 総高 80 cm	高さ 98 cm 巾 60 cm 総高 111 cm	高さ 90 cm 巾 60 cm 総高 165 cm	高さ 70 cm 巾 65 cm 総高 90 cm	高さ 90 cm 巾 75 cm 総高 100 cm	高さ 90 cm 巾 56 cm 総高 105 cm	方量 年代
不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	安政 6	不明	明和 5	銘 文
道祖神	道祖神	道祖神	道陸神	道祖神	道祖神 寛政十一己未 正月吉祥日	道陸神	道祖神 安政六己未年 正月吉祥日	道祖神	道祖神 明和五歲 正月吉吉(日)	銘 文
				焼けている。						備考

265	264	263	262	261	260	番形
㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	所在地
上平	上間仁田	上間仁田 久保川橋南	上間仁田 崇戸山登り口	上間仁田 崇戸山登り口	上平	所在地
高さ 53 cm 巾 52 cm 総高 68 cm	高さ 40 cm 巾 30 cm 総高 65 cm	高さ 26 cm 巾 31 cm 総高 45 cm	高さ 43 cm 巾 30 cm 総高 75 cm	高さ 44 cm 巾 30 cm 総高 70 cm	高さ 53 cm 巾 52 cm 総高 70 cm	方量 年代
不明	不明	不明	不明	不明	不明	銘 文
		(合掌) 延五 □□□	(揮手)			備考
		いる 半分に欠けて	明賀と同じ形	松井田町入山		備考

北橋村

10	9	6	7	6	5	4	3	2	1	番 形	北 橋 村
②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	所在地	
小室第二 銭神塚 三柱神社	小室第二 銭神塚 三柱神社	小室第一 宮之下 白山神社跡	小室第一 宮之下 白山神社跡	小室第一 上山田八幡宮跡	分郷八幡 八幡宮	八幡北町 双玄寺	八幡北町 天徳寺墓地	八幡日向 堀口和三雄宅 北衣笠様	八幡舟戸 北向の大黒様		
高さ 52cm 巾 34cm 総高 cm	高さ 47cm 巾 28cm 総高 cm	高さ 73cm 巾 36cm 総高 cm	高さ 59cm 巾 39cm 総高 cm	高さ 40cm 巾 30cm 総高 cm	高さ 46cm 巾 46cm 総高 78cm	高さ 95cm 巾 76cm 総高 cm	高さ 60cm 巾 35cm 総高 cm	高さ 54cm 巾 30cm 総高 cm	高さ 50cm 巾 35cm 総高 cm	方量	
安永3	不	明和6	明和3	文政6	弘化2	弘化3	不	文化5	安永9	年代	
安永3 ^甲 年 十月吉日		明和六歳己三月吉日	明和三年 戌十一月一日	文政六 ^癸 年 十月吉日	(石) 弘化二己年十二月吉日 西曲輪中 水木和順	弘化三 ^丙 年六月吉日	弘化二 ^乙 年 四月吉日	文化五 ^{戊辰} 年 十二月吉日 施主 久保中 世話人 左衛門直八	安永九 ^{庚辰} 年七月吉日	銘	
										文	
										備考	

20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	番 形	北 橋 村
②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	所在地	
下箱田 木曾三柱神社	箱田木曾三柱神社 今井藤三宅前	箱田 東前原 火の見櫓下	上箱田 石田 甘酒地藏	上箱田 屋敷前 観音山墓地	上箱田 石田 石田正治宅北	上南室 上指倉 正善寺	下南室 東谷戸	下南室 上松原 観音堂	下南室 中谷戸 馬落観音		
高さ 50cm 巾 30cm 総高 cm	高さ 54cm 巾 34cm 総高 cm	高さ 56cm 巾 42cm 総高 cm	高さ 47cm 巾 31cm 総高 63cm	高さ 60cm 巾 34cm 総高 cm	高さ 50cm 巾 30cm 総高 68cm	高さ 59cm 巾 40cm 総高 84cm	高さ 70cm 巾 80cm 総高 cm	高さ 52cm 巾 25cm 総高 cm	高さ 44cm 巾 29cm 総高 cm	方量	
宝曆9	天明3	宝曆10	宝曆6	明和元	文化4	宝曆5	弘化4	宝曆8	寛政6	年代	
宝曆九卯年十月吉日 施主 飯田氏	天明三年 九月吉日	宝曆十辰天 正月吉日 敬白	宝曆六年十一月吉日 （公田善大夫）	明和元年 ^甲 九月吉日	文化四卯年 五月吉日 施主 一人	宝曆五卯年 六月戌日 千木良氏	弘化四丁天 三月□□	宝曆八戊寅年 十月大吉日	寛政六年 寅七月吉日	銘	
										文	
										備考	

上州の道祖神一覧 138頁は
個人情報が含まれるため非公開

46	45	44	43	42	41	番 形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	
真壁 下真壁集会所	真壁 下真壁集会所	真壁 下真壁集会所	真壁 赤城神社	真壁 赤城神社	真壁 赤城神社	所 在 地
高さ 53 cm 巾 26 cm 総高 81 cm	高さ 67 cm 巾 50 cm 総高 90 cm	高さ 55 cm 巾 26 cm 総高 77 cm	高さ 64 cm 巾 12 cm 総高 76 cm	高さ 57 cm 巾 26 cm 総高 75 cm	高さ 45 cm 巾 30 cm 総高 61 cm	方 量
文化12	天保14	安永8	弘化4	安政5	享保3	年 代
道祖神 文化十二乙亥年 十一月吉日	道祖神 天保十四甲申正月吉日 当邑子供中	道祖神 安永八亥年 四月吉日	道祖神 弘化四丁未正月吉日 子供中	道祖神 安政五年壬午正月吉日 安真壁村	道祖神 吉田氏 享保三戌九月	銘 文
						備 考

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	番 形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	
持柏木 十二様	持柏木 極楽院	棚下 不動尊	長井小川田(八区) 一三六〇の一	敷島 五一	津久田(四区) 龍泉寺	津久田(二区) 六九五	津久田(二区) 一九六	津久田(二区) 六万	津久田(二区) 八四三の一	所 在 地
高さ 36 cm 巾 33 cm 総高 76 cm	高さ 45 cm 巾 37 cm 総高 56 cm	高さ 34 cm 巾 37 cm 総高 53 cm	高さ 47 cm 巾 27 cm 総高 67 cm	高さ 48 cm 巾 36 cm 総高 50 cm	高さ 57 cm 巾 31 cm 総高 88 cm	高さ 47 cm 巾 30 cm 総高 57 cm	高さ 35 cm 巾 35 cm 総高 53 cm	高さ 40 cm 巾 33 cm 総高 55 cm	高さ 32 cm 巾 38 cm 総高 51 cm	方 量
安永5	宝暦12	不 明	不 明	寛延元	明和3	不 明	不 明	不 明	天保12	年 代
安永五歳申四月吉日 草葉	宝暦十二壬午季春	鳥		寛延元年辰十月吉日 □□□□	道祖神 明和三月戊八月吉日 村内繁昌□		願主 狩野清七		天保十二丑年八月吉日	銘 文
										備 考

20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	番形
㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	所在地
上三原田 日向	上三原田 地藏塚	上三原田 甲八六一	上三原田 大門	滝沢 一五七	見立 前原	北山野 小平	溝呂木 諏訪神社	持柏木 極楽院	持柏木 極楽院	所在地
高さ44cm 巾69cm 総高さ61cm	高さ75cm 巾79cm 総高さ95cm	高さ52cm 巾32cm 総高さ77cm	高さ41cm 巾28cm 総高さ90cm	高さ43cm 巾40cm 総高さ56cm	高さ51cm 巾36cm 総高さ65cm	高さ36cm 巾36cm 総高さ45cm	高さ63cm 巾45cm 総高さ91cm	高さ31cm 巾31cm 総高さ49cm	高さ35cm 巾40cm 総高さ56cm	方量
文化12	文化9	明和6	明和元	宝暦14	不明	寛延4	嘉永4	不明	不明	年代
文化十二乙亥年十一月吉祥日	文化九壬午年十一月吉日蓮中	明和六己丑八月吉日	明和元年甲申九月吉日 道祖神 施主 当所中	宝暦十四甲申歲四月吉辰 施主 卅一人	年□月 見立村	寛延四年未十一月吉日 と改元	嘉永四年丙辰三月吉日 願主 南雲福操	天□吉日 村中子供 敬白	道祖神 □三戌年初冬吉辰	銘文
				改元 宝暦十四年六月二日明和と		寛延四年十月二十七日宝暦と改元				備考

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	番形
㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	所在地
津久田(二区) 卒立	津久田(二区) 北坂	津久田(一区) 八幡	津久田(一区) 二六六の二	津久田(一区) 三四三四の四	舟戸	八幡宮	八幡宮	三原田 八幡宮	上三原田 (仲坪)	所在地
高さ56cm 巾40cm 総高さ77cm	高さ87cm 巾35cm 総高さ100cm	高さ48cm 巾22cm 総高さ48cm	高さ59cm 巾69cm 総高さ100cm	高さ54cm 巾24cm 総高さ59cm	高さ33cm 巾28cm 総高さ59cm	高さ51cm 巾32cm 総高さ65cm	高さ35cm 巾30cm 総高さ50cm	高さ40cm 巾30cm 総高さ70cm	高さ56cm 巾40cm 総高さ91cm	方量
文化11	安永7	文久4	文化15	明和3	宝暦10	宝暦6	宝暦5	宝暦4	不明	年代
文化十一年甲戌八月吉日	道祖神 安永七年戊七月吉日	道祖神 文久四年甲子正月吉日供中	道祖神 文化十五年戊亥秋 津久田村 津久田村	道祖神 平八・弥七・源助・熊八 明和三歳丙戌八月日	宝暦十年四月吉日	宝暦六年丁丑正月吉祥日	宝暦五年乙亥十二月吉日 願主角田氏	宝暦四年甲戌十月吉日		銘文
										備考

赤城村

40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	番 形
②	②	③	③	③	③	③	③	③	③	所在地
敷 堀之内	敷 島	敷 島 八〇一	安 城	津久田(四区) 二八の一	津久田(四区) 二七八五	津久田(四区) 安城一六一五	津久田(二区) 小池原	津久田(二区) 華藏寺	津久田(二区) 六万	所在地
高さ44cm 巾22cm 総高44cm	高さ100cm 巾70cm 総高140cm	高さ57cm 巾24cm 総高67cm	高さ111cm 巾58cm 総高141cm	高さ67cm 巾26cm 総高67cm	高さ48cm 巾23cm 総高65cm	高さ56cm 巾38cm 総高71cm	高さ94cm 巾61cm 総高111cm	高さ100cm 巾47cm 総高147cm	高さ100cm 巾37cm 総高137cm	方量
文政9	天明3	宝暦14	不 明	慶応2	文化10	寛政8	慶応2	文政元	文政3	年代
道祖神 文政九年十二月吉日	道祖神 天明三年八月良辰 当邑	道祖神 宝暦十四年卯月吉日 持摩山岸中谷戸子供中	道祖神	道祖神 慶応二年三月吉日	道祖神 願主 狩野松四郎 文化十四月十日	道祖神 寛政八年五月天 狩野長兵衛	道祖神 小池原 子供中 慶応二年三月吉日	道祖神 文政元年歳子	道祖神 文政三年庚辰歳弥生良辰 当邑小子輩連鼓印護書田	銘 文
										備考

50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	番 形
②	②	③	③	③	③	③	③	③	③	所在地
勝保沢 諏訪神社	北上野 小平	濱呂木 諏訪神社	棚 下 十二宮	長井小川田(八区) 久保坂	長井小川田(七区) 四九一	長井小川田(七区) 一四一一	長井小川田(七区) 藤木稲荷様	清 水	敷 堀之内	所在地
高さ62cm 巾25cm 総高95cm	高さ61cm 巾29cm 総高61cm	高さ48cm 巾24cm 総高53cm	高さ100cm 巾43cm 総高143cm	高さ95cm 巾65cm 総高135cm	高さ106cm 巾63cm 総高136cm	高さ130cm 巾67cm 総高137cm	高さ102cm 巾61cm 総高122cm	高さ113cm 巾80cm 総高133cm	高さ44cm 巾22cm 総高44cm	方量
明和4	不 明	文久2	天保3	安永5	文久4	弘化2	文化4	元治2	文政9	年代
道祖神 明和四歳亥十月吉日	道祖神	道祖神 文久一三歳九月吉日 法印齋盛書	道祖神 天保三年霜月大吉日 子供中	道祖神 安永五年丙申中秋良辰 小子輩連	道祖神 文久四年丙辰正月小川田	道祖神 弘化二年乙巳歳癸月吉日 上南雲小供連	道祖神 文化四年丁卯年六月吉日 子供中	道祖神 元治二年正月吉日 清水子供中	道祖神 文政九年戊辰年四月吉日 願主 長尾氏	銘 文
	行 書 体									備考

60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	番形
②	②	③	③	③	③	③	③	③	③	所在地
三原田 八幡峰	三原田 観音堂	三原田 八幡宮	三原田 八幡宮	三原田 八幡宮	上三原田 仲坪	上三原田 八幡宮	滝沢 御所谷戸	見立 仲井	見立 上大窪	
高さ 42cm 巾 19cm 総高 57cm	高さ 30cm 巾 18cm 総高 30cm	高さ 84cm 巾 40cm 総高 15cm	高さ 88cm 巾 37cm 総高 12cm	高さ 178cm 巾 87cm 総高 26cm	高さ 64cm 巾 40cm 総高 93cm	高さ 74cm 巾 32cm 総高 17cm	高さ 37cm 巾 30cm 総高 45cm	高さ 80cm 巾 41cm 総高 80cm	高さ 44cm 巾 33cm 総高 44cm	方量
不明	不明	文久2	文政3	寛政12	不明	天明2	文化12	不明	不明	年代
道祖神	道祖神	道祖神 文久二戊辰正月良辰	道祖神 文政三 <small>寛政</small> 四月大吉拜日	道祖神 寛政十二 <small>文政</small> 秋九月吉辰 村中	道祖神	道祖神 天明二寅歳九月吉祥日	道祖神 文化十二 <small>文政</small> 年十一月吉日 願主諸田左兵衛	道祖神	道祖神 見口鳥山園	銘文
		行書体		行書体		行書体	行書体	行書体	行書体	備考

67	66	65	64	63	62	61	番形
②	③	②	③	②	③	③	所在地
宮 不動堂	宮 大田島	宮 北田	宮 不動	樟 八幡宮	樟 舟戸	三原田 八幡峰	
高さ 55cm 巾 50cm 総高 55cm	高さ 47cm 巾 26cm 総高 47cm	高さ 40cm 巾 22cm 総高 44cm	高さ 67cm 巾 29cm 総高 82cm	高さ 88cm 巾 29cm 総高 88cm	高さ 80cm 巾 40cm 総高 77cm	高さ 80cm 巾 32cm 総高 72cm	方量
寛政10	寛政元	安永4	安永4	弘化5	文化7	不明	年代
道祖神 当所小供輩造之	道祖神 寛政元 <small>文政</small> 九月	道祖神 安永四年 仲秋吉日	道祖神 安永四年 <small>乙未</small> 十月 施主口邑中	道祖神 弘化五 <small>文政</small> 正月吉日 子供連	道祖神 文化七年歳次 <small>庚午</small> 孟春吉日当所無道人	道祖神	銘文
							備考

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	番形
⑩	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①	所在地
時 沢 時沢神社境内	時 沢 時沢神社境内	時 沢 時沢神社境内	時 沢 時沢神社境内	時 沢 白河神社境内	時 沢 白河神社境内	時 沢 時沢中島 甚大夫	時 沢 時沢中島 諏訪	時 沢 時沢中島 諏訪	米 野 大聖寺門先	
高さ 120cm 巾 60cm 総高 140cm	高さ 54cm 巾 37cm 総高 91cm	高さ 50cm 巾 43cm 総高 93cm	高さ 60cm 巾 30cm 総高 90cm	高さ 86cm 巾 55cm 総高 141cm	高さ 85cm 巾 48cm 総高 133cm	高さ 67cm 巾 49cm 総高 98cm	高さ 30cm 巾 30cm 総高 60cm	高さ 44cm 巾 28cm 総高 50cm	高さ 78cm 巾 36cm 総高 57cm	方量
寛保13	宝暦5	延享2	明和6	安永2	寛政3	不 明	不 明	不 明	不 明	年代
神 祖 神 天保十三年壬寅年十一月 新道供養	(双体像) 宝暦五乙亥六月 願主和佐田氏	(双体像) 延享二年十月	(双体像) 明和六己丑十月吉日	道 祖 神 安永一癸巳仲冬吉日	(双体像) 寛政三亥十月吉日	道 祖 神	(双体像)	(双体像)	(双体像) 正月吉日	銘
御 道 供 養						仰 あり	耳 だれ 神 の 信	風 化 甚 し く 銘 文 等 不 明	風 化 甚 し く 銘 文 等 不 明	備 考

20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	番形
⑳	⑲	⑱	⑱	⑱	⑱	⑱	⑱	⑱	⑱	所在地
横 室 十二山	横 室 十二山	横 室 十二山	横 室 横室荒井	横 室 横室沢口 不動堂跡	横 室 横室沢口 不動堂跡	横 室 横室沢口 不動堂跡	時 沢 観音堂境内	原 之 郷 九十九山	原 之 郷 九十九山	
高さ 75cm 巾 39cm 総高 114cm	高さ 65cm 巾 49cm 総高 114cm	高さ 72cm 巾 48cm 総高 120cm	高さ 48cm 巾 34cm 総高 82cm	高さ 40cm 巾 28cm 総高 68cm	高さ 65cm 巾 42cm 総高 107cm	高さ 80cm 巾 46cm 総高 126cm	高さ 58cm 巾 45cm 総高 103cm	高さ 94cm 巾 50cm 総高 144cm	高さ 113cm 巾 45cm 総高 158cm	方量
不 明	寛政元	安永7	明和6	寛政5	天明7	不 明	宝暦7	安政3	寛政元	年代
道 祖 神 都 丸 氏	道 祖 神 寛政元己酉年八月	道 祖 神 安永七戊戌年	(双体像) 明和六己丑年霜月六日	道 祖 神 寛政五丑年六月	道 祖 神 天明七丁巳八月	道 隆 神	(双体像) 宝暦七年二月二十四日	道 祖 神 安政三辰歳三月吉祥日 願主子供中	道 祖 神 寛政元己酉四月吉日 岡 講 中	銘
										文
										備 考

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	番形
小暮梶谷	石井樺沢	石井樺沢	石井二区 井野家裏	米野 十字路西方	横室 十二山	石井二区 空薬師境内	田島 赤城神社	山口 樺沢家前	引田 神明宮境内	所在地
高さ 50cm 巾 90cm 総高 110cm	高さ 70cm 巾 53cm 総高 95cm	高さ 67cm 巾 50cm 総高 70cm	高さ 69cm 巾 40cm 総高 110cm	高さ 66cm 巾 46cm 総高	高さ 75cm 巾 38cm 総高	高さ 58cm 巾 28cm 総高 75cm	高さ 85cm 巾 80cm 総高	高さ 42cm 巾 31cm 総高 70cm	高さ 42cm 巾 25cm 総高	方量 年代
不明	天保10	安永4	寛政9	天明4	天明8	寛政8	安政4	安政4	不明	銘 文 備考
	道祖神 天保十二年 吉日	道祖神 安永四乙未年十一月 吉祥日	神祖神 寛政九丁巳尺十一月 吉祥日 施主九名	天明四甲辰年十一月 吉日 柳井氏	道祖神	寛政八丙辰年八月 吉日 施主小保万氏	道祖神 安政四丁巳年正月 吉日	安政四丁巳年十二月 吉日 樺沢六右衛門	道祖神	

39	38	37	36	35	34	33	32	31	番形
市之木場笠口 墓地内	横室 稚蚕飼育所裏	時沢東区 公民館裏	横室寄居 薬師堂跡	横室寄居 薬師堂跡	横室寄居 薬師堂跡	横室寄居 薬師堂跡	石井小原目 八幡神社境内	小暮梶谷止 池田氏宅	所在地
高さ 59cm 巾 43cm 総高 68cm	高さ 52cm 巾 31cm 総高 68cm	高さ 81cm 巾 43cm 総高	高さ 75cm 巾 35cm 総高	高さ 65cm 巾 49cm 総高 80cm	高さ 75cm 巾 37cm 総高	高さ 72cm 巾 48cm 総高 95cm	高さ 61cm 巾 29cm 総高 70cm	高さ 57cm 巾 34cm 総高	方量 年代
正徳4	不明	寛政10	天明8	寛政元	不明	宝永7	安永4	宝暦10	銘 文 備考
天明四甲午八月 吉日	道祖神	寛政十年八月 吉祥日 池之谷戸	道祖神 天明八申十一月	道祖神 寛政元己酉四月	道祖神	道祖神 宝永七戊戌七月	道祖神 安永四未霜月十六日 中島氏	(宝暦十 双体像) 七月	

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	番 形	大 胡 町
⑩	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①	所在地	
近戸神社入口	河原浜 応昌寺入口	堀越一丁田 (三差路)	堀越字間替戸	横沢字新井 横沢牧場入口	新井公民館境内	滝窪八柱 神社入口	横沢字前原	横沢字向山	上大屋観音堂		
高さ110cm 巾76cm 総高	高さ58cm 巾28cm 総高66cm	高さ87cm 巾35cm 総高113cm	高さ85cm 巾33cm 総高113cm	高さ73cm 巾50cm 総高90cm	高さ86cm 巾56cm 総高97cm	高さ120cm 巾67cm 総高129cm	高さ80cm 巾75cm 総高88cm	高さ85cm 巾55cm 総高96cm	高さ68cm 巾45cm 総高92cm	方量	
不明	文化9	寛政9	文化9	不明	文政5	文政6	不明	不明	文化3	年代	
道祖神	文化九壬申十一月吉日 高岡 向屋舗	道祖神 寛政九丁巳年(裏)当村中 十一月吉日	道祖神 文化第九壬申 仲冬大吉辰	道祖神	文政五年壬午 仲冬吉祥日 鹿賢和敬書	道祖神 文政六癸未天 十一月大吉日 □組	道祖神	道祖神	文化三丙寅年 十一月吉日 当村中	銘文	
										備考	

17	16	15	14	13	12	11	番 形
⑩	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	所在地
足軽町勝山	足軽町勝山	足軽町 龍性寺境内	上ノ町公民館	茂木字山前	消防署東隣 の広場	河原浜小林商店	
高さ40cm 巾26cm 総高	高さ84cm 巾58cm 総高	高さ84cm 巾43cm 総高115cm	高さ120cm 巾38cm 総高120cm	高さ87cm 巾53cm 総高	高さ70cm 巾44cm 総高	高さ83cm 巾80cm 総高	方量
不明	安永10	安政3	不明	寛政7	天保11	文化9	年代
	足軽町中 安永十年 三月日	道祖神 安政三丙辰三月吉日講中	軌祖神 當所 河片鶴源七 包実	寛政七卯年 十一月吉日 (台) 三屋中	道祖神 庚 天保十一年 子 三月吉祥日 村中	文化九壬申十一月吉日 村中	銘文
						源部にペンキ 塗られている	備考

勢多郡宮城村

5 ㊸	4 ㊸	3 ㊸	2 ㊸	1 ㊸	番 形
馬場 八坂神社	苗ヶ島 金剛寺	市之関 住吉神社	市之関 住吉神社	柏倉 東昌寺東	所在地
高さ 162cm 巾 82cm 総高 244cm	高さ 54cm 巾 40cm 総高 94cm	高さ 122cm 巾 76cm 総高 198cm	高さ 83cm 巾 63cm 総高 146cm	高さ 73cm 巾 75cm 総高 148cm	方量
宝暦6	寛政5	天保9	不 明	天明5	年代
↓ 道隠神 敬白 霜月吉日	道祖神 願主 宝暦六丙子歲 除乘	道祖神 崇天保九壬申年 二月吉日	道祖神 十一月吉日	道祖神 天明五己辰 十一月吉日講中	銘 文
	おこぞ頒布				備考

粕川村

10 ㊸	9 ㊸	8 ㊸	7 ㊸	6 ㊸	5 ㊸	4 ㊸	3 ㊸	2 ㊸	1 ㊸	番 形
月田・かじや	月田・戸井	月田・戸井	月田・戸井	粕川女洞 上田享元地 (旧天神社跡)	室沢 第一種蛭 飼育所前	膳 宮崎晴美宅内	膳 集荷所前	中 伊恩田	田 東田面	所在地
高さ 51cm 巾 38cm 総高 63cm	高さ 59cm 巾 39cm 総高 63cm	高さ 48cm 巾 28cm 総高 48cm	高さ 56cm 巾 40cm 総高 77cm	高さ 16cm 巾 85cm 総高 101cm	高さ 90cm 巾 45cm 総高 135cm	高さ 109cm 巾 59cm 総高 168cm	高さ 73cm 巾 52cm 総高 125cm	高さ 70cm 巾 59cm 総高 129cm	高さ 88cm 巾 59cm 総高 129cm	方量
不 明	文化5	不 明	天明9	天保2	天保3	弘化2	弘化5	弘化2	寛政12	年代
天下泰平 園土安稔	道祖神 文化五年 九月九日 願主 真下よし子	道祖神	道祖神 天明九己酉年 二月十五日	道祖神 天保二 竹沢村石工 佐吉	道祖神 天保三千辰	道祖神 弘化二年己丑年十一月吉日	道祖神 弘化五次戊申三月	道祖神 弘化二己巳年四月吉日中村	道祖神 寛政十二年庚申初夏吉日	銘 文
				他に天明天保 (二三基併立)					篆 書 体	備考

新里村

20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	番 形
②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	所 在 地
桶 里 廻	中 寺 後	深 津 近 戸	新 屋	深 津 三 ヶ 尻	深 津 天 王 (八坂神社)	室 沢 ・ 安 通	室 沢 ・ 洞	月 田 富 士 ノ 宮	室 沢 ・ 茂 呂 木	所 在 地
高さ 38cm 巾 37cm 総高 80cm	高さ 64cm 巾 43cm 総高 74cm	高さ 15cm 巾 70cm 総高	高さ 97cm 巾 62cm 総高 130cm	高さ 100cm 巾 100cm 総高	高さ 180cm 巾 70cm 総高 190cm	高さ 37cm 巾 37cm 総高 48cm	高さ 30cm 巾 18cm 総高 60cm	高さ 90cm 巾 60cm 総高 110cm	高さ 40cm 巾 67cm 総高 130cm	方 量
不 明	不 明	不 明	天保4	不 明	文政11	明和3	不 明	天明5	不 明	年 代
	天明 □□	道祖神 □ 煮 □ 并書 □ 組合	道祖神 天保四年秋	石工高遠産馬場住井上源治 天保□□	道祖神 文政十一 当地中	道祖神 明和三年七月十日	道祖神	道祖神 天明五年	道祖神	銘 文
				巨石表面を彫 りくぼめて浮 彫した及体						備 考

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	番 形
②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	所 在 地
山 上 町 組	山 上 町 組	山 上 高 縄	奥 沢 神 社 沢 田	鶴 ヶ 谷 四 辻 屋	大 久 保	大 久 保	高 泉	板 橋	関 前 不 動	所 在 地
高さ 98cm 巾 44cm 総高	高さ 108cm 巾 76cm 総高	高さ 62cm 巾 31.5cm 総高	高さ 75cm 巾 70cm 総高	高さ 15cm 巾 95cm 総高	高さ 100cm 巾 26cm 総高	高さ 77cm 巾 37cm 総高	高さ 48cm 巾 32cm 総高	高さ 82cm 巾 35cm 総高	高さ 100cm 巾 60cm 総高	方 量
元文2	天保15	文化4	不 明	嘉永7	不 明	不 明	寛保3	不 明	弘化3	年 代
元文二丁 奉建立道祖神 山上町地主相田勘七	道祖神 天保十五年辰吉日 町中	道祖神 文化四丁戊年七月吉日	道祖神	道祖神 嘉永七年庚辰 土橋講中	猿田命天鍾女命	道祖神	寛保三	道祖神 左 深沢 右 粕川	道祖神 弘化三丙午四月	銘 文
								巻道標		備 考

新里村

14	13	12	11	番形
②	②	②	②	所在地
藤生沢	小林	常寺境内天立	常広寺境内	
高さ 46cm 巾 27cm 総高	高さ 15cm 巾 66cm 総高	高さ 16cm 巾 110cm 総高	高さ 15cm 巾 93cm 総高	方量
寛政 7	弘化 2	不 明	天保 10	年代
道祖神 寛政七十一年	道祖神 春吉日 弘化二己暮	道祖神	道祖神 天保十〇年 二月吉辰 本町中	銘
				文
				備考

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	番形
②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	所在地
下田沢前田原 下原道上	下田沢津久瀬 果道右	柏山 大笠	柏山 打切り	下田沢鹿角 旧道入口	上田沢沢入 下組天王境内	上田沢沢入 天王境内	涌丸松山 松島宅東	古谷中原 道陸神橋	八木原 塩沢峠道端	
高さ 47cm 巾 22cm 総高 77cm	高さ 52cm 巾 21cm 総高 68cm	高さ 62cm 巾 46cm 総高	高さ 76cm 巾 42cm 総高	高さ 55cm 巾 25cm 総高 77cm	高さ 67cm 巾 22cm 総高 92cm	高さ 47cm 巾 80cm 総高	高さ 38cm 巾 65cm 総高	高さ 32cm 巾 69cm 総高	高さ 32cm 巾 69cm 総高	方量
文政 3	文政 5	不 明	安永 5	文化 7	寛政 3	天明 3	寛政 3	安永 8	不 明	年代
道祖神 文政三辰年七月大吉日 深沢善蔵	道祖神 文政五壬二月吉日 当所 井出清兵衛		安永五申天□□ 願主 遠藤十右工門	道祖神 文化七庚午年五月吉日 鹿角村新井勇右工門	道祖神 寛政三辛未年 願主(七名略) 五月吉日	道祖神 天明三卯四月日 尾池氏	(特) 寛政三亥四月吉日 施主 神山源兵衛	安永八年 八月吉日 石工 惣村中 新五郎	道祖神	銘
兜布型	兜布型	擁明、 握手	握手、 光背型	兜布型	兜布型	自然石	光背型 酒器持	光背型 酒器持	自然石	文
										備考

黒保根村

12	11	番形
㊸	㊷	
下田沢出合原 星野家裏	宿廻川口 笹後	所在地
高さ 55 cm 巾 25 cm 総高 64 cm	高さ 64 cm 巾 62 cm 総高 83 cm	方量
文政 7	不 明	年代
道祖神 申九月吉日	文政 7年	銘
兜布型	縄肩、握手、 うで結びあ 自然石	備考

9	8	7	6	5	4	3	2	1	番形
㊹	㊸	㊷	㊶	㊵	㊴	㊳	㊲	㊱	
大字沢入 黒坂石	大字沢入 黒坂石	大字沢入 大沢寺境内	大字沢入 越名	大字沢入 亀井氏墓地内	大字草木 八沢手前国道	大字草木 高常寺境内	大字草木 高常寺境内	大字神戸 太郎神社境内	所在地
高さ 56 cm 巾 25 cm 総高 cm	高さ 65 cm 巾 42 cm 総高 cm	高さ 24 cm 巾 12 cm 総高 cm	高さ 66 cm 巾 34 cm 総高 cm	高さ 66 cm 巾 26 cm 総高 cm	高さ 60 cm 巾 37 cm 総高 cm	高さ 91 cm 巾 31 cm 総高 cm	高さ 62 cm 巾 30 cm 総高 cm	高さ 60 cm 巾 33 cm 総高 cm	方量
天保 5	明和 2	不 明	不 明	宝暦 7	不 明	不 明	不 明	明和 3	年代
道祖神 天保五年 八月吉日	明和乙酉七月十七日 地主黒坂石			宝暦七丁丑 八月吉日		道祖神		明和三丙戊紀生 七月十五日大録産	銘
自然石				単 体	祝 言 形	位 牌 形			文
									備考

勢多郡東村

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	番 形
㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	所在地
下里見中通り	下里見 北村墓地入口	下里見 重谷戸三差路	下里見八丁目	上大島 中川原橋南	上大島 中川原橋南	上大島 六五四―一 中川原橋南	上大島 中央部四ツ角 小川端	上大島 北村前東	上大島東三差路	所在地
高さ 65cm 巾 47cm 総高 95cm	高さ 58cm 巾 33cm 総高 95cm	高さ 60cm 巾 70cm 総高 70cm	高さ 51cm 巾 36cm 総高 87cm	高さ 83cm 巾 53cm 総高 95cm	高さ 38cm 巾 24cm 総高 45cm	高さ 75cm 巾 45cm 総高 95cm	高さ 10cm 巾 15cm 総高 15cm	高さ 52cm 巾 37cm 総高 85cm	高さ 95cm 巾 45cm 総高 115cm	方 量
不明	享和2	不明	不明	不明	不明	文政6	明和3	享保3	安永7	年 代
	享和 □□		□□ 月吉日	道祖神 正月吉日		道祖神 文政六季□ 玄津吉祥日	道祖神 明和三丙戌歲 正月吉祥日	享保三年 戊戌十一月吉日	道祖神 安永七戌年 孟夏吉日	銘 文
風 化	坐像、 風化	坐 像	舟形、 握手	自然 石	磨耗及 体坐像	自然 石	自然 石	風 化 中部折損跡あり	自然 石	備 考

20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	番 形
㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	所在地
中里見井ノ下 川畔	中里見井ノ下 三差路	中里見根岸	中里見十王堂 以和貴堂庭	中里見十王堂 墓地	中里見根岸 路傍	下里見宮谷戸西	下里見宮谷戸 公民館前	下里見向井	下里見向井 三差路	所在地
高さ 40cm 巾 28cm 総高 60cm	高さ 82cm 巾 55cm 総高 137cm	高さ 50cm 巾 37cm 総高 90cm	高さ 55cm 巾 41cm 総高 80cm	高さ 55cm 巾 45cm 総高 85cm	高さ 60cm 巾 40cm 総高 80cm	高さ 52cm 巾 36cm 総高 82cm	高さ 38cm 巾 32cm 総高 45cm	高さ 45cm 巾 25cm 総高 65cm	高さ 80cm 巾 80cm 総高 111cm	方 量
不明	文久2	不明	寛保3	延享元	延享元	不明	不明	不明	不明	年 代
	道祖神 文久一壬戌正月日		寛保三癸亥年三月吉日	甲子延享元年 七月日	奉納 延享元年 施主 甲子七月大吉日村中					銘 文
握手 握肩	半加工 石	接吻像、 風化	舟 握肩 握手 形	握手、 舟形 下部 地中	握肩 握手 形	磨 握肩、 握手 耗	風 化	合掌坐像 舟形	直径五五センチ 円形くりぬき 酒器持	備 考

標名町

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	番形
㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦
上里見神山 下町 忠堂塔入口	上里見新井 又	上里見吹合 道端	上里見田中 小学校裏	中里見中川 泉福寺北方	中里見塚崎 泉福寺前	中里見塚崎 泉福寺前	中里見塚崎 泉福寺前	中里見塚崎 泉福寺前	中里見井ノ下 川端	所在地
高さ 57cm 巾 37cm 総高 80cm	高さ 56cm 巾 36cm 総高 75cm	高さ 60cm 巾 34cm 総高 80cm	高さ 59cm 巾 46cm 総高 80cm	高さ 35cm 巾 25cm 総高 55cm	高さ 88cm 巾 80cm 総高 15cm	高さ 16cm 巾 48cm 総高 15cm	高さ 61cm 巾 42cm 総高 80cm	高さ 45cm 巾 38cm 総高 65cm	高さ 100cm 巾 60cm 総高 15cm	方量
不明	不明	不明	延宝4	不明	寛政6	不明	元文2	不明	文化2	年代
			延宝四年 十一月吉日		道祖神 寛政六年 正月大吉日		元文二年 道隆神 南村組		道祖神 文化二年 二月日 当村	銘文
風化甚	破風形、合掌	風化、抱擁 接吻像	握手、風化町 指定民俗資 料	舟形、風化	自然石	子円中獻酬形	直徑四一七 寸 舟形、握手	舟形、握手	行書体 自然石	備考

40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	番形
㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦
上里見保古里 墓地前	上里見 天狗山 旧道わき	上里見上神	上里見 神山十王堂	上里見 神山十王堂	上里見 神山中町北	上里見 神山中町北	上里見神山北裏 道祖神場三差路	上里見神山北裏 道祖神場三差路	上里見下町忠堂 塔入口	所在地
高さ 59cm 巾 43cm 総高 79cm	高さ 50cm 巾 48cm 総高 70cm	高さ 52cm 巾 35cm 総高 68cm	高さ 50cm 巾 38cm 総高 70cm	高さ 62cm 巾 46cm 総高 80cm	高さ 62cm 巾 42cm 総高 87cm	高さ 60cm 巾 37cm 総高 90cm	高さ 36cm 巾 35cm 総高 60cm	高さ 41cm 巾 36cm 総高 65cm	高さ 50cm 巾 27cm 総高 75cm	方量
不明	不明	不明	不明	宝曆2	不明	天保11	不明	不明	不明	年代
				宝曆二年三月吉日 本町中		天保十一年 子五月吉日	(神像)	(神像)		銘文
舟形、磨耗	舟形、磨耗	駒形、磨耗	風化頂部欠損	舟形、磨耗	舟形、磨耗 中部折損痕跡	舟形、磨耗 軀持並立	道祖神として 肥る	道祖神として 肥る	風化、立像	備考

番号	所在地	方量	年代	銘文	備考
41	上里見谷力沢 公会堂南	高さ60cm 巾39cm 総高75cm	宝曆5	宝曆五乙未八月吉日	破風形 備用、酒器持
42	上里見間野多胡 神社参道中段	高さ66cm 巾41cm 総高85cm	文化4	文化四卯年 十二月吉日	舟形 酒器持併立
43	上里見間野堀割	高さ64cm 巾40cm 総高84cm	不明		舟形 手
44	上里見間野 堀割北上	高さ55cm 巾46cm 総高80cm	寛政6	寛政六年 寅八月吉日	直徑三六センチ 宝珠形 中に文字刻
45	上里見間野薬師 堂庭	高さ90cm 巾42cm 総高105cm	文化15	千時文化拾五戊辰歳 四月吉日 間野村中	酒器持併立
46	上里見本庄中央左 道わき	高さ54cm 巾33cm 総高54cm	不明		合掌併立? 風化磨耗甚
47	本郷本郷神社	高さ73cm 巾44cm 総高88cm	不明	□□十歳 村中	風化磨耗甚
48	本郷蔵屋敷川畔	高さ92cm 巾44cm 総高109cm	安永5	安永五年 八月吉日	自然石
49	本郷下長 三叉路	高さ66cm 巾65cm 総高115cm	安永4	安永四年 未臘月吉辰	自然石
50	本郷後側	高さ68cm 巾38cm 総高88cm	慶応2	慶応二年丙寅正月穀旦 蘭洲川島達拝書	自然石

番号	所在地	方量	年代	銘文	備考
51	本郷奥原 榎名木戸神社入口	高さ95cm 巾50cm 総高104cm	安永5	道祖神 安永五年 八月吉辰 奥原中	自然石
52	本郷東	高さ80cm 巾45cm 総高103cm	安永9	道祖神 安永九年庚子 九月吉日 本郷村	自然石
53	本郷東	高さ50cm 巾40cm 総高57cm	不明		舟形、合掌
54	本郷東	高さ23cm 巾42cm 総高55cm	不明		自然石
55	本郷鳴入口 三差路	高さ77cm 巾42cm 総高95cm	嘉永7	道祖神 嘉永七年 寅正月吉日	自然石
56	神戸公会堂わき	高さ95cm 巾55cm 総高116cm	天明6	道祖神 天明六年 貸地退立之 九月	自然石
57	神戸公会堂わき	高さ55cm 巾38cm 総高80cm	不明		舟形
58	三ツ子沢板堂	高さ57cm 巾43cm 総高75cm	寛延4	寛延四年辛未拾月吉辰	舟形、合掌
59	三ツ子沢 諏訪神社境内	高さ56cm 巾39cm 総高75cm	不明		舟形、合掌
60	三ツ子沢 諏訪神社境内	高さ57cm 巾20cm 総高77cm	不明		台なし自然石

標名町

70	69	68	67	66	65	64	63	62	61	番形
㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	所在
白岩大門三叉路	十文字東村神社 入口	宮沢下金井原 山王社入口	下宮沢三叉路	中宮沢新旧道 交差路傍	上宮沢十文字道 三叉路傍	宮沢中原中央 路傍	宮沢中原中央 路傍	上ツ子沢中原 道旧道川畔	三ツ子沢 諏訪社境内	所在地
高さ55cm 巾33cm 総高95cm	高さ120cm 巾36cm 総高150cm	高さ100cm 巾81cm 総高181cm	高さ55cm 巾40cm 総高95cm	高さ45cm 巾26cm 総高71cm	高さ65cm 巾35cm 総高100cm	高さ53cm 巾30cm 総高83cm	高さ50cm 巾36cm 総高86cm	高さ60cm 巾47cm 総高107cm	高さ47cm 巾25cm 総高72cm	方量
不明	天保15	文政10	明和4	寛延6	不明	不明	不明	慶応3	不明	年代
	八雲神 当村中世屋人 熊野左右衛門	道祖神 文政十寒之仲冬 当郷中	明和四丁天 六月吉日	寛延元辰年十月日				道祖神 慶応三十年正月	道祖神	銘文
一部欠損	隸書 自然石	行書 自然石	舟形、 握手	舟形、 握手	舟形	舟形、 握肩、 握手	握肩、 握手	半加工石 行書 舟形、 握肩、 握手	台なし、 自然石	備考

80	79	78	77	76	75	74	73	72	71	番形
㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	所在
高浜中西部	高浜中西部 三叉路	高浜中西部 旧道三叉路	高浜駒形神社 境内	高浜遠北 旧道三叉路	高浜遠北旧道	高浜東部竹内木 材前	高浜東部八坂社 わき墓地	高浜東部東北三 叉路傍	白岩新田東坂 路傍	所在地
高さ95cm 巾120cm 総高215cm	高さ48cm 巾36cm 総高84cm	高さ74cm 巾57cm 総高131cm	高さ94cm 巾52cm 総高146cm	高さ150cm 巾75cm 総高225cm	高さ78cm 巾46cm 総高124cm	高さ97cm 巾32cm 総高129cm	高さ56cm 巾27cm 総高83cm	高さ56cm 巾34cm 総高90cm	高さ55cm 巾33cm 総高88cm	方量
天明5	元禄5	安永7	明和8	慶応3	明和4	万延元	不明	寛政2	元禄14	年代
高浜村持主 木暮与五右衛門 天明七年 九月廿日	元禄五年 甲子霜月吉日 奉持主 木暮与五右衛門	安永七年 戊戌 正月吉日 氏子	明和八年卯歲 正月吉日 氏子	道祖神 慶応二年天、正月吉祥辰 皇朝学士間橋守兼沐書 氏子信心若干人	道祖神 明和四年丁丑冬十一月 応木暮氏求 関共筆書	道祖神 堀内氏子中 万延元年申四月吉日		寛政二戌天 七月吉日 施主与五七	元禄十四年巳 八月吉日 施主竹鼻数右衛門	銘文
風化		ハート形 凹形	握肩、 握手	破風形	板状自然石	自然石	板状自然石	合掌併立 舟形	握肩、 握手	備考

90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	番形
㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	所在地
下室田 一五沢辻	下室田一五沢 入口三叉路	下室田 下村花見橋 下旧道	下室田下村 花見町	下室田 駒寄諏訪神 社石垣下	下室田 一五沢入口 三叉路	下室田後科	下室田手長田中	下室田 下手長バス停	高浜坂上旧道端	所在地
高さ50cm 巾25cm 総高不明	高さ47cm 巾25cm 総高不明	高さ81cm 巾80cm 総高不明	高さ54cm 巾37cm 総高不明	高さ52cm 巾37cm 総高不明	高さ55cm 巾39cm 総高不明	高さ46cm 巾32cm 総高不明	高さ88cm 巾95cm 総高不明	高さ85cm 巾62cm 総高不明	高さ95cm 巾45cm 総高不明	方量
不明	不明	不明	不明	不明	元文5	不明	明和5	明和4	明和4	年代
道 口	道祖神			(一神像)	元文五年 十一月吉日		道祖神 明和五年 十一月吉日 当村中	明和四年 十一月吉日	道祖神 明和四年四月吉日	銘文
下部地中	自然石	酒器持?	握手、捕扇	風化、磨滅立 像、道祖神と して記る	舟形	握破風 手形	自然石	舟形、酒器持	新白岩道工事 の時移転	備考

100	99	98	97	96	95	94	93	92	91	番形
㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	所在地
お堂墓地	下室田宮谷戸	下室田大森神社	下室田大日藤 墓地わき	下室田大日藤 墓地わき	下室田 杉山三叉路傍	下室田下村 長年寺 百庚甲山入口	根古屋入口	下室田 根古屋入口	下室田花見町 丹後坂	所在地
高さ84cm 巾84cm 総高不明	高さ90cm 巾50cm 総高不明	高さ39cm 巾25cm 総高不明	高さ38cm 巾22cm 総高不明	高さ57cm 巾37cm 総高不明	高さ70cm 巾45cm 総高不明	高さ80cm 巾67cm 総高不明	高さ81cm 巾73cm 総高不明	高さ61cm 巾39cm 総高不明	高さ60cm 巾40cm 総高不明	方量
安永6	不明	不明	不明	不明	天保13	文政2	不明	不明	不明	年代
道祖神 西九月					道祖神 天保十三年 九月吉辰	庚申塔 文政二年夏 道祖神 長年寺 戸交寿書	道祖神 根古屋忌		(一神像)	銘文
自然石	磨舟形、風化 耗	風化	風化	酒器持形	自然石倒れて いて裏面不明	自然石 庚申路	自然石	合舟掌形	風化磨耗	備考

110	109	108	107	106	105	104	103	102	101	番
㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	形
中室田東打越堂南橋畔	中室田岩城竜田神社	中室田坂爪三差路	中室田藤田三差路墓地前	中室田藤田三差路墓地前	中室田大久保	中室田弁才	中室田谷津三差路	下室田中村旧道	下室田宮谷戸お堂墓地	所在地
高さ55cm 巾41cm 総高さ75cm	高さ75cm 巾64cm 総高さ120cm	高さ67cm 巾48cm 総高さ87cm	高さ65cm 巾55cm 総高さ85cm	高さ60cm 巾45cm 総高さ80cm	高さ52cm 巾38cm 総高さ90cm	高さ60cm 巾48cm 総高さ	高さ46cm 巾33cm 総高さ66cm	高さ47cm 巾34cm 総高さ67cm	高さ56cm 巾40cm 総高さ75cm	方量
享保20	不明	延享元年	享保5	不明	宝暦3	不明	不明	不明	不明	年代
享保二十年 即四月吉日		延享元年 子六月吉日	享保五年 庚子六月吉日 藤田村		宝暦三酉年		□八月吉日 (欠損)			銘文
舟形 握手、 捕扇	リンゴ形 握手、 捕扇	扇	舟形 握手	下部地中 握手、 捕扇	舟形 握手	円形くりぬき 手	手	舟形、 握手	舟形 握手、 捕扇	備考

120	119	118	117	116	115	114	113	112	111	番
㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	形
中室田大田お堂墓地入口	中室田大和田新旧三叉路	中室田大和田新旧三叉路	中室田糖塚南旧道	中室田糖塚南旧道	中室田銭神旧道	中室田公会堂前	中室田市和間お堂墓地入口	中室田伏間三差路	中室田伏間三差路	所在地
高さ57cm 巾36cm 総高さ80cm	高さ65cm 巾32cm 総高さ	高さ60cm 巾42cm 総高さ90cm	高さ60cm 巾36cm 総高さ85cm	高さ65cm 巾42cm 総高さ90cm	高さ60cm 巾37cm 総高さ80cm	高さ54cm 巾34cm 総高さ75cm	高さ55cm 巾34cm 総高さ75cm	高さ60cm 巾40cm 総高さ85cm	高さ78cm 巾60cm 総高さ110cm	方量
不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	享保6	享保3	不明	年代
	道祖神		道祖神				享保六年一月吉日	享保三年 六月吉日	宝暦□□□ 一月吉日	銘文
舟形 風化文字 併立不読	草書 自然石	握手 上部欠損	自然石	舟形 握手	舟形 握手 捕扇	合掌	舟形、 笏持 合掌併立	舟形、 風化 握手、 捕扇	舟形、 神刻 握手、 捕扇	備考

130	129	128	127	126	125	124	123	122	121	番形
㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	所在地
中室田本戸原琴平 宮庭(公会堂)	中室田本戸原琴平 宮庭(公会堂)	中室田本戸原琴平 宮庭(公会堂)	中室田又倉 旧道三叉路	中室田見谷戸 天満宮	中室田久保 十二社	中室田大林	中室田中尾根 庚甲塚	中室田江戸村 大山紙神社境内	中室田大田 お堂墓地入口	所在地
高さ 58cm 巾 34cm 総高 70cm	高さ 52cm 巾 36cm 総高 70cm	高さ 58cm 巾 38cm 総高 80cm	高さ 66cm 巾 50cm 総高 86cm	高さ 73cm 巾 56cm 総高 90cm	高さ 64cm 巾 45cm 総高 85cm	高さ 55cm 巾 40cm 総高 75cm	高さ 57cm 巾 42cm 総高 78cm	高さ 59cm 巾 41cm 総高 90cm	高さ 46cm 巾 33cm 総高 65cm	方量
不明	嘉永元	不明	宝暦7	寛政7	宝暦7	不明	不明	宝暦3	不明	年代
	嘉永元申年 四月吉辰		宝暦七年 丑十一月吉日	寛政七卯九月吉日	宝暦七歳丑 一月吉日			宝暦三年 西四月日		銘
								江戸村		文
風化、 磨耗	舟形、 握手	舟形、 握手	舟形、 握手	舟形、 握手	舟形、 握手、 握肩	風化、 舟形、 握手	舟形、 握手、 握肩	舟形、 握手	舟形、 合掌併立	備考

140	139	138	137	136	135	134	133	132	131	番形
㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	所在地
上室田、齊度 天満宮入口	上室田両庭 業師堂庭	上室田梅ノ木	上室田和久 三叉路	上室田横之内 三叉路	中室田覚神 三叉路	中室田立足墓地 入口三叉路	中室田立足墓地 入口三叉路	中室田立足路	中室田又倉坂下 三叉路	所在地
高さ 62cm 巾 36cm 総高 80cm	高さ 56cm 巾 36cm 総高 76cm	高さ 50cm 巾 34cm 総高 70cm	高さ 48cm 巾 38cm 総高 60cm	高さ 53cm 巾 34cm 総高 75cm	高さ 60cm 巾 46cm 総高 80cm	高さ 51cm 巾 42cm 総高 65cm	高さ 57cm 巾 37cm 総高 70cm	高さ 66cm 巾 41cm 総高 95cm	高さ 53cm 巾 34cm 総高 75cm	方量
不明	安永8	宝暦5	享保7	不明	不明	不明	不明	不明	天保12	年代
	安永八年 四月吉日	宝暦五乙未十一月吉日	享保七年壬子十一月日 村中						天保十二年辛丑□□□□	銘
										文
握手形、 風化	舟形、 酒器持	舟形、 握手	舟形下部地中 握手、握肩	舟形、 握手、 握肩	舟形、 握手、 握肩		合掌形	舟形、 合掌	舟形、 握手、 握肩	備考

棟名町

150	149	148	147	146	145	144	143	142	141	番形
㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	所在地
上室田雨提原道 入口三叉路	上室田雨提原道 入口三叉路	上室田前大石 猿谷道入口	上室田新久沢 三叉路傍	上室田後大石 大石灯籠下	上室田浦沢 公会堂東方	上室田新屋 三叉路傍	上室田上中込 三差路	上室田横之内 三叉路	上室田下中込 旧道三叉路	所在地
高さ 73cm 巾 48cm 総高 95cm	高さ 85cm 巾 38cm 総高 110cm	高さ 100cm 巾 65cm 総高 150cm	高さ 65cm 巾 55cm 総高	高さ 55cm 巾 86cm 総高 70cm	高さ 95cm 巾 65cm 総高	高さ 57cm 巾 50cm 総高 75cm	高さ 61cm 巾 47cm 総高 85cm	高さ 80cm 巾 60cm 総高	高さ 49cm 巾 32cm 総高 60cm	方量
不明	不明	寛政11	不明	不明	不明	宝暦12	安永2	不明	不明	年代
原・雨提	道祖神 原	道祖神 寛政十一乙未 寛政十月吉日 明神前懸主 齊藤七良右衛門			道祖神 村中	宝暦十一年九月日	安永二(三天) 願主 源之助	(自然石)		銘文
舟形 掃屑手 掃屑	自然石	自然石	双神刻 握手 掃屑	舟形	自然石下部地 中	舟形、握手	双神立像 願主 掃屑、酒器持	道祖神地にあり	磨耗、破風 手	備考

156	155	154	153	152	151	番形
㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	所在地
上室田前大石 三叉路	上室田本庄 発電所 用水路わき	上室田中戸 諏訪社跡参道	上室田中戸 諏訪社跡参道	上室田本庄 諏訪社境内前	上室田本庄 諏訪社境内前	所在地
高さ 56cm 巾 34cm 総高 71cm	高さ 52cm 巾 33cm 総高	高さ 43cm 巾 30cm 総高	高さ 48cm 巾 36cm 総高 65cm	高さ 55cm 巾 48cm 総高	高さ 50cm 巾 48cm 総高	方量
不明	不明	宝暦5	宝暦6	延享2	不明	年代
		宝暦五年 亥九月吉日	宝暦六年 子十一月吉日	延享二乙未 七月廿一日 村中		銘文
舟形 掃屑 握手	風化、 握手	握手	舟形、 掃屑 握手	破風、 握手	合掌併立	備考